



福島県立美術館
年報
平成19年度
2007



福島県立美術館 年報

平成19年度

2007

目 次

設置の目的と立地	2
沿 革	3
2007 年度主要記事	4
展示事業	5
・ 常設展	5
・ 常設展示	5
・ 特集展示	14
・ 移動美術館	15
・ 企画展	17
・ 将軍家への献上 鍋島	17
・ 夢のかたち おもちゃと模型のワンダーランド	24
・ 上村松園 伝統と近代	34
・ 生誕 100 年 斎藤清展	39
・ 風刺の巨匠 ドーミエ版画展	44
普及事業	48
広報・出版	55
調査研究	56
収 集	58
保 存	64
管 理	66
運営・組織	70
・ 観覧者数一覧	70
・ 2007 年度予算内訳	71
・ 関係法規	72
・ 施設／設備	76
・ 福島県立美術館友の会活動報告	78
・ 福島県立美術館協力会活動報告	80
・ 委員会等、組織図	81
・ 利用案内	83

設置の目的と立地



福島県立美術館は、すぐれた美術作品にふれることで人々の感受性が高まり、情操が養われ、憩いと喜びのなかに創造の手がかりが得られる場として、1984(昭和59)年7月に、隣接する福島県立図書館とともに設けられました。

この目的のために、収蔵作品の充実をはかり、貴重な文化財である美術品の保存につとめ、継続的な調査研究にもとづく展示・普及事業を積極的に展開するとともに、美術に関するさまざまな情報を提供します。

美術館は、福島市のシンボルであり、憩いの場として親しまれている信夫山のふもとにあります。福島駅からも近く、交通の便もよい場所にありながら、野鳥の声もきこえる静かで落ち着いた環境にあります。60,000m²もの広大な敷地には、樹木や花々、広い芝生や日本庭園があり、散策や休息の場として親しまれています。

美術館と図書館は、多面的な機能と豊富な情報にもとづく、さまざまなサービスを提供することによって、見る・聴く・語る・作る・考える空間として活用していただくことをめざしています。

沿革

1977 年	5 月	文化を考える県民会議を設置
	6-8 月	文化に関する県民意識調査を実施
1978 年	1 月	文化を考える県民会議より「県の文化振興について」を県知事に報告
	7 月	文化振興会議を設置
1979 年	2 月	文化振興会議より「文化振興策の具体策について」を県知事に報告
	3 月	文化施設等整備基金条例制定
	4 月	県教育庁文化課内に文化施設班を置く
	6 月	福島県立美術館基本構想検討委員会を設置（委員 10 人を委嘱）
	12 月	美術品等取得基金条例制定
1980 年	1 月	「福島県立美術館建設基本構想について」を同委員会より知事に報告
	2 月	美術館・図書館の建設地を福島市に決定 版画家斎藤清氏より県に自作 227 点が寄贈される
	4 月	福島県立美術館収集評価委員会を設置（委員 7 人を委嘱） 美術館・図書館の建設地を福島大学経済学部跡地に決定
	5 月	第 1 回収集評価委員会開催、ワイエス「松ぼっくり男爵」他の購入を決定
	12 月	美術館基本設計を委託（大高建築設計事務所）
1981 年	7 月	美術館実施設計を委託（大高建築設計事務所）
1982 年	7 月	美術館設計工事着工
1984 年	3 月	美術館本体工事完了 福島県立美術館条例を議決
	4 月	福島県立美術館設置
	6 月	福島県立美術館博物館所管の県有美術品 365 点を移管
	7 月	開館（22 日） 初代館長に原田實が就任（-1989 年 3 月） 開館記念展第 1 部「戦後の名作に見る人間像」展開催 『所蔵品図録抄』を発行
	10 月	第 1 回運営協議会開催
1986 年	3 月	『研究紀要第 1 号』発行
1989 年	4 月	第二代館長に佐藤昌志が就任（-1990 年 3 月）
1990 年	3 月	『収蔵作品図録 1984-1989』発行
	4 月	館長事務代行を教育長兼務とする（-1992 年 3 月）
1992 年	4 月	第三代館長に長谷部満彦が就任（-2000 年 3 月）
1994 年	7 月	開館 10 周年記念展「ルネサンスの絵画」「日本画の風景」開催
1995 年	6 月	入館者通算 100 万人を記録する
1998 年	4 月	「ピカソ回顧展」開催、67,125 人の観覧者を記録する
1999 年	3 月	屋根改修工事着工
	8 月	屋根改修工事のため 23 日以降常設展を休止（-2000 年 7 月 19 日）
	9 月	通算 100 本目の企画展「生誕 100 年関根正二展」を開催
	10 月	18 日以降臨時休館となる（-2000 年 7 月 19 日）空調機械改修工事（第一期）着工 「移動美術館」開始（第 1 回は喜多方市美術館）
2000 年	3 月	『福島県立美術館所蔵作品選 ポケット・ミュージアム』発行
	4 月	第四代館長に酒井哲朗が就任
	7 月	空調機械工事（第一期）竣工、再開館（20 日）
2001 年	11 月	19 日以降臨時休館となる（-2002 年 4 月 26 日）空調機械工事（第二期）等着工
2002 年	3 月	空調機械工事（第二期）、展示室改修工事竣工（県立図書館空調工事も竣工）
	4 月	再開館（27 日） レストラン「カフェ・ドウ・ミュゼ ムスターシュ」新装開店
	10 月	「美術館友の会（仮称）設立に向けて県民の意見を聴く会」を設置
2003 年	4 月	高校生以下の常設展観覧料金を無料化 「福島県立美術館友の会設立発起人会」を開催、友の会発足
2004 年	6 月	「特定非営利活動法人 福島県立美術館協力会」発足
	7 月	「アート オブ スター・ウォーズ展」開催、77,601 人の観覧者を記録する
	10 月	開館 20 周年記念展「田園の夢」開催
2005 年	3 月	『収蔵作品図録 1990-2005』発行
2006 年	5 月	入館者通算 200 万人を記録する
	8 月	初の県立美術館・図書館連携事業として「アートなおはなし会」を開催
2008 年	3 月	レストラン「カフェ・ドウ・ミュゼ ムスターシュ」閉店

2007 年度主要記事 (2007.4 - 2008.3)

2007 (平成 19)

- 4 月 1 日 臨時休館 (-6 日)
尾形敬副館長・阿部常晴総務課長・伊藤恵美主査着任、佐藤香里学芸員新任
- 4 月 7 日 「コレクション展 I」開幕 (-7 月 1 日)
「将軍家への献上 鍋島」展開幕 (-5 月 20 日)
- 4 月 22 日 「将軍家への献上 鍋島」展講演会 (講師：大橋康二氏 於講堂)
- 4 月 29 日 「将軍家への献上 鍋島」展特別講演会 (講師：中島誠之助氏 於講堂)
- 5 月 5 日 常設展無料観覧日
- 5 月 20 日 「福島県立美術館友の会」総会
- 5 月 29 日 「福島県立美術館協力会」総会
- 5 月 31 日 全国美術館会議総会出席 (青森市、-6 月 1 日)
- 6 月 9 日 特集展示「シャガール《死せる魂》展」開幕 (-7 月 1 日)
- 7 月 3 日 「コレクション展 II」開幕 (-10 月 8 日)
- 7 月 24 日 博物館実習 (-7 月 29 日)
- 7 月 14 日 「夢のかたち おもちゃと模型のワンダーランド」展開会式、同展開幕 (-9 月 17 日)
- 8 月 5 日 美術館・図書館連携事業「アートなおはなし会」開催
- 8 月 21 日 常設展無料観覧日 (県民の日)
- 9 月 1 日 「移動美術館 日本近代美術の名品展」小野町ふるさと文化の館で開幕 (-17 日)
- 9 月 19 日 常設展無料観覧日
- 10 月 6 日 「上村松園 近代と伝統」展開幕 (-11 月 11 日)
- 10 月 10 日 「コレクション展 III」開幕 (-12 月 27 日)
- 10 月 14 日 「上村松園 近代と伝統」展講演会 (講師：上村淳之氏 於講堂)
- 10 月 21 日 友の会研修旅行 (笠間日動美術館、茨城県陶芸美術館)
- 10 月 27 日 「上村松園 近代と伝統」展能上演「羽衣」(会津能楽会 於エントランスホール)
- 11 月 3 日 常設展無料観覧日
- 11 月 20 日 「生誕 100 年 斎藤清展」開幕 (-2008 年 1 月 20 日)
- 11 月 23 日 「生誕 100 年 斎藤清展」展公開対談 (出演：渡辺久子氏・早川博明氏 於講堂)
- 12 月 1 日 ミュージアム・クリスマス (-12 月 24 日)
- 12 月 6 日 美術館・図書館合同消防訓練
- 12 月 28 日 年末年始休館 (-1 月 4 日)

2008 (平成 20)

- 1 月 5 日 「コレクション展 IV」開幕 (-3 月 23 日)
- 1 月 11 日 「美術館への年賀状展」開幕 (-1 月 31 日)
- 2 月 16 日 「風刺の巨匠 ドーミエ版画展」開幕 (-3 月 23 日)
- 2 月 22 日 平成 19 年度運営協議会
- 3 月 4 日 平成 19 年度収集評価委員会
- 3 月 16 日 ミュージアム・コンサート (出演：山下裕康氏 於エントランスホール)
- 3 月 23 日 レストラン「カフェ・ドゥ・ミュゼ ムスターシュ」閉店
- 3 月 24 日 臨時休館 (-2008 年 4 月 11 日)
- 3 月 31 日 渡辺憲雄主査退任

常設展

□常設展示

当館所蔵の美術作品を常時公開するもので、年4回（版画は8回）の展示換えを行っている。

2007年度は以下の4期により開催した。

なお今年度より、常設展示の名称を「コレクション展」としたほか、各会期ごとに「テーマ展示」と題する小特集を開催した。

展示	会期	内容
コレクション展Ⅰ	2007年4月7日～7月1日 (※5月24日より一部作品を展示替)	テーマ展示：保田春彦『季節の残像』 上野泰郎と現代の日本画 近代日本の水彩画：三宅克己、丸山晚霞ほか 関根正二と近代洋画 創作版画の歩み：恩地孝四郎、谷中安規ほか 斎藤清の版画
コレクション展Ⅱ	2007年7月3日～10月8日 (※8月23日より一部作品を展示替)	テーマ展示：佐藤多持『水芭蕉曼陀羅』 近現代の日本画：酒井三良、大山忠作ほか 近現代の洋画：安井曾太郎、田淵安一ほか 海外の美術：ワイエス、ベン・シャーン 近代日本の版画：川上澄生、斎藤清ほか
コレクション展Ⅲ	2007年10月10日～12月27日	テーマ展示：伊砂利彦の型絵染 追悼・松本栄の日本画 戦後の具象絵画／抽象絵画 ピカソ連作版画「二人の裸婦」 20世紀のアメリカ絵画
コレクション展Ⅳ	2008年1月5日～3月23日 (※2月23日より一部作品を展示替)	テーマ展示：野田哲也<日記>シリーズ 戦後美術の歩み：須田国太郎、麻生三郎ほか 福島の木彫：三木宗策、赤堀信平ほか 小関庄太郎の写真

□コレクション・レクチャー

2007年度より「サンデートーク」に替わる常設展示解説プログラムとして、毎月第三日曜日午前11時～1時間程度、「コレクション・レクチャー」を計12回開催した。

解説は当館学芸員のほか、外部講師3名が担当した。詳細は以下のとおりである。

開催日	テーマ	担当	参加人数
4月15日	水と光の出会い—近代日本の水彩画	伊藤 匡	3名
5月20日	自作を語る—『季節の残像』をめぐる	保田春彦氏（彫刻家）	25名
6月17日	創作版画—恩地孝四郎を中心に	堀 宜雄	4名
7月15日	佐藤多持—水芭蕉曼陀羅の思い出	佐藤美喜子氏（作家遺族）	12名
8月19日	大岩オスカルと温室効果を考える	荒木康子	3名
9月16日	酒井三良と水郷を旅する	佐治ゆかり	6名
10月21日	関根正二と彼をめぐる人々	佐藤香里	9名
11月18日	二つの母子像—ムーアとマリソール	宮武 弘	3名
12月16日	今さら聞けない美術館の見かた	伊藤 匡	15名
1月20日	福島の木彫—宗策・朝秀・信平	増淵鏡子	12名
2月17日	日常に寄り添う—野田哲也の版画をめぐる	木戸英行氏（CCGA副センター長）	10名
3月16日	ニューヨークの明暗を描く—ジョン・スローンの絵画	吉村有子	8名

以上 計12回 110名

□出品リスト

コレクション展 I 2007年4月7日～7月1日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
【近代の日本画】				
速水 御舟	晩冬の桜	1928	絹本着色	
村上 華岳	早春風景	1919 頃	絹本着色	
伊東 深水	春光	1922 頃	絹本着色	
湯田 玉水	春日遅々	1922	絹本墨画淡彩	
寺崎 広業	山水図	1911	紙本金地墨画	屏風六曲一双
荻生 天泉	霊夢	1941	絹本着色	
小川 芋銭	鍾馗図	不詳	紙本墨画	寄託作品
酒井 三良	春興図	1937	紙本墨画淡彩	寄託作品
菊地養之助	鍾馗面の母子	1982	紙本着色	
常盤 大空	風薫る	1965	麻布着色	
猪巻 清明	はさみ将棋	1934	紙本着色	
大山 忠作	幼童曼陀羅	1967	紙本着色	

【上野泰郎と現代の日本画】

内田あぐり	ロマノフの海	1984	紙本着色	
星野 真吾	麻紙による心象（集）	1960	紙・岩絵具など	
	暗色の記憶	1979	紙・岩絵具など	
上野 泰郎	地にある人たち	1969	紙・岩絵具など	
	つきぬいのち	1991	紙・岩絵具など	
	きのう・きょう・あす	1988	紙・岩絵具など	
	心おこれる者	2001	紙・岩絵具など	

展示室 B

【近代日本の水彩画】

三宅 克己	湯ヶ野の冬	1908	紙・水彩	
	信濃路の春	不詳	紙・水彩	
丸山 晚霞	溪流（飛騨蒲田の激湍）	1912	紙・水彩	
石川欽一郎	支那廈門泊船	昭和初期	紙・水彩	
吉田 博	小出雲村月出	1903 頃	紙・水彩	
赤城 泰舒	土塀	1920	紙・水彩	
後藤 工志	風景	1917	紙・水彩	
春日部たすく	山湖の春	1944	紙・水彩	
長谷川利行	川のある風景	1929	紙・水彩	寄託作品
古賀 春江	赤い風景	1926	紙・水彩	
松本 竣介	風景	1935	紙・鉛筆、水彩	

【関根正二と近代洋画】

恩地孝四郎	静物（レモン）	1920	カンヴァス・油彩	
上野山清貢	ムッシュOの肖像	1915	カンヴァス・油彩	
関根 正二	真田吉之助夫妻像	1918	カンヴァス・油彩	
	神の祈り	1918 頃	カンヴァス・油彩	
	チューリップ	1918	紙・インク	
川口 軌外	柘榴	1932	カンヴァス・油彩	
吉井 忠	静物	1940	カンヴァス・油彩	
須田国太郎	ダロカ古城（城外）	1922	カンヴァス・油彩	寄託作品
	棚上静物	1952	カンヴァス・油彩	
	白浜風景習作	1955	カンヴァス・油彩	

【海外の美術】

マルク・シャガール	少年時代の思い出	1958	紙・エッチング、アクアチント	10点組のうち5点
アンドリュウ・ワイエス	松ぼっくり男爵	1984	ボード・テンペラ	
	農場にて	1988	紙・水彩	
ベン・シャーン	ドレフス事件	1930(1984 刊行)	紙・ボショワール	8点組
土谷 武	風 I—d	1977	軟鋼、ケヤキ	

展示室 C

【テーマ展示 vol.1：保田春彦『季節の残像』】

保田 春彦	季節の残像 1	2005	木、竹・アクリル絵具	
	季節の残像 2	2005	木・アクリル絵具	
	季節の残像 3	2005	木・アクリル絵具	寄託作品
	季節の残像 4	2006	木・アクリル絵具	
	季節の残像 5	2006	木・アクリル絵具	
	季節の残像 6	2006	木・アクリル絵具	
	季節の残像 7	2006	木・アクリル絵具	
	季節の残像 8	2006	木・アクリル絵具	
	季節の残像 9	2006	木、竹・アクリル絵具	

展示室 D

【創作版画の歩み】

山本鼎・刻、青木繁・画	■ 斧	1905	紙・木口木版	展示：4/7～5/23
南 薫造	風景	1912 頃	紙・木版	展示：4/7～5/23
岸田 劉生	天地創造 欲望	1914	紙・銅版	展示：4/7～5/23
岸田 劉生	天地創造 怒れるアダム	1914	紙・銅版	展示：4/7～5/23
岸田 劉生	天地創造 石を噛む人	1914	紙・銅版	展示：4/7～5/23
恩地孝四郎	仮睡	1924 頃	紙・木版	展示：4/7～5/23
	邦楽座内景	1929	紙・木版	展示：4/7～5/23
	カフェ	1929	紙・木版	展示：4/7～5/23
藤森 静雄	飯塚風景	1928	紙・木版	展示：4/7～5/23
	路傍の子猫	1929	紙・木版	展示：4/7～5/23
深沢 索一	風景	1925 頃	紙・木版	展示：4/7～5/23
平塚 運一	のげし	1929 頃	紙・木版	展示：4/7～5/23
山口 進	橋	1929	紙・木版	展示：4/7～5/23
深沢 索一	灘スケッチ	1924	紙・木版	展示：5/24～7/1
	築地風景	1932	紙・木版	展示：5/24～7/1
平塚 運一	雪のニコライ	1935	紙・木版	展示：5/24～7/1
武藤 六郎	東京駅	1932	紙・木版	展示：5/24～7/1
逸見 享	街角	1929	紙・木版	展示：5/24～7/1
恩地孝四郎	母と子	1917	紙・木版	展示：5/24～7/1
	ボエム No.2 山の属	1937	紙・木版	展示：5/24～7/1
	人体考察 No.3 衣をつけたる	1929	紙・木版	展示：5/24～7/1
	人体考察 No.4 頸	1929	紙・木版	展示：5/24～7/1
藤森 静雄	赤いかびんに花	1928	紙・木版	展示：5/24～7/1
	裸婦	1929	紙・木版	展示：5/24～7/1
谷中 安規	一族の長	1933	紙・木版	展示：5/24～7/1
	少年時代	1933	紙・木版、手彩色	展示：5/24～7/1

【斎藤清の版画】

斎藤 清	孤独	1948	紙・木版	展示：4/7～5/23
	白い夢	1949	紙・木版	展示：4/7～5/23
	憩い	1950	紙・木版	展示：4/7～5/23
	五月	1950	紙・木版	展示：4/7～5/23
	瞳（白椿）	1950	紙・木版	展示：4/7～5/23
	影	1970	紙・木版	展示：4/7～5/23
	たんぼ	1962	紙・木版	展示：4/7～5/23
	会津の春	1974	紙・木版	展示：4/7～5/23
	春の鶴ヶ城（A）	1988	紙・木版	展示：4/7～5/23
	早春（1）	1990	紙・木版	展示：4/7～5/23
	早春（2）	1991	紙・木版	展示：4/7～5/23
	六月	1972	紙・木版	展示：5/24～7/1
	六月、鎌倉（G）	1976	紙・木版	展示：5/24～7/1
	妙法寺、鎌倉（A）	1972	紙・木版	展示：5/24～7/1
	杜、鎌倉	1972	紙・木版	展示：5/24～7/1
	建長寺、鎌倉	1972	紙・木版	展示：5/24～7/1
	門、鎌倉（I）	1979	紙・木版	展示：5/24～7/1
	夕焼、鎌倉	1979	紙・木版	展示：5/24～7/1
	夢（C）	1974	紙・木版	展示：5/24～7/1
	慈愛（A）	1968	紙・木版	展示：5/24～7/1
	慈愛	1959	紙・木版	展示：5/24～7/1
	慈愛（B）	1975	紙・木版	展示：5/24～7/1

ホール、屋外展示

マリノ・マリーニ	騎手	1956-57	ブロンズ
佐藤 忠良	若い女・シャツ	1982	ブロンズ
エミリオ・グレコ	スケートをする女	1951	ブロンズ

フェルナン・レジェ	歩く花	1952-53 原型作成	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品
林 範親	路地裏	1994	ナラ、ヒバ、古材・アクリル	
井上 武吉	my sky hole 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	

コレクション展Ⅱ 2007年7月3日～10月8日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
【近現代の日本画】				
小杉 放庵	水荘訪客	大正末期	絹本着色	
尾竹 竹坡	蔬菜図	大正末～昭和初期	絹本墨画	
長野 草風	麦踏	大正期	紙本着色	
小茂田青樹	農婦	1914 頃	絹本着色	
平福 百穂	ふき	不詳	紙本墨画淡彩	
須田 善二	溪の葉月	1936	絹本着色	屏風四曲一隻 寄託作品
中島 清之	胡瓜	1923	絹本着色	
酒井 白澄	麦畑	1927	絹本着色	
猪巻 清明	湘南の浜	1931	紙本着色	
角田 磐谷	新福島八景十勝より 磐城舞子	1948	絹本着色	
	新福島八景十勝より 水郷植田海岸	1948	絹本着色	
	新福島八景十勝より 原釜海水浴場	1948	絹本着色	
	新福島八景十勝より 松川浦の夕月	1948	絹本着色	
酒井 三良	水郷の一日	1939	紙本墨画淡彩	卷子
	沖縄風俗	1955	紙本墨画淡彩	
	松籟	1964	紙本墨画淡彩	
池田 幹雄	夏の記憶	1987	紙本着色	
松本 栄	志摩	1968	紙本着色	
大山 忠作	岡潔先生像	1968	紙本着色	
	爽涼	1980	紙本着色	
佐藤 岡夫	少年と馬	1980	紙本着色	
福王寺法林	バドガオンの月	1982	紙本着色	

展示室 B

【近現代の洋画】				
安井曾太郎	テーブルの上	1912	カンヴァス・油彩	
岸田 劉生	自画像	1914	カンヴァス・油彩	
万 鉄五郎	庫	1918	カンヴァス・油彩	
木村 莊八	樹の下に遊んでいる子供	1915	カンヴァス・油彩	
関根 正二	死を思う日	1915	カンヴァス・油彩	寄託作品
	井上郁像	1917	カンヴァス・油彩	寄託作品
	神の祈り	1918 頃	カンヴァス・油彩	
前田 寛治	裸婦	1925	カンヴァス・油彩	
長谷川利行	浅草の女	1935	カンヴァス・油彩	
松本 竣介	赤い建物	1936	紙・油彩	
大岩オスカル幸男	トンネルの向こうの光	1997	カンヴァス・油彩	寄託作品
	温室効果	2001	カンヴァス・油彩	寄託作品
田淵 安一	三相万華 I	1972	カンヴァス・油彩	
	花林朱径	1985	カンヴァス・油彩	2 点組
【海外の美術】				
マックス・エルンスト	博物誌	1926	紙・コロタイプ	34 点組のうち 5 点
アンドリュウ・ワイエス	松ぼっくり男爵	1976	ボード・テンペラ	
	ガニングロック	1966	紙・水彩	
ベン・シャーン	W.P.A. サンデー	1939	紙・グアッシュ	
	スイミングプール	1945	ボード・テンペラ	
	ラッキードラゴン	1960	綿布・テンペラ	
土谷 武	風 I — d	1977	軟鋼、ケヤキ	

展示室 C

【テーマ展示 vol.2：佐藤多持『水芭蕉曼陀羅』】				
佐藤 多持	水芭蕉曼陀羅（た）	1962	紙・墨	
	水芭蕉曼陀羅（黄 18）風神	1969	紙・墨、岩絵具など	屏風二曲一隻
	水芭蕉曼陀羅（黄 12）	1968	紙・墨、岩絵具など	屏風六曲一隻
	水芭蕉曼陀羅（白 20）	1972	紙・墨、岩絵具など	屏風六曲一隻
	水芭蕉曼陀羅（黄 68）	1993	紙・墨、岩絵具など	屏風二曲一隻

展示室 D

【近代日本の版画】

川上 澄生	賭博者	1925	紙・木版	展示：7/3～8/22
	バラとパイプ	1925 頃	紙・木版	展示：7/3～8/22
	六月の風	1926	紙・木版	展示：7/3～8/22
	風見のある風景	1927	紙・木版	展示：7/3～8/22
	かまきり	1932	紙・木版	展示：7/3～8/22
	日比谷公園菊花大会	1930	紙・木版	展示：7/3～8/22
	はつなつの風	1933	紙・木版	展示：7/3～8/22
	男体山	1955	紙・木版	展示：7/3～8/22
	女と洋燈 (1)	1971	紙・木版	展示：7/3～8/22
	女と洋燈 (2)	1971	紙・木版	展示：7/3～8/22
	女と洋燈 (3)	1971	紙・木版	展示：7/3～8/22
長谷川 潔	アレクサンドル三世橋とフランス飛行船	1930	紙・銅版	展示：8/23～10/8
	コップのダリア	1935	紙・銅版	展示：8/23～10/8
	サン＝ポール＝ド＝ヴァンスの風景	1936	紙・銅版	展示：8/23～10/8
	狐と葡萄 (ラ・フォンテーヌ寓話)	1963	紙・銅版	展示：8/23～10/8
	メキシコの鳩	1966	紙・銅版	展示：8/23～10/8
浜口 陽三	西瓜	1954	紙・銅版	展示：8/23～10/8
	白菜	1960	紙・銅版	展示：8/23～10/8
駒井 哲郎	思い出	1948	紙・銅版	展示：8/23～10/8
	海底の祭	1951	紙・銅版	展示：8/23～10/8
	墓 (マルドロオルの歌)	1956	紙・銅版	展示：8/23～10/8
	鳥と果実	1959	紙・銅版	展示：8/23～10/8
	調理場	1960	紙・銅版	展示：8/23～10/8
斎藤 清	海の幻想	1950	紙・木版	展示：7/3～8/22
	幻影	1974	紙・木版	展示：7/3～8/22
	赤い実 (A)	1975	紙・木版	展示：7/3～8/22
	赤い実 (B)	1975	紙・木版	展示：7/3～8/22
	流れ (A)	1975	紙・木版	展示：7/3～8/22
	波 (A)	1975	紙・木版	展示：7/3～8/22
	浮遊	1981	紙・木版	展示：7/3～8/22
	月雲 (1)	1980	紙・木版	展示：7/3～8/22
	月雲 (3)	1980	紙・木版	展示：7/3～8/22
	月下美人 (B)	1975	紙・木版	展示：7/3～8/22
	夏 (A)	1975	紙・木版	展示：7/3～8/22
	夏 (B)	1975	紙・木版	展示：7/3～8/22
	瞳	1948	紙・木版	展示：8/23～10/8
	凝視, ジャワ人形	1950	紙・木版	展示：8/23～10/8
	ベビー	1950	紙・木版	展示：8/23～10/8
	無我 (B)	1953	紙・木版	展示：8/23～10/8
	秋	1952	紙・木版	展示：8/23～10/8
	阿修羅 (B)	1959	紙・木版	展示：8/23～10/8
	仏陀, 阿修羅, 奈良 (D)	1959	紙・木版	展示：8/23～10/8
	ワイン, パリ	1960	紙・木版	展示：8/23～10/8
	凝視	1971	紙・木版	展示：8/23～10/8
	夜 (A)	1966	紙・木版	展示：8/23～10/8
	目 (2)	1975	紙・木版	展示：8/23～10/8

ホール、屋外展示

マリノ・マリーニ	騎手	1956-57	ブロンズ	
佐藤 忠良	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
エミリオ・グレコ	スケートをする女	1951	ブロンズ	
フェルナン・レジェ	歩く花	1952-53 原型作成	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品
林 範親	路地裏	1994	ナラ、ヒバ、古材・アクリル	
井上 武吉	my sky hole 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	
マリソール	ママと私	1968	ブロンズ、ステンレス	寄託作品

コレクション展Ⅲ 2007年10月10日～12月27日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
【秋景】				
高久 隆古	山郵馬市図	1848	絹本墨画淡彩	

湯田 玉水	霜風千林図	1926	絹本墨画淡彩
下村 観山	寒空	1923	絹本着色
勝田 蕉琴	霜の朝	1923	絹本着色
酒井 三良	村芝居	1921-24	絹本着色
坂内 青嵐	運動会之図	1915	紙本着色 屏風六曲一隻

【追悼 松本栄】

松本 栄	志摩	1968	紙本着色
	大王崎	1971	紙本着色
	青年と船	1974	紙本着色
	群像（曳く）	1983	紙本着色 屏風六曲一隻

横山 操	建設	1960	紙本着色
------	----	------	------

【関根正二と大正期の洋画】

安井曾太郎	ターブルの上	1912	カンヴァス・油彩
岸田 劉生	静物（白き花瓶と台皿と林檎四個）	1918	カンヴァス・油彩
木村 莊八	樹の下に遊んでいる子供	1915	カンヴァス・油彩
村山 槐多	庭園の少女	1914	紙・水彩
上野山清貢	ムッシュ O の肖像	1915	カンヴァス・油彩
万 鉄五郎	庫	1918	カンヴァス・油彩
恩地孝四郎	静物（レモン）	1920	カンヴァス・油彩
小出 樗重	けしの花	1926	紙・グアッシュ
古賀 春江	赤い風景	1926	紙・水彩

関根 正二	銚子海岸	1916	紙・インク
	男の顔	1917	紙・インク
	祈り	1919	紙・鉛筆
	牛舎	1915 頃	カンヴァス・油彩
	真田吉之助夫妻像	1918	カンヴァス・油彩
	自画像	1918	カンヴァス・油彩
	神の祈り	1918 頃	カンヴァス・油彩

土谷 武	風 I - d	1977	軟鋼、ケヤキ
------	---------	------	--------

展示室 B

【戦後の具象絵画】

斎藤 清	田園	1943	カンヴァス・油彩
瑛 九	建物	1948	カンヴァス・油彩
麻生 三郎	家族	1959	カンヴァス・油彩
吉井 忠	地の跡	1963	カンヴァス・油彩
中谷 泰	常滑	1964	カンヴァス・油彩
北川 民次	二十年目の悲しみの夜	1965	カンヴァス・油彩
糸園和三郎	夜	1973	カンヴァス・油彩

大岩オスカル幸男	トンネルの向こうの光	1997	カンヴァス・油彩	寄託作品
	温室効果	2001	カンヴァス・油彩	寄託作品

【戦後の抽象絵画】

堂本 尚郎	コンポジション	1954-59	カンヴァス・油彩
元永 定正	作品（1）	1958	板・油彩
杉全 直	眼 No. 6	1960	カンヴァス・油彩
斎藤 義重	作品 13	1961	合板・油彩、ドリル
山口 長男	坦	1962	ベニヤ板・油彩
田中 敦子	WORK 1968	1968	カンヴァス・エナメル、鉄、モーター
田淵 安一	花林朱径	1985	カンヴァス・油彩
百瀬 寿	NE. Blue, Blue, Blue and Blue	1993	綿布、ネパール紙・岩絵具

展示室 C

【印象派の絵画】

クロード・モネ	ジヴェルニーの草原	1890	カンヴァス・油彩
カミーユ・ピサロ	エラニーの菜園	1899	カンヴァス・油彩
ポール・ゴーギャン	ブルターニュの子供	1889	紙・水彩、パステル

【ピカソの連作版画】

パブロ・ピカソ	二人の裸婦	1946	紙・リトグラフ	18 点組
---------	-------	------	---------	-------

【20 世紀アメリカの絵画】

ベン・シャーン	恐怖の夜の町	1951	ボード・グアッシュ、テンペラ
アンドリュース・ワイエス	そよ風	1978	紙・水彩
	冬の水車小屋	1978	紙・水彩
ヘンリー・ムーア	母と子：腕	1980	ブロンズ

展示室 D

【テーマ展示 vol.3：伊砂利彦の型絵染】

伊砂 利彦	ドビュッシー作曲「前奏曲Ⅰ」のイメージより	1986-87	和紙・型絵染	12 点組
(1) デルフィの舞姫たち	(2) ヴェール		(3) 野の風	
(4) 音と香りは夕暮の空に漂う	(5) アナカプリの丘		(6) 雪の上の歩み	
(7) 西風の見たもの	(8) 亜麻色の髪の乙女		(9) とだえたセレナード	
(10) 沈める寺	(11) パックの踊り		(12) ミンストルス	
	ドビュッシー作曲「前奏曲Ⅱ」のイメージより	1986-87	和紙・型絵染	12 点組
(1) ビック・ウィック卿をたたえて	(2) 霧		(3) ビーノの門	
(4) 枯葉	(5) 妖精はよい踊子		(6) ヒースの茂る荒地	
(7) 変り者のラヴァーヌ将軍	(8) 月の光がふりそそぐテラス		(9) 水の精	
(10) カノーブ	(11) 交代する三度		(12) 花火	

ホール、屋外展示

マリノ・マリーニ	騎手	1956-57	ブロンズ	
マリソール	ママと私	1968	ブロンズ、ステンレス	寄託作品
エミリオ・グレコ	スケートをする女	1951	ブロンズ	
フェルナン・レジェ	歩く花	1952-53 原型作成	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品
佐藤 忠良	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
林 範親	路地裏	1994	ナラ、ヒバ、古材・アクリル	
井上 武吉	my sky hole 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	

コレクション展Ⅳ 2008 年 1 月 5 日～3 月 23 日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
【近代の日本画】				
速水 御舟	晩冬の桜	1928	絹本着色	
村上 華岳	早春風景	1919 頃	絹本着色	
伊東 深水	春光	1922 頃	絹本着色	
酒井 三良	災の神を焼く残雪の夜	1920-21 頃	絹本着色	屏風二曲一隻 寄託作品
	雪に埋もれつつ正月はゆく	1919	絹本着色	屏風二曲一隻
福田豊四郎	ふるさとへ帰る	1964	紙本着色	屏風四曲一隻
【現代日本の工芸】				
清水 卯一	柿釉大壺	1963	陶器	
	柿釉大鉢	1965	陶器	
	青釉大鉢	1973	陶器	
	萌黄釉輪花鉢	1975	陶器	
山田 光	作品	1966	陶器	
	黒陶 数字と窓	1984	陶器	
	銀泥 檜円のパイプ	1995	陶器	
鈴木 治	数の土面	1963	陶器	
	泥象	1965	陶器	
	馬形	1982	陶器	
	連歌	1991	陶器	
【関根正二と近代洋画】				
長谷川 昇	裸婦	1928	カンヴァス・油彩	
前田 寛治	裸婦	1925	カンヴァス・油彩	
上野山清真	ムッシュ O の肖像	1915	カンヴァス・油彩	
恩地孝四郎	自画像 D (白和服)	1919	カンヴァス・油彩	
岸田 劉生	静物 (白き花瓶と台皿と林檎四個)	1918	カンヴァス・油彩	
川口 軌外	柘榴	1932	カンヴァス・油彩	
長谷川利行	浅草の女	1935	カンヴァス・油彩	
松本 竣介	赤い建物	1936	紙・油彩	

	駅	1942	板・油彩	
関根 正二	裏の娘	1917	紙・水彩、パステル	
	菊川橋	1916	紙・インク	
	菊川橋辺り	1915	板・油彩	寄託作品
	牛舎	1915 頃	カンヴァス・油彩	
	死を思う日	1915	カンヴァス・油彩	寄託作品
	自画像	1918	カンヴァス・油彩	
土谷 武	風 I—d	1977	軟鋼、ケヤキ	

展示室 B

【戦後美術の歩み】

須田国太郎	棚上静物	1952	カンヴァス・油彩	
麻生 三郎	家族	1959	カンヴァス・油彩	
桂 ゆき	親亀の背中に子亀をのせて	1970	板・油彩、コラージュ	
脇田 和	窓	1966	カンヴァス・油彩	
菅井 汲	Y A R I	1917	カンヴァス・油彩	
前田 常作	ロック街（白）	1958	カンヴァス・油彩、グアッシュ、石	
土橋 醇	星空	1961	カンヴァス・油彩	
斎藤 義重	作品 13	1961	合板・油彩	
元永 定正	作品（1）	1958	板・油彩	
鎌田 正蔵	マイパターン 1970	1970	カンヴァス・油彩	
若松光一郎	COMPOSITION 30.8.82	1983	カンヴァス・和紙、カゼインカラー、墨	

【福島の木彫】

三木 宗策	かやのひめの神	1927	木	
赤堀 信平	地に立ちて	1925	木	
	空	1927	木	
	大地を行く	1926	木	
橋本 朝秀	拈華	1959	木・着色	

【テーマ展示 vol.4：野田哲也《日記》シリーズ】

野田 哲也	日記 1973 年 10 月 25 日	1973	紙・木版、シルクスクリーン	
	日記 1974 年 9 月 1 日	1974	紙・リトグラフ	
	日記 1975 年 11 月 12 日（c）	1975	紙・木版、シルクスクリーン	
	日記 1976 年 8 月 19 日	1976	紙・木版、シルクスクリーン	
	日記 1977 年 3 月 3 日（b）	1977	紙・木版、シルクスクリーン	
	日記 1976 年 11 月 18 日（c）	1976	紙・木版、シルクスクリーン	
	日記 1977 年 8 月 10 日	1977	紙・木版、シルクスクリーン	
	日記 1980 年 6 月 25 日	1980	紙・木版、シルクスクリーン	
	日記 1980 年 4 月 27 日、厚木	1980	紙・木版、シルクスクリーン	
	日記 1985 年 2 月 28 日、カナダ、エドモントン	1985	紙・木版、シルクスクリーン	
	日記 1987 年 5 月 30 日、柏市亀甲台 2-12-4	1987	紙・木版、シルクスクリーン	
	日記 1992 年 2 月 17 日	1992	紙・木版、シルクスクリーン	
	日記 1994 年 3 月 10 日	1994	紙・木版、シルクスクリーン	

展示室 C

【20 世紀のアメリカ具象絵画】

ジョン・スローン	ジェファーソン・マーケット、ナイト	1909	カンヴァス・油彩	
	五番街の批評家たち	1940	カンヴァス・油彩	
	サンタフェからの二人の女	1921	カンヴァス・油彩	
清水 登之	十四番街の地下鉄駅	1918	カンヴァス・油彩	
国吉 康雄	婦人と子供	1920	カンヴァス・油彩	
野田 英夫	牛乳ワゴン	1936	カンヴァス・油彩	
ベン・シャーン	トム・ムーニーの母親に挨拶するジミー・ウォーカー	1932-33	紙・グアッシュ	
	農民にたずねよ	1941	ボード・グアッシュ	
	ラッキードラゴン	1960	綿布・テンペラ	
	創造のアルファベット	1963	ボード・グアッシュ	
アンドリュー・ワイエス	ガニングロック	1966	紙・水彩	
	松ぼっくり男爵	1976	ボード・テンペラ	
	農場にて	1988	紙・水彩	
ヘンリー・ムーア	母と子：腕	1980	ブロンズ	

展示室 D

【小関庄太郎の写真】

小関庄太郎	傘をもつ自画像	1954	ゼラチン・シルバー・プリント	
-------	---------	------	----------------	--

麓の家	1925	ゼラチン・シルバー・プリント
廃墟の丘に遊ぶ子供等	1925	ゼラチン・シルバー・プリント
田舎の風景	1926	ゼラチン・シルバー・プリント
一人歩む	1929	ゼラチン・シルバー・プリント
日暮里駅	1930	ゼラチン・シルバー・プリント
二人像	1932	ゼラチン・シルバー・プリント
路傍	1937	ゼラチン・シルバー・プリント
海辺の午後	1937	ゼラチン・シルバー・プリント
夕照	1938	ゼラチン・シルバー・プリント
遠い汽車	1941	ゼラチン・シルバー・プリント
車窓―磐越西線野沢	1981	ゼラチン・シルバー・プリント
車窓―東北本線矢吹	1979	ゼラチン・シルバー・プリント
ポンチョを着た自画像	2000	ゼラチン・シルバー・プリント

【斎藤清の版画】

斎藤 清	霊峰 (5)	1980	紙・木版	展示：1/5～2/22
	霊峰 (14), 唐松	1980	紙・木版	展示：1/5～2/22
	霊峰 (16), 牧場 (C)	1980	紙・木版	展示：1/5～2/22
	霊峰 夕映え	1986	紙・木版	展示：1/5～2/22
	会津の冬 (6)	1970	紙・木版	展示：1/5～2/22
	会津の冬 (16)	1970	紙・木版	展示：1/5～2/22
	会津の冬 (22)	1976	紙・木版	展示：1/5～2/22
	会津の冬 (29)	1977	紙・木版	展示：1/5～2/22
	会津の冬 (39)	1978	紙・木版	展示：1/5～2/22
	会津の冬 (43)	1981	紙・木版	展示：1/5～2/22
	会津の冬 (44)	1981	紙・木版	展示：1/5～2/22
	霊峰 (2)	1980	紙・木版	展示：2/23～3/23
	霊峰 (12), 秋 (C)	1980	紙・木版	展示：2/23～3/23
	霊峰 (13)	1980	紙・木版	展示：2/23～3/23
	霊峰 (17), 秋 (A)	1980	紙・木版	展示：2/23～3/23
	会津の冬 (4)	1970	紙・木版	展示：2/23～3/23
	会津の冬 (12)	1970	紙・木版	展示：2/23～3/23
	会津の冬 (25)	1977	紙・木版	展示：2/23～3/23
	会津の冬 (31)	1978	紙・木版	展示：2/23～3/23
	会津の冬 (40)	1979	紙・木版	展示：2/23～3/23
	会津の冬 (49)	1981	紙・木版	展示：2/23～3/23
	会津の冬 (59)	1982	紙・木版	展示：2/23～3/23

ホール、屋外展示

マリノ・マリーニ	騎手	1956-57	ブロンズ	
マリソール	ママと私	1968	ステンレス、ブロンズ	寄託作品
佐藤 忠良	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
エミリオ・グレコ	スケートをする女	1951	ブロンズ	
フェルナン・レジェ	歩く花	1952-53 原型作成	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品
林 範親	路地裏	1994	ナラ、ヒバ、古材・アクリル	
井上 武吉	my sky hole 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	



展示風景 (コレクション展Ⅲ)



展示風景 (コレクション展Ⅳ)

特集展示

シャガール《死せる魂》展

【概要】

当館所蔵のシャガール『死せる魂』96点組の銅版画を、全点まとめて展示したもので、全点公開は初めてである。展示にあたっては、この作品がロシアの文豪ゴーゴリの小説の挿絵として制作されたことを考慮して、小説のあらすじを記したパネルを読みすすみながらシャガールの版画を見ることができるよう工夫した。またロシアの画家たちの描いた挿絵を参考展示して、シャガールの表現の革新性を比較した。

【総括】

本展では、文学作品の挿絵という側面に力点を置き、＜あらすじパネル＋挿絵＞という展示方法を採用した。観覧者の大半があらすじパネルを読んでから作品を見ていたので、鑑賞時間が大幅に伸びていた。パネルの内容や形式については工夫の余地があるが、可能性のある展示方法と考えられる。

問題点としては、予算がない展覧会であったために、広報印刷物をつくることがほとんどできなかった。経費がない中でいかに広報するかが、今後の課題である。

会 期：2007年6月9日(土)～7月1日(日)

会 場：企画展示室 A-1、A-2

休館日：毎週月曜日

観覧者数：2,516名

担 当：伊藤 匡、佐藤香里

□印刷物

- ・チラシ (A4)

□関連事業

- ・ギャラリーレクチャー「ゴーゴリの作品世界と『死せる魂』」

日時：6月16日(土)

講師：吉川宏人氏（福島大学経済経営学類教授） 60名

- ・朗読会「朗読で聞くゴーゴリの名作」

日時：6月30日(土)

朗読：川井康弘氏（俳優・劇団俳優座） 100名

- ・ギャラリートーク

講師：伊藤 匡（当館学芸課長）

① 6月 9日(土) 30名

② 6月23日(土) 20名 *友の会会員対象



A4 チラシ



展示風景



朗読会 (6/30)

日本近代美術の名品展

県民が身近な場所で美術館の美術作品を鑑賞する機会を設けるとともに、県内の文化施設への支援・連携事業として、美術館の移動展示を毎年行っている。

今年度は小野町のふるさと文化の館で開催した。

会期：2007 年 9 月 1 日(土)～ 17 日(月)(祝)

開館時間：9:00 ～ 17:00

休館日：9 月 3 日(月)、10 日(月)

主催：小野町ふるさと文化の館、福島県立美術館

会場：小野町ふるさと文化の館

(田村郡小野町大字小野新町字中通 2 電話 0247-72-2120)

観覧料：無料

観覧者数：590 人

担当：伊藤 匡

□印刷物

・展覧会リーフレット

規格／A3 判二つ折り カラー 30 点

内容／作家作品解説、展示作品リスト

□関連事業

・ギャラリートーク

日時：9 月 9 日(日) 13:30-

解説：伊藤 匡（当館学芸課長） 4 名



リーフレット



小野町ふるさと文化の館 外観

出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
-----	-----	-----	-----	-------

【日本画】

＜写実の導入－大正・昭和初期の日本画－＞

1	勝田 蕉琴	煙る小雨	1922	絹本着色
2	岡村宇太郎	舞妓図	1925	絹本着色
3	太田 秋民	女	1932	絹本着色
4	猪巻 清明	はさみ将棋	1934	紙本着色

＜多様な表現－戦後の日本画－＞

5	大山 忠作	O 先生	1946	紙本着色
6	黒沢 吉蔵	起重機	1956	紙本着色
7	中野 蒼穹	爽晨	1969	紙本着色
8	松本 栄	大王崎	1971	紙本着色
9	太田 正弘	雲烟の中	1974	紙本着色
10	結城 天童	阿武隈川源流	1984	紙本着色
11	斎藤 清	会津の冬、八木沢 (2)	1984	紙本墨画

【洋 画】

＜写実の追求－明治・大正期の洋画－＞

12	高橋 由一	栗子山昔時景	1881 頃	カンヴァス・油彩
13	関根 正二	一本杉の風景	1918	カンヴァス・油彩
14	岸田 劉生	静物（白き花瓶と台皿と林檎四個）	1918	カンヴァス・油彩
15	恩地孝四郎	自画像 D（白和服）	1919	カンヴァス・油彩
16	石井 柏亭	水車場	1927	カンヴァス・油彩

＜抽象と具象－佐藤辰治と 1960 年代の洋画－＞

17	佐藤 辰治	饗宴	1958	カンヴァス・油彩
18	佐藤 辰治	かんのんを守る鳥	1961 頃	カンヴァス・油彩
19	佐藤 辰治	作品 1	1961 頃	カンヴァス・油彩
20	佐藤 辰治	古代の祈り	1962	カンヴァス・油彩
21	佐藤 辰治	キヤソワリ (5)	1963 頃	カンヴァス・油彩
22	前田 常作	ロック街 (白)	1958	カンヴァス・油彩、グアッシュ、石
23	元永 定正	作品 (1)	1958	板・油彩
24	土橋 醇	星空	1961	カンヴァス・油彩
25	齋藤 正夫	曲	1962	カンヴァス・油彩
26	中谷 泰	炭鉱町	1963	カンヴァス・油彩
27	寺田 政明	対話	1963	カンヴァス・油彩
28	吉井 忠	老農夫	1964	カンヴァス・油彩
29	若松光一郎	北国の記念碑	1966	カンヴァス・和紙・カゼインカラー他
30	鎌田 正蔵	マイパターン 1970	1970	カンヴァス・油彩

1. 将軍家への献上 鍋島 ～日本磁器の最高峰～

会 期：2007 年 4 月 7 日(土)～ 5 月 20 日(日)

会 場：企画展示室 A-1・2・3、B

休館日：毎週月曜日（4 月 30 日は開館）

観覧料：一般・大学生 700(560) 円／高校生 400(320) 円／

小・中学生 300(240) 円 ※ () 内は 20 名以上の団体料金

観覧者数：10,087 名

担 当：佐治ゆかり、増渕鏡子

主 催：福島県立美術館、NHK 福島放送局、NHK 東北プランニング

特別協力：佐賀県立九州陶磁文化館

制作協力：NHK プロモーション



チラシ

【内 容】

鍋島焼は佐賀藩鍋島家の御用窯で焼成された最高級の磁器である。徳川将軍家をはじめ公家、大名家への進物として厳重な管理のもとに作られたため、伝世品は少なくたいへん貴重である。また最近の研究により、鍋島焼は江戸時代前期において鍋島家の存亡を左右する戦略的産品であることがわかってきた。

本展は、鍋島焼の最大のコレクションを誇る佐賀県立九州陶磁文化館所蔵作品を核に、重文 3 点を含む 230 点以上の作品によって構成された、鍋島焼の全貌を余すところなく伝える展覧会であった。

【総 括】

日本のやきもののなかでも、特殊な位置を占める鍋島焼は、従来、その全容と実態の詳細が紹介されることはなかった。しかし九州陶磁文化館では、長年の伝世品の調査および大量の出土品の分析をとおして、鍋島焼の年代的な特徴や技術的な変遷を跡付け、その技術の高さと社会的な機能について実証的に解明した。本展覧会はその成果を実物によって紹介する初めての試みであった。

幻のやきものと呼ばれる鍋島焼を、質量ともに可能な限りのレベルで展観した本展は、日本のやきものの技術の高さと意匠のすばらしさを改めて多くの人に実感させるものとなった。



カタログ表紙

□印刷物

- ・ポスター（B2・B3）、チラシ（B4 判三つ折り）、観覧券、案内ハガキ

- ・図録（A4 判変型 279 頁）

図版：カラー 513 点

本文：「将軍家献上 鍋島」

大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館館長）

「鍋島の技法と意匠」

鈴田由紀夫（佐賀県立九州陶磁文化館学芸課長）

「鍋島焼の出土状況」

大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館館長）

鍋島焼裏文様の変遷／全国鍋島焼出土遺跡分布図／

鍋島焼出土例一覧／鍋島焼関連肥前磁器窯跡分布図／

鍋島焼研究一覧／鍋島焼関連年表／作品解説

□関連事業

- ・講演会「将軍家への献上 鍋島焼について」

講師：大橋康二氏（佐賀県立九州陶磁文化館館長）

日時：4 月 22 日(日) 14:00-

会場：美術館講堂（入場無料） 100 名

- ・特別講演会「鍋島焼の魅力」

講師：中島誠之助氏（古美術鑑定家）

日時：4 月 29 日(日) 14:00-

会場：美術館講堂（入場無料・要整理券） 250 名

- ・ギャラリートーク 各回とも 14:00-

講師：佐治ゆかり（当館主任学芸員）

① 4 月 7 日(土) 30 名

② 4 月 14 日(土) 15 名 *友の会会員対象

③ 5 月 12 日(土) 25 名

④ 5 月 19 日(土) 25 名



展示風景



大橋康二氏講演会（4/22）



中島誠之助氏特別講演会（4/29）



ギャラリートーク（4/7）

出品リスト

No.	作品名	製作年代	所蔵者	備考
第一章 草創期～家光と鍋島焼の草創 [有田時代の鍋島]				
1	色絵山水竹鳥文輪花大皿	1640-50年代 肥前・有田窯	(財) 鍋島報効会	佐賀県重文
2	色絵山水竹鳥文輪花大皿	1620-40年代 中国・景德鎮窯	(財) 鍋島報効会	佐賀県重文
3	色絵椿文輪花大皿	1650年代 肥前・岩谷川内藩窯	(財) 鍋島報効会	佐賀県重文
4	色絵椿文輪花大皿	1650年代 肥前・岩谷川内藩窯	(財) 鍋島報効会	佐賀県重文
5	瑠璃釉色絵花散文碗 [台付]	1650年代 肥前・岩谷川内藩窯	(財) 鍋島報効会	佐賀県重文
6	色絵流水文碗 [台付]	1650年代 肥前・岩谷川内藩窯	(財) 鍋島報効会	佐賀県重文
7	色絵紅葉流水文変形小皿	1640-50年代 肥前・岩谷川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 柴田夫妻コレクション	
8	色絵群馬文変形皿 (5)	1650年代頃 肥前・岩谷川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 白雨コレクション	
9	色絵唐花文変形皿	1650年代 肥前・岩谷川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 白雨コレクション	
10	色絵花文瓜形小皿	1650年代 肥前・岩谷川内藩窯	個人	
11	色絵渦繋丸文変形皿	1650-60年代 肥前・岩谷川内藩窯	個人	
12	色絵唐花文葉形皿	1650年代 肥前・岩谷川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館	
13	銹瑠璃釉染付捻花文小皿	1650年代 肥前・岩谷川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 柴田夫妻コレクション	
14	青磁色絵豆文葉形皿	1650-60年代 肥前・岩谷川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 柴田夫妻コレクション	
15	瑠璃釉豆文葉形皿	1650-60年代 肥前・岩谷川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 柴田夫妻コレクション	
16	薄瑠璃釉色絵竜胆文変形小皿	1650年代 肥前・岩谷川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館	
17	色絵花文花形小皿	1650年代 肥前・岩谷川内藩窯	個人	
18	色絵松文変形猪口	1650-60年代 肥前・岩谷川内藩窯	個人	
19	銹釉染付瓢文変形猪口 (5)	1650-60年代 肥前・岩谷川内藩窯	個人	
第二章 成長期～藩窯の移転と生産体制の確立 [大川内初期鍋島]				
20	色絵鸚鵡文変形猪口	1650-60年代 肥前・大川内藩窯	個人	
21	瑠璃釉色絵唐花文角猪口	1660-70年代 肥前・大川内藩窯	伊万里市教育委員会	
22	薄瑠璃釉色絵唐草文輪花小皿	1660-70年代 肥前・大川内藩窯 (日峰社下窯)	個人	
23	薄瑠璃釉色絵唐花文小皿	1660-70年代 肥前・大川内藩窯 (日峰社下窯)	佐賀県立九州陶磁文化館	
24	薄瑠璃釉色絵桜花流水文渦形小皿	1655-60年代 肥前・大川内藩窯 (日峰社下窯)	個人	
25	銹釉染付花唐草文壺形小皿	1660-70年代 肥前・大川内藩窯 (日峰社下窯)	個人	
26	瑠璃釉壺形小皿	1660-70年代 肥前・大川内藩窯 (日峰社下窯)	個人	
27	銹瑠璃釉色絵草紙文小皿	1660-70年代 肥前・大川内藩窯 (日峰社下窯)	個人	
28	色絵梅花流水文輪花小皿	1660-70年代 肥前・大川内藩窯 (日峰社下窯)	伊万里市教育委員会	
29	薄瑠璃釉色絵唐花文菱形皿	1660-80年代 肥前・大川内藩窯 (日峰社下窯)	佐賀県立九州陶磁文化館	
30	色絵唐花文変形皿	1660-80年代 肥前・大川内藩窯 (日峰社下窯)	佐賀県立九州陶磁文化館	
31	銹釉染付茄子文小皿	1660-80年代 肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館	
32	色絵鳳凰文皿	1670-80年代 肥前・大川内藩窯	出光美術館	
33	青磁色絵瓢文小皿	1670-80年代 肥前・大川内藩窯	個人	
34	青磁染付梅文輪花長丸皿	1670-90年代 肥前・大川内藩窯	個人	
35	色絵桜花文小皿	1670-80年代 肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館	
36	青磁染付大根文小皿	1670-80年代 肥前・大川内藩窯	個人	
37	色絵花唐草文輪花小皿	1660-80年代 肥前・大川内藩窯	伊万里市教育委員会	
38	色絵桜文皿	1670-90年代 肥前・大川内藩窯	個人	
39	青磁染付花唐草文小皿	1670-80年代 肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館	
40	色絵蜘蛛巣紅葉文変形皿	1670-80年代 肥前・大川内藩窯	伊万里市教育委員会	
41	色絵亀甲文変形皿	1670-90年代 肥前・大川内藩窯	個人	
42	銹釉染付梅文変形皿	1670-90年代 肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館	
43	青磁染付桜花文小皿	1670-90年代 肥前・大川内藩窯	個人	

44	青磁染付鶴文小皿	1670-80年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
45	色絵花唐草文小皿	1670-90年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
46	銚釉色絵丸文変形皿(2)	1670-90年代	肥前・大川内藩窯	東京国立博物館
47	色絵双鳥柏文大皿	1670-90年代	肥前・大川内藩窯	東京国立博物館
48	色絵瓜文変形皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	個人
49	青磁銚釉染付芦文変形小皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	個人
50	色絵野菜尽文皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	出光美術館
51	色絵唐花文小皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	個人
52	染付枝垂桜文三足大皿	1660-70年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
53	色絵杜若文三足大皿	1670-80年代	肥前・大川内藩窯	伊万里市教育委員会
54	染付鶴鴿水草文変形皿	1670-90年代	肥前・大川内藩窯	伊万里市教育委員会
55	青磁染付三壺文小皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
56	染付水葵文小皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	個人
57	染付唐花文小皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	個人
58	色絵松竹梅文小皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
59	色絵菊流水文輪花小皿(2)	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	個人
60	色絵豆文変形皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
61	色絵松皮菱文小皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
62	染付松皮菱文小皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
63	色絵蓮文皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	個人
64	染付更紗文皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	個人
65	染付唐花文皿	1690年代頃	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
66	染付三壺文三壺形小皿	1690年代頃	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
67	青磁染付瓢文輪花小皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	東京国立博物館
68	色絵唐花文輪花小皿	1680-1700年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立博物館
69	染付唐花文皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
70	薄瑠璃釉放射文皿	1680-90年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
71	色絵椿花文猪口	1670-90年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館

第三章 隆盛期～綱吉と元禄・鍋島様式の完成 [大川内盛期鍋島]

72	染付童子雪合戦図三足大皿	1690-1710年代	肥前・大川内藩窯	栗田美術館	展示なし
73	[重文] 染付松文三足大皿	1690-1700年代	肥前・大川内藩窯	サントリー美術館	展示なし
74	[重文] 染付鸞文三足大皿	1690-1710年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館	
75	染付雲文三足大皿	1690-1710年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館	
76	染付雲文大皿	1690-1720年代	肥前・大川内藩窯	サントリー美術館	展示なし
77	[重文] 色絵桃文大皿	1690-1730年代	肥前・大川内藩窯	MOA美術館	
78	色絵橘文大皿	1710-30年代	肥前・大川内藩窯	MOA美術館	
79	染付唐花文皿	1690-1700年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館	
80	染付唐花放射文皿	1690-1730年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館	
81	色絵糸巻文皿	1700-20年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館	
82	色絵梅竹文角小皿(2)	1690-1710年代	肥前・大川内藩窯	個人	
83	青磁桐文香炉	1690-1730年代	肥前・大川内藩窯	伊万里市教育委員会	
84	色絵花唐草文香炉	1690-1720年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館	
85	青磁色絵桃宝尽文皿	1690-1710年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館	
86	青磁染付紫陽花文皿	1690-1730年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館	
87	染付唐花雲文皿	1690-1710年代	肥前・大川内藩窯	愛知県陶磁資料館	
88	色絵組紐文皿	1690-1720年代	肥前・大川内藩窯	大阪市立東洋陶磁美術館	
89	色絵唐花文皿	1690-1710年代	肥前・大川内藩窯	個人	
90	色絵小手毬文皿	1690-1730年代	肥前・大川内藩窯	栗田美術館	
91	色絵芥子文皿	1690-1710年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立博物館	
92	染付水仙薔薇文小皿	1690-1720年代	肥前・大川内藩窯	個人	
93	色絵唐花文小皿	1690-1720年代	肥前・大川内藩窯	個人	
94	色絵葛竹垣文小皿(5)	1690-1720年代	肥前・大川内藩窯	(財) 鍋島報効会	
95	色絵岩鳶文小皿	1690-1720年代	肥前・大川内藩窯	林原美術館	展示なし
96	色絵桜花籠文小皿	1690-1720年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 鹿島鍋島家贈	

97	青磁染付桃文小皿	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
98	染付唐花文小皿	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	伊万里市教育委員会
99	染付三階松文松形皿	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
100	染付唐花文小皿	1690-1710 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
101	色絵水草文小皿	1680-1690 年代	肥前・大川内藩窯	個人
102	染付水仙文皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
103	色絵唐花文小皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
104	色絵唐花文皿	1690-1710 年代	肥前・大川内藩窯	林原美術館 展示なし
105	色絵牡丹唐草文小皿	1700-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
106	色絵石榴竹垣文皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	林原美術館 展示なし
107	色絵宝尽壽字文八角皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	MOA 美術館
108	色絵桜文皿	1700-1720 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
109	色絵椿文皿	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	MOA 美術館
110	色絵木犀霞文皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
111	色絵紅葉流水文皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
112	色絵水草文皿	1690-1710 年代	肥前・大川内藩窯	マスプロ美術館
113	色絵朝顔紫垣文皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	林原美術館 展示なし
114	色絵菊唐草文皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	MOA 美術館
115	色絵草紙文皿	1700-30 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 鹿島鍋島家贈
116	色絵三瓢文皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
117	色絵薔薇文小皿	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	MOA 美術館
118	色絵藤袴文小皿	1700-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
119	色絵柴垣紫陽花文小皿	1700-1720 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 鹿島鍋島家贈
120	色絵花石榴文小皿	1700-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
121	色絵鵲水草文小皿	1700-1720 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
122	色絵棕櫚葉文小皿	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	愛知県陶磁資料館
123	錆釉色絵椿文小皿	1700-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
124	染付桃花文皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 柿右衛門古陶磁美術館
125	色絵松竹梅文皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
126	色絵石楠花躑躅文皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	MOA 美術館
127	色絵唐花文三方割小皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
128	色絵橘文小皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
129	色絵豆文葉形小皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
130	色絵唐花文猪口	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 柿右衛門古陶磁美術館
131	染付唐花文猪口	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	伊万里市教育委員会
132	色絵唐草文猪口	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
133	色絵兜花文八角猪口	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
134	染付兜花文八角猪口	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	伊万里市教育委員会
135	染付菊唐草文猪口	1690-1740 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 蘭島文化振興財団
136	色絵薔薇文猪口	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
137	染付唐花文猪口	1700-1740 年代	肥前・大川内藩窯	愛知県陶磁資料館
138	〔重文〕色絵植木鉢岩牡丹文大皿	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	栗田美術館 展示なし
139	色絵石榴文大皿	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	マスプロ美術館
140	色絵梅山水文大皿	1700-1720 年代	肥前・大川内藩窯	サントリー美術館 展示なし
141	青磁錆釉染付流水二壺文大皿	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	栗田美術館 展示なし
142	染付岩山吹文大皿	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	伊万里市教育委員会
143	染付山水文大皿	1700-1740 年代	肥前・大川内藩窯	福岡市美術館
144	色絵薔薇水仙文大皿	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 蘭島文化振興財団
145	色絵宝尽文大皿	1700-1720 年代	肥前・大川内藩窯	林原美術館 展示なし
146	染付桃文大皿	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	福岡市美術館
147	青磁染付青海波水車文大皿	1690-1740 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
148	青磁染付雷文皿	1700-1740 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
149	染付染付唐花文皿	1700-1740 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 鹿島鍋島家贈

150	染付芹文皿	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
151	染付葛文皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
152	染付椿文皿	1690-1740 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 蘭島文化振興財団
153	染付桜花文皿	1700-1740 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 鍋島報効会
154	染付花籠文皿	1700-1720 年代	肥前・大川内藩窯	マスプロ美術館
155	染付銀杏唐花文皿	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 鹿島鍋島家贈
156	染付兜唐花文皿	1700-1740 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
157	染付芙蓉文変形皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
158	青磁染付壽字桃文小皿	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 白雨コレクション
159	青磁染付椿文小皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
160	染付蘭撫子文輪花三方割皿	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
161	染付梅文輪花三方割皿	1700-1740 年代	肥前・大川内藩窯	個人
162	色絵花束蘭文小皿 (5)	1710-1730 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 白雨コレクション
163	染付筍文輪花皿 (2)	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 鍋島報効会
164	染付唐花文小皿	1690-1720 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 白雨コレクション
165	染付人參文小皿	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
166	染付柊文小皿	1700-1740 年代	肥前・大川内藩窯	個人
167	染付芙蓉文小皿	1700-1720 年代	肥前・大川内藩窯	個人
168	染付鶏頭文小皿	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	個人
169	染付兜花文八角小皿	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	個人
170	染付蜘蛛巣文葉形皿	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
171	染付大根文変形小皿 (2)	1700-1740 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 鍋島報効会
172	青磁花唐草文冠形香炉	1690-1730 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
173	青磁陽刻花唐草文水指	1690-1740 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
174	色絵栗文大皿	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	出光美術館
175	〔重文〕色絵藤棚文大皿	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	九州国立博物館
176	色絵牡丹唐草文水注	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	静嘉堂文庫美術館

第四章 成熟期～吉宗と鍋島焼の成熟 [大川内中期鍋島]

177	青磁染付宝尽文大皿	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	林原美術館	展示なし
178	染付松文大皿	1700-1740 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 白雨コレクション	
179	染付竹筵文大皿	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	伊万里市教育委員会	
180	染付竹流水文大皿	1720-1740 年代	肥前・大川内藩窯	個人	
181	染付岩瀧文大皿	1710-1740 年代	肥前・大川内藩窯	マスプロ美術館	
182	染付雪景山水文大皿	1720-1750 年代	肥前・大川内藩窯	個人	
183	染付雪輪菊水仙文大皿	1730-1740 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館	
184	染付銀杏霞文大皿	1700-1730 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館	
185	染付秋草文大皿	1700-1740 年代	肥前・大川内藩窯	伊万里市教育委員会	
186	染付石榴文大皿	1700-1750 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 蘭東文化振興財団	
187	色絵枝垂桜八橋文大皿	1740-1750 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館	
188	色絵水仙文大皿	1730-1760 年代	肥前・大川内藩窯	個人	
189	染付芙蓉文大皿	1750-1760 年代	肥前・大川内藩窯	個人	
190	青磁染付桃文皿	1720-1730 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館	
191	青磁染付五壺文皿	1720-1740 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館	
192	青磁染付芦波頭文皿	1710-1730 年代	肥前・大川内藩窯	出光美術館	
193	錆釉染付笹文皿	1730-1750 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館	
194	染付秋草文皿	1700-1740 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館	
195	染付棕櫚葉文小皿	1720-1740 年代	肥前・大川内藩窯	愛知県陶磁資料館	
196	染付唐花文皿	1700-1740 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館	
197	染付姫椿欄干文皿	1720-1750 年代	肥前・大川内藩窯	個人	

198	色絵輪繫文皿	1730-1750 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
199	青磁色絵紗綾形文皿	1720-1760 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
200	青磁色絵紅葉竹垣文小皿	1730-1770 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
201	青磁染付柳文輪花皿	1750-1770 年代	肥前・大川内藩窯	個人
202	染付波柳文小皿	1730-1760 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 白雨コレクション
203	染付海老水草文小皿	1720-1740 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
204	染付松文松形小皿	1730-1750 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 鍋島報効会
205	染付月兔文変形小皿	1720-1740 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
206	染付宝尽文大壺	1720-1740 年代	肥前・大川内藩窯	個人
207	青磁麒麟香炉・青磁卓下花生	1750-1770 年代	肥前・大川内藩窯	個人
208	青磁玉取獅子置物	1690-1770 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 竹田恒夫氏贈
209	染付松宝珠文大皿	1750-1770 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 白雨コレクション
210	染付牡丹文皿	1740-1750 年代	肥前・大川内藩窯	個人
211	染付花筏文皿	1750-1770 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館
212	染付楓橘懸橋文皿	1760-1780 年代	肥前・大川内藩窯	個人
213	色絵竹篋文大皿	1760-1780 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 今右衛門古陶磁美術館
214	染付松竹梅霞文大皿	1760-1790 年代	肥前・大川内藩窯	個人

第五章 衰退期～「家治好み」の新鍋島様式 [大川内後期鍋島]

215	染付双龍文輪花皿	1750-1790 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 鍋島報効会
216	染付牡丹文皿	1770-1790 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 家永稜威雄氏贈
217	染付花籠文皿	1770-1790 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 鹿島鍋島家贈
218	染付瀧松文大皿	1770-1790 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 白雨コレクション
219	染付松竹梅文大壺	1790-1820 年代	肥前・大川内藩窯	個人
220	染付松竹梅文大皿	1770-1790 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 白雨コレクション
221	染付梅文大皿	1800-1840 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 鍋島報効会
222	染付牡丹文大皿	1780-1810 年代	肥前・大川内藩窯	個人
223	染付金魚文船形皿	1790-1820 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 西幾多氏贈
224	染付萩文小皿	1770-1790 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 北島常一氏贈
225	染付菊文角小皿	1800-1860 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 鍋島報効会
226	染付桜文小皿	1790-1840 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 鍋島報効会
227	染付桃文大皿	1780-1820 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 鹿島鍋島家贈
228	染付楼閣山水文角小皿	1810-1840 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 西幾多氏贈
229	染付枇杷文皿	1842 年	肥前・大川内藩窯	佐賀県立九州陶磁文化館／ 百溪正明氏贈
230	色絵万年青文皿	1850-1870 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 鍋島報効会
231	染付水仙文皿	1850-1870 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 鍋島報効会
232	染付網干文小皿	1850-1870 年代	肥前・大川内藩窯	個人
233	染付蝶文牡丹形皿	1830-1870 年代	肥前・大川内藩窯	(財) 鍋島報効会
234	染付大川内藩窯図大皿	1830-1870 年代	肥前・大川内藩窯	佐賀県立博物館 佐賀県重文

2. 夢のかたち おもちゃと模型のワンダーランド

会 期：2007年7月14日(土)～9月17日(月/祝)

会 場：企画展示室 A-1・2・3、B

休館日：毎週月曜日（7月16日および9月17日は開館）、7月17日(火)

観覧料：一般・大学生 800(640) 円／高校生 400(320) 円／

：小・中学生 100(80) 円 ※ () 内は 20 名以上の団体料金

観覧者数：14,829 名

担 当：宮武 弘、橋本淳也

主 催：福島県立美術館、NHK 福島放送局、NHK 東北プランニング

特別協力：株式会社バンダイ

制作協力：NHK プロモーション

【概要】

玩具メーカー（株）バンダイは自社の製品以外に、国内外の膨大なおもちゃを所蔵している。本展はそのコレクションから、欧米と日本の模型とおもちゃを紹介する企画展である。NHK プロモーションの依頼で当初から当館が企画に関わり、テーマ設定、展示構成、作品選定等を担当した。

また、本展を土台にして 2008 年度以降、堺市立東文化会館文化ホール（2008 年 4 月 5 日～5 月 18 日）、四日市市立博物館（2008 年 7 月 5 日～9 月 7 日）、山梨県立博物館（2009 年 7 月 11 日～9 月 7 日）において、全国巡回が行われている。

【総括】

本展ではおもちゃ文化を通史的に展観する展示構成をとった。しかし実際には自分が遊んだことのあるおもちゃや興味のあるジャンルだけをじっくり見る観覧者が多く、特定のジャンルに特化しなかった本展は総花的な印象もあったようである。また、本来手にとって遊ぶものであるおもちゃを、見るだけでは楽しめないという意見も多かった。それでも子や孫におもちゃの遊び方を熱心に教える大人たちの姿が多く見られ、展示室は世代間コミュニケーションの場となっていた。

□印刷物

・ポスター（B2・B3）、チラシ（A4）、観覧券、案内ハガキ

・図録（規格／29.7×22.5cm 100 頁）

図版：カラー 217 点

本文：「夢のかたち おもちゃと模型のワンダーランド」

宮武 弘（当館主任学芸員）

「ビスクドールとオートマター 19 世紀の二つの流れ」

宮澤 東（ワールドトイミュージアム館長）

「占領下の日本」

村上大輔（おもちゃコレクター）

「ブリキ玩具の時代—冷たいブリキに詰まったあたたかさ」

茂塚 茂（おもちゃのまちバンダイミュージアム館長）

主要参考文献／主要玩具メーカー解説



B2 ポスター



B3 ポスター



カタログ表紙

□関連事業

・夜間開館

8月7日(火)～12日(日)までの期間中、19:00 まで開館延長

・ギャラリーツアー 会場：企画展示室（要観覧券）

① 7月14日(土) 14:00- 20名

講師：宮澤 東氏（バンダイ・ワールドトイミュージアム館長）

② 7月28日(土) 14:00- 10名

講師：宮武 弘（当館主任学芸員）

③ 8月25日(土) 14:00- 20名

講師：田中貞行氏（株式会社バンダイ文化事業推進チーム）

④ 9月15日(土) 14:00- 10名

講師：宮武 弘（当館主任学芸員）

・ギャラリーレクチャー 会場：企画展示室（要観覧券）

①「ドラえもんをつくる～リアルドリームドラえもんプロジェクト」

7月21日(土) 14:00- 30名

講師：芳賀義典氏（バンダイロボット研究所所長）

②「おもちゃ作りの楽しさ・苦しさ」

8月4日(土) 14:00- 10名

講師：穂積雅人氏（おもちゃ職人）

③「おもちゃ作りの楽しさ・苦しさ」

9月8日(土) 14:00- 20名

講師：穂積雅人氏（おもちゃ職人）

・ワークショップ 会場：美術館実習室、屋外庭園ほか

①「つくってあそぼう～動く！からくりペーパークラフト」

7月29日(日) 10:00-15:30 小学生の親子 16組 32名

講師：坂 啓典氏（ペーパーエンジニア）

②「パラモデルといっしょにプラレールであそぼう」

8月19日(日) 10:00-12:30 12組 24名／13:30-16:00 19組 38名

講師：パラモデル（現代美術家）

③「Nゲージでジオラマをつくろう！」

9月1日(土) 10:00-15:30 16組 28名

9月2日(日) 10:00-15:30 16組 28名

講師：諸星昭弘氏（イラストレーター、模型作家）

・映画会 会場：美術館講堂（入場無料）

①「ゴジラ」（1954年 東宝 白黒 98分）

日時：8月11日(土) 10:30-／14:30- 計40名

②「鉄腕アトム 宇宙の勇者」（1964年 日活 パートカラー 87分）

日時：8月12日(日) 10:30-／14:30- 計50名

□関連記事

・「夢のかたち～おもちゃと模型のワンダーランド」宮武 弘

『河北新報』2007年7月12日

・「おもちゃと模型のワンダーランド」宮武 弘 『福島民友』

（上）「ロンドンからの贈りもの」8月8日

（下）「おもちゃの戦後史」8月15日



展示風景



芳賀義典氏ギャラリーレクチャー（7/21）



パラモデル ワークショップ（8/19）



諸星昭弘氏ワークショップ（9/1）

出品リスト

No.	名称	制作年	生産国	メーカー	材質
1	糸巻きはずみ車の機関車	1880	ドイツ	不詳	金属
2	HR 鉄道 608 形 0-C-0 テンダー蒸気機関車	1900 年代	フランス	不詳	ブリキ
3	古典型 2 軸客車	1870 年代	フランス	不詳	ブリキ
4	2 軸貨車 (人が乗っている)	1870 年代	フランス	不詳	金属・木
5	CLR 鉄道蓄電池式 B 型電気機関車	1902	ドイツ	ゲブリューダー・ピング	金属
6	蒸気機関車	1890	ドイツ	エルンスト・ブランク	金属
7	トラック改造気動車 (ガス)	1933	フランス	ル・ラビード	金属
8	皇帝列車用客車	1902	ドイツ	ゲブリューダー・ピング	金属
9	サーカス猛獣輸送車	1910 年代	ドイツ	ゲブリューダー・ピング	金属
10	フリースタイルトロッコ	1910 年代	不詳	不詳	木・金属
11	サザン鉄道 2-B-0 900 形テンダー蒸気機関車「ETON」	1910	イギリス	ホーンビー	金属
12	駅舎	1920	ドイツ	メルクリン	金属
13	蒸気機関車	1900	ドイツ	ゲブリューダー・ピング	金属・木
14	仏エタ鉄道 2-D-1 テンダー蒸気機関車	1965	イタリア	ピアッジ	金属・プラスチック
15	スイス連邦鉄道 1-C-C-1 電気機関車	1960 年代	イタリア	ピアッジ	金属
16	カッセル・ハノーヴァーエクスプレス蒸気動車	1981	ドイツ	ホビーハース	金属
17	ユニオン・パシフィック鉄道 X4002 形 2-D-D-2 テンダー蒸気機関車	1967	日本	カツミ	金属
18	ドイツ鉄道 2-C-1 テンダー蒸気機関車	不詳	ドイツ	ゲブリューダー・ピング	金属
19	サンタフェ鉄道ディーゼル機関車 B-B	1960 年代	アメリカ	ライオネル	プラスチック・金属
20	サザン鉄道 21C155 形 2-C-1 テンダー蒸気機関車「FIGHTER PILOT」	不詳	不詳	不詳	金属・プラスチック
21	ビスク・ドール	1890	フランス	ジュモー	ビスク・布
22	クロス・ドール	1930 年代	イギリス	ディーンズ・ラグ・ブック	布
23	ワックス・ドール	1880 年代	イギリス	不詳	ろう・布
24	コンポジション・ドール	1910 年代	ドイツ	不詳	コンポジション・布
25	ビスク・ドール	1920	ドイツ	アーモンド・マルセル	ビスク・布
26	セルロイド・ドール	1935	イギリス	キャスセルロイド	セルロイド・布
27	クロス・ドール	1930 年代	イギリス	ディーンズ・ラグ・ブック	布
28	ビスク・ドール	1890	フランス	ジュモー	ビスク・布
29	戴冠式パレード	1950 年代	イギリス	ウィリアム・ブリテン	金属
30	ドールハウス	1905 頃	ドイツ	不詳	木
31	ドールハウス	不詳	不詳	不詳	木
32	バスルーム	1920 年代	ドイツ	メルクリン	金属・布
33	クッキングストーブ	1910 年代	ドイツ	メルクリン	金属
34	からくり人形付台車	1880 頃	不詳	不詳	ビスク・木
35	スケーティングベア	1915	ドイツ	ゲブリューダー・ピング	布・金属
36	セオドア	1907	ドイツ	シュタイフ	布
37	ジャパンティディ・マサコ	1994	ドイツ	シュタイフ	布
38	ゴリウオグドール	1930 年代	イギリス	メリーソート	布
39	木馬の手押し車	1910 年代	不詳	不詳	木
40	ネス湖の怪獣	1925	イギリス	ディーンズ・ラグ・ブック	布
41	蒸気エンジン (農耕用)	1910 年代	ドイツ	ジョージ・カレット	金属
42	蒸気三輪車	1890 年代	ドイツ	シェナー	金属・石膏
43	蒸気消防ポンプ車	1910 年代	ドイツ	ゲブリューダー・ピング	金属
44	センチネル・スチームトラック	1930 年代	ドイツ	ティップ	ブリキ

45	風車に登る人	1905 頃	ドイツ	レーマン	ブリキ
46	ビリヤードプレーヤー	1910 年代	ドイツ	不詳	ブリキ
47	不思議なボール	1906	フランス	マルタン	ブリキ
48	ネズミと少女	1920 年代	ドイツ	不詳	ブリキ
49	回るかご	1920 年代	フランス	不詳	ブリキ
50	買い物かご	1920 年代	不詳	不詳	ブリキ
51	装甲車	1920 年代	ドイツ	ヨハン・ディストラー	ブリキ
52	蒸気機関車	1930 年代	スペイン	バヤ	ブリキ
53	馬車に乗る女の子	1920 年代	ドイツ	メイヤー	ブリキ
54	幸福時代	1933	日本	倉持商店	ブリキ・セルロイド
55	音楽隊	1930 年代	ドイツ	シュコー	ブリキ・布
56	レコードプレイヤー	1930 年代	ドイツ	不詳	ブリキ
57	サイドカー付きバイク	1940 年代	ドイツ	ティップ	ブリキ
58	2 人乗り軍用バイク	1930 年代	ドイツ	ケラーマン	ブリキ
59	アルファロメオ P2・レーシングカー	1925	フランス	CJ	金属・ゴム
60	シトロエン	1930 年代	フランス	アンドレ・シトロエン	ブリキ
61	ジャイロサイクル	1930 年代	イギリス	トライアング	ブリキ・プラスチック
62	二階建てロンドンバス	1920 年代	イギリス	バーネット	ブリキ
63	梯子消防車（格納庫付き）	1920 年代	ドイツ	ティップ	ブリキ
64	木製の巡洋艦	1880 年代	アメリカ	不詳	木・紙
65	ツェッペリン号	1930 年代	ドイツ	ティップ	ブリキ
66	一人乗り飛行機	1910 年代	不詳	不詳	金属
67	旋回型飛行機	1950	フランス	不詳	金属
68	手漕ぎボート	1930 年代	フランス	サイエンティフィック・トイ	木・金属・石膏
69	ジープ NO.1（レプリカ）	1980 年代	日本	小菅	ブリキ
70	ジープ	1947	日本	増田屋	ブリキ
71	ジープ	1947	日本	不詳	ブリキ
72	陶人形（子どもと犬）	1940 年代	日本	不詳	陶器
73	陶人形（キャディー）	1940 年代	日本	不詳	陶器
74	陶人形（襟巻きの女の子）	1940 年代	日本	不詳	陶器
75	陶人形（襟巻きの男の子）	1940 年代	日本	不詳	陶器
76	アヒル	1948	日本	増田屋	セルロイド
77	玉ころがしネコ	1952	日本	不詳	ブリキ・セルロイド
78	小鳥	1947	日本	増田屋	ブリキ
79	カナリア	1940 年代	日本	アルプス商事	ブリキ
80	237 系 電車	1948	日本	平和工業	木
81	新行軍将棋	1940 年代	日本	不詳	木・紙
82	お手玉と姉様	1940 年代	日本	不詳	紙・ロウ・ガラス
83	キャデラック	1953	日本	マルサン	ブリキ・プラスチック
84	クライスラーインベリアル	1962	日本	アサヒ玩具	ブリキ・プラスチック・ゴム
85	トヨタ 2000GT パワービート	1972	日本	野村トイ	ブリキ・プラスチック・ゴム
86	フォードムスタン	1966	日本	アルプス商事	プラスチック・ゴム・布・ブリキ
87	BC 赤函シリーズ	1955-60年代	日本	萬代屋	ブリキ
88	フォルクスワーゲン	1971	日本	バンダイ	ブリキ・プラスチック・ゴム
89	オリンピックジープ	1964	日本	マルサン	ブリキ・ゴム
90	チャンピオンレーサー 38	1968	日本	増田屋	ブリキ・プラスチック・ゴム
91	チャンピオンレーサー 見本品	1963	日本	増田屋	ブリキ・プラスチック・ゴム
92	ジャガー・スタントカー	1971	日本	増田屋	ブリキ・プラスチック・ゴム
93	ベンツ・スタントカー	1971	日本	増田屋	ブリキ・プラスチック・ゴム

94	ムスタング・スタントカー	1971	日本	増田屋	ブリキ・プラスチック・ゴム
95	ハイテクニカルライダー ワールドグランプリレース	1971	日本	トープレ	ブリキ・プラスチック・ゴム
96	ポリスカー	1965	日本	アルプス商事	ブリキ・ゴム
97	ポリスカー	1966	日本	野村トイ	ブリキ・プラスチック・ゴム
98	ポリスカー	1968	日本	太陽工業	ブリキ・プラスチック・ゴム
99	フライング・エアカー	1966	日本	トープレ	アルミ・ブリキ
100	ファイヤーマン・ヘルメット	1972	日本	ヨネザワ	プラスチック
101	梯子消防車	1963	日本	ヨネザワ	ブリキ・プラスチック・ゴム
102	ソニコンバス	1958	日本	増田屋	ブリキ・プラスチック・ゴム
103	はとバス	1963	日本	ヨネザワ	ブリキ・プラスチック・ゴム
104	トロリー列車	1963	日本	矢野満商店	ブリキ
105	弁慶号	1970	日本	エーワン	ポリエチレン・金属
106	シャボン玉汽車	1962	日本	増田屋	ブリキ・プラスチック
107	煙だし汽車	1962	日本	増田屋	ブリキ
108	夢の超特急	1964	日本	ヨネザワ	ブリキ・プラスチック
109	ダグラス C-124 GLOBE MASTER	1966	日本	ヨネザワ	ブリキ・プラスチック
110	コンコルド	1968	日本	寺井商店	ブリキ・プラスチック・ゴム
111	フィールドヘリコプター	1967	日本	トミー	プラスチック・金属
112	ヘリコプター 見本品	1963	日本	不詳	ブリキ・ゴム
113	コンバット GI	1965	日本	トミー	ブリキ・プラスチック
114	ゼロ式艦上戦闘機	1963	日本	バンダイ	ブリキ・プラスチック・ゴム
115	コミカルタンク	1967	日本	トミー	ブリキ・プラスチック
116	シャーマン対空戦車	1964	日本	ヨネザワ	ブリキ・プラスチック・ゴム
117	戦艦大和	1960	日本	ヨネザワ	ブリキ・プラスチック
118	ノーチラス号	1964	日本	ヨネザワ	ブリキ・ゴム
119	犬のcockさん	1963	日本	トミー	ブリキ・プラスチック・布
120	犬のなわとび	1950年代	日本	野村トイ	ブリキ
121	コーンマウス	1963	日本	富士プレス工業所	ブリキ・布・プラスチック
122	シャボン玉ゾウ	1958	日本	トミー	ブリキ・布・プラスチック
123	スモーキング・グランパ	1958	日本	マルサン	ブリキ・布
124	ジョッコー	1950年代	日本	アルプス商事	ブリキ・プラスチック・布
125	鉄棒人形	1955	日本	不詳	セルロイド・金属
126	フラフープ・ガール	1958	日本	不詳	ブリキ・ソフビ・布
127	ダンシング・モンキー	1962	日本	倉持商店	ブリキ・プラスチック・ソフビ・布
128	ミュージカル・ブルドック	1962	日本	マルサン	ブリキ・布
129	ダチョウのタクシー	1962	日本	トープレ	ブリキ
130	ソニックトレインロボット	1962	日本	増田屋	ブリキ・プラスチック
131	ターゲットロボット	1963	日本	増田屋	ブリキ・プラスチック
132	ノンストップラベンダーロボット	1962	日本	増田屋	ブリキ・プラスチック
133	アトミックロボット	1960	日本	ヨネザワ	ブリキ・プラスチック
134	クロームドーム	1969	日本	ヨネザワ	プラスチック
135	スペースステーション	1962	日本	WACO	ブリキ・プラスチック
136	スペースサイトシーイングバス	1964	日本	増田屋	ブリキ・プラスチック
137	スペースホエール	1962	日本	吉屋	ブリキ
138	ムーンエクスプローラー	1963	日本	ヨネザワ	ブリキ・プラスチック
139	アポロZ ムーントラベラー	1969	日本	野村トイ	ブリキ・プラスチック
140	A-1 スペースカー	1965	日本	浅草玩具	ブリキ・プラスチック
141	X-80 プラネットエクスプローラー	1962	日本	増田屋	ブリキ・プラスチック

142	野球盤 F 型	1959	日本	エポック	プラスチック
143	ベースボールゲーム	1960 年代	日本	ダイキ	ブリキ・プラスチック
144	パーフェクトボウリング	1971	日本	エポック	プラスチック・金属
145	サブマリンゲーム	1973	日本	バンダイ	プラスチック
146	パーフェクション	1972	日本	エポック	プラスチック
147	オセロゲーム	1973	日本	ツクダ	プラスチック
148	LOVE TESTER	1969	日本	任天堂	プラスチック・金属
149	トミカ パーキングビル	1972	日本	トミー	プラスチック
150	チャンピオンレーシングセット	1967	日本	バンダイ	プラスチック
151	ランボルギーニ・カウンタック LP400	1976	日本	日本遠隔制御	ブリキ・プラスチック
152	ミニ四駆オーバルホームサーキット	1996	日本	タミヤ	プラスチック
153	汽車レールセット	1961	日本	とみやま商事	プラスチック
154	メロディートレイン	1966	日本	トミー	ブリキ・プラスチック
155	プラレール・東北上越新幹線デラックスセット	1982	日本	トミー	プラスチック
156	お山のシュッポー・ニュー中セット	1968	日本	トイタウン協業	プラスチック
157	スライム	1978	日本	ツクダオリジナル	プラスチックなど
158	ルービックキューブ	1980	日本	ツクダオリジナル	プラスチック
159	ハイパーヨーヨー	1997	日本	バンダイ	プラスチック
160	こんにちは私の赤ちゃん	1964	日本	野村トーイ	ソフビ・布
161	ミコちゃんトーキング	1964	日本	トミー	プラスチック・ソフビ・布
162	ベル付 特大電話	1953	日本	ヨネザワ	ブリキ
163	ままごとあそびセット	1953	日本	東邦化工	プラスチック
164	ママ レンジ	1969	日本	アサヒ玩具	プラスチック・金属
165	オープンレンジ	1972	日本	不詳	金属
166	ママ ディッシャー	1979	日本	アサヒ玩具	プラスチック
167	ママ マジックポット	1979	日本	アサヒ玩具	プラスチック
168	ころがりパンダちゃん	1969	日本	トイタウン協業	プラスチック・布
169	ドラマー・パンダ	1975	日本	ヨネザワ	ブリキ・プラスチック・布
170	ドリinking・パンダ	1972	日本	アルプス商事	プラスチック・布
171	パンダ	1972	日本	不詳	ソフビ・金属
172	くびふりパンダ	1973	日本	ヨネザワ	プラスチック
173	パンダ三輪車	1972	日本	セイワ	金属・プラスチック・ソフビ
174	おさんばダッキー	1975	日本	野村トーイ	プラスチック
175	電子ブロック EX-150	1976	日本	学研	プラスチック
176	アームトロン	1982	日本	トミー	プラスチック
177	プーチ	2000	日本	セガトイズ	プラスチック
178	ブルチ	2000	日本	セガトイズ	プラスチック
179	Game&Watch (ボール)	1980	日本	任天堂	プラスチックなど
180	Game&Watch (フラッグマン)	1980	日本	任天堂	プラスチックなど
181	ファミリーコンピュータ	1983	日本	任天堂	プラスチックなど
182	リモコンアトム	1964	日本	バンダイ	ブリキ・ソフビ
183	ウランカー	1964	日本	多田製作所	ブリキ・ソフビ
184	アトム・スタントカー	1964	日本	多田製作所	ブリキ・ソフビ
185	鉄人 28 号 No. 5	1965	日本	野村トーイ	ブリキ
186	鉄人 28 号 電車回り	1964	日本	ヨネザワ	ブリキ・ソフビ
187	正太郎スクーター	1964	日本	大東	ブリキ・ソフビ
188	フライングエイトマン	1964	日本	浅草玩具	ブリキ・ソフビ
189	超金属 鉄人 28 号	1981	日本	ポピー	金属・プラスチック
190	ゴジラ	1965	日本	マルサン	ブリキ

191	ウルトラマン	1966	日本	マルサン	ブリキ・プラスチック
192	フランケンシュタイン	1973	日本	日本工芸	ソフビ・ブリキ・布
193	快獣ブースカ	1967	日本	マルサン	ブリキ・布
194	仮面ライダー V3 変身ベルト	1973	日本	ポピー	プラスチック
195	ガチャガチャドラえもん	1979	日本	ポピー	ダイキャスト・プラスチック
196	もてもてドラミちゃん	1980	日本	ポピー	ダイキャスト・プラスチック
197	超合金 コン・パトラー V	1976	日本	ポピー	ダイキャスト・プラスチック
198	超合金 ボルテス V	1977	日本	ポピー	ダイキャスト・プラスチック
199	超合金 ダイモス	1978	日本	ポピー	ダイキャスト・プラスチック
200	超合金 ガイキング	1976	日本	ポピー	ダイキャスト・プラスチック
201	超合金 バトルフィーバー	1979	日本	ポピー	ダイキャスト・プラスチック
202	DX 超合金 ダイデンジン	1980	日本	ポピー	ダイキャスト・プラスチック
203	超合金 ゴーグルファイブ	1982	日本	ポピー	ダイキャスト・プラスチック
204	超合金 ダイラガー XV	1982	日本	ポピー	ダイキャスト・プラスチック
205	超合金魂 コン・パトラー V	1999	日本	バンダイ	ダイキャスト・プラスチック
206	1/60 機動戦士ガンダム	1982	日本	バンダイ	プラスチック
207	初代リカちゃん	1967-72	日本	タカラ	ソフビ・布
208	初代リカちゃん	1967-72	日本	タカラ	ソフビ・布
209	4代目リカちゃん	1987-	日本	タカラ	ソフビ・布
210	ピンキーピンク リカちゃん	1992	日本	タカラ	ソフビ・布
211	クリミーマミ ピンブルパンブルセット	1984	日本	バンダイ	プラスチック
212	ミンキーモモ ピカピカかんごふさん	1982	日本	ポピー	プラスチック
213	魔法少女ララベル ドレミマイク	1980	日本	バンダイ	プラスチック
214	花の子ルンルン 魔法のかぎバッグ	1979	日本	ポピー	プラスチック
215	ふたごのモンチッチ	1979	日本	セキグチ	布
216	ふたごのモンチッチ	1979	日本	セキグチ	布
217	ふたごのモンチッチ	1974	日本	セキグチ	布
218	アメリカ型古典 2-B-0 テンダー式蒸気機関車	1900 頃	アメリカ	ケントン	金属
219	5000 形 B 型「VULKAN 号」蒸気機関車	1880 年代	ドイツ	M.H.	ブリキ
220	蒸気機関車	1900 年代	イギリス	バセットローク	金属
221	ニューヨークセントラル鉄道「B 型電気機関車」	1914	ドイツ	ゲブリューダー・ピング	金属
222	米国タイプ 2-B-0 テンダー蒸気機関車	不詳	不詳	不詳	金属
223	2-B-2 蓄電式電気機関車	1930 年代	ドイツ	メーカー不詳	金属
224	0-B-1 テンダー蒸気機関車	不詳	ドイツ	メルクリン	金属
225	ペンシルバニア鉄道 2340 形 2-C-C-2 電気機関車	1955	アメリカ	ライオネル	金属
226	ソ連 B-B-B ディーゼル機関車	1960 年代	旧ソ連	モスカベル	金属
227	K.BAYSTS.B (ドイツバイエルン) 鉄道 2-C-1 テンダー蒸気機関車	1960 年代	不詳	不詳	金属
228	LNER 鉄道 4468 形 2-C-1 蒸気機関車	不詳	日本	アスターホビー	金属
229	LMS 鉄道 C 型ディーゼル機関車	不詳	不詳	不詳	金属
230	扇形機関車	1910 年代	ドイツ	不詳	金属
231	ターンテーブル	不詳	ドイツ	ゲブリューダー・ピング	金属
232	人形	不詳	不詳	不詳	布
233	ビスクドール	不詳	不詳	不詳	ビスク・布
234	バンビーナ・ドール	1930 年代	イギリス	チャド・バリー	布
235	クロス・ドール	1920 年代	フランス	ミスタンゲット	布
236	ノアの箱舟	不詳	不詳	不詳	木
237	子供用ミシン	1950 年代	アメリカ	シンガー	金属
238	ベッドに寝ているクマ	1950 年代	ドイツ	シュタイフ	布

239	デイビッド	1920年代	イギリス	不詳	布
240	テディベア	不詳	不詳	不詳	布
241	テディベア	不詳	不詳	不詳	布
242	テディベア	不詳	不詳	不詳	布
243	テディベア	不詳	不詳	不詳	布
244	熊のプルトイ	不詳	不詳	不詳	金属、布
245	うさぎ	1930年代	イギリス	メリーソート	布
246	6頭だての馬車	不詳	イギリス	ウィリアム・プリテン	金属
247	スチームエンジン	不詳	不詳	不詳	金属
248	スチームトラクター	1930	ドイツ	ドル	金属
249	メリーゴーランド	1910年代	ドイツ	ミュラーアンドカーデダー	ブリキ
250	昆虫	1920年代	日本	E G AWA	ブリキ
251	バッタ	1930年代	日本	不詳	ブリキ
252	アシカ	1910年代	ドイツ	レーマン	ブリキ
253	ニワトリの親子	1918	ドイツ	ハンスエーベル	ブリキ
254	レースカー	1910年代	ドイツ	S & M	ブリキ
255	ボリスバイク	1930年代	日本	倉持商店	ブリキ
256	2台並走するボリスバイク	1950年代	ドイツ	P. Niedermeir Company	ブリキ
257	ラビットスクーター	1950年代	日本	ウサギヤ	ブリキ
258	自転車乗り	1910年代	ドイツ	ギュンターマン	ブリキ
259	二階建て路面電車	1906	ドイツ	ゲブリューダー・ピング	ブリキ
260	クラシックカー	1900年代	ドイツ	ギュンターマン	ブリキ
261	クラシックカー	1900年代	ドイツ	ゲブリューダー・ピング	ブリキ
262	キャラバン付オープンカー	1950年代	フランス	ジュストラ	ブリキ
263	豪華客船	1910年代	ドイツ	ゲブリューダー・ピング	金属
264	戦艦	1880年代	フランス	ラディゲ	木
265	サーチライトトラック	1939	ドイツ	ハウサー	金属
266	6人乗りハーフトラック	1936	ドイツ	ティップ	金属
267	ドイツ軍双発爆撃機	1950年代	イギリス	トライアング	金属
268	フランス空軍戦闘機	1930年代	イギリス	不詳	金属
269	オートジャイロ	1930年代	ドイツ	不詳	金属
270	ブリキ板	不詳	不詳	不詳	ブリキ
271	宇宙への旅	1960年代	イギリス	Parkers Automatic Supplies	木
272	SPIN-A-WIN	1950年代	イギリス	WONDERMATICS	木
273	宙返り飛行機	1940年代	日本	富山玩具製作所	ブリキ・セルロイド
274	野球チーム合わせ	1948	日本	不詳	紙
275	日光写真	1940年代	日本	不詳	紙
276	ままごとあそび	1950年代	日本	東邦化工	プラスチック
277	おさるの運転手	1958	日本	萬代屋	ブリキ
278	ワーゲンバス救急車	1953	日本	萬代屋	ブリキ・プラスチック
279	消防自動車	1957	日本	うさぎ屋	ブリキ
280	ベビースクーター	1953	日本	ヨネザワ	ブリキ
281	ドライビング・ロボット	1958	日本	エスワイトイス	ブリキ
282	サルとピエロ	1962	日本	イワヤ	ブリキ・プラスチック・ソフビ
283	三輪車に乗る子ども	1950年代	日本	万盛玩具	ブリキ・ソフビ
284	アイスクリームベンダー	1950年代	日本	増田屋	ブリキ
285	這い這い人形	1958	日本	不詳	ブリキ・ソフビ・布
286	靴とネコ	1950年代	日本	不詳	ブリキ・セルロイド
287	歩くクマ	1953	日本	アルプス商事	ブリキ・布

288	ピクニック・ベア	1958	日本	アルプス商事	プラスチック・布
289	さるの郵便三輪車	1955	日本	大東	ブリキ
290	ビュイック	1962	日本	野村トーイ	ブリキ
291	インディアナポリス 500	1963	日本	長谷川製作所・塩路商店	ブリキ
292	レーシングカー	1965	日本	塩路商店	ブリキ・プラスチック
293	クラシックポリスカー	1963	日本	寺井商店	ブリキ
294	コルベットハイウェイパトロール	1964	日本	バンダイ	ブリキ・プラスチック
295	ハイウェイパトロール	1958	日本	増田屋	ブリキ
296	ポリス三輪バイク	1962	日本	野村トーイ	ブリキ
297	ファイヤーチーフカー	1962	日本	野村トーイ	ブリキ
298	ポンプ付消防車	1966	日本	松代玩具	ブリキ・プラスチック
299	ファイヤージープ	1962	日本	野村トーイ	ブリキ
300	レースカート	1962	日本	野村トーイ	ブリキ・ソフビ・プラスチック
301	リニャーモーターカー	1970	日本	ヨネザワ	プラスチック
302	特急こだま1号セット	1962	日本	増田屋	ブリキ
303	スカイモノレール	1964	日本	バンダイ	ブリキ
304	YS-11 アメリカンエアライナー	1968	日本	万盛玩具	ブリキ
305	パーチカルライナー	1962	日本	トミー	ブリキ
306	ゼロ戦	1963	日本	光球商会	ブリキ
307	フォッケウルフ FW-190	1966	日本	光陽金属	ブリキ
308	B-58 ジェット戦闘機	1962	日本	野村トーイ・マークス	ブリキ
309	戦車	1965	日本	大東	ブリキ・プラスチック
310	アーミージープ	1964	日本	野村トーイ	ブリキ
311	サブシユサー・ウィズ・テプトボム (駆潜艇)	1965	日本	ヨネザワ	ブリキ
312	タグボート	1963	日本	増田屋	ブリキ
313	アミューズメントパーク・ロケットライド	1964	日本	吉屋	ブリキ
314	ホイッスリング おもちゃの国の機関車	1968	日本	トープレ	ブリキ
315	トーキングロボット	1965	日本	ヨネザワ・トミー	ブリキ
316	アクロロボット	1967	日本	ヨネザワ	プラスチック
317	サンダーロボット	1967	日本	浅草玩具	ブリキ・プラスチック
318	ソニコンロケット	1964	日本	増田屋	ブリキ・プラスチック
319	犬の観覧車	1964	日本	エスワイトイス	ブリキ
320	チーフルドッグ	1964	日本	ENDOH (エンドウ)	ブリキ
321	たるに入った子犬	1967	日本	富士プレス工業所	ブリキ・布
322	ネコとネズミ	1963	日本	不詳	ブリキ
323	ローラースケート・モンキー	1962	日本	アルプス商事	ブリキ・プラスチック・布
324	野球ゲーム	1972	日本	バンダイ	プラスチック
325	おはなしミスタージャイアンツ	1965	日本	トミー	ソフビ
326	サッカーゲーム	1967	日本	トミー	ブリキ・プラスチック
327	ホームダービー	1970	日本	バンダイ	プラスチック
328	ミス・ナンシー	1965	日本	オオイケ (大池玩具)	ソフビ
329	おさんぼ エミちゃん	1965	日本	トミー	プラスチック・ソフビ・布
330	おはなし チャコちゃん	1966	日本	トミー	プラスチック・ソフビ・布
331	キッチンセット	1964	日本	アサヒ玩具	プラスチック・金属
332	はかり	1954	日本	ヨネザワ	ブリキ・プラスチック
333	トーキング テレビ電話	1971	日本	ヨネザワ	プラスチック
334	ニューレターメイト	1985	日本	バンダイ	プラスチック
335	自転車に乗る人	1974	日本	バンダイ	ブリキ・プラスチック・ソフビ
336	生き残りゲーム	1973	日本	タカトクトイス	プラスチック

337	サバンナ RX-7	1979	日本	ニッコー	プラスチック
338	タイレル フォード	1978	日本	ニッコー	プラスチック
339	ダッコちゃん	1960	日本	タカラ	ビニール
341	ミサイルインベーダー LSI ゲーム	1979	日本	バンダイ	プラスチックなど
342	エレクトロニクス オセロゲーム	1980	日本	ツクダオリジナル	プラスチックなど
343	サイモン	1978	日本	ヨネザワ	プラスチックなど
344	オムニボット 2000	1985	日本	トミー	プラスチックなど
345	スーパーマリオブラザーズ	1985	日本	任天堂	プラスチックなど
346	ドルアーガの塔	1985	日本	ナムコ	プラスチックなど
347	ドラゴンクエスト	1986	日本	エニックス	プラスチックなど
348	ベイブレード ドラゴンシューター DX	2001	日本	タカラ	プラスチックなど
349	たまごっち	1997-	日本	バンダイ	プラスチックなど
350	デジタルモンスター	1997-	日本	バンダイ	プラスチックなど
351	光っておしゃべりテクテク PINO	2001	日本	ツクダオリジナル	プラスチック
352	鉄腕アトム スポーツカー	1964	日本	新正工業	ブリキ・プラスチック
353	テレビゲーム 鉄腕アトム	1964	日本	小出信宏社	紙・プラスチック
354	ウルトラホーク 1号	1968	日本	松代玩具	プラスチック
355	ウルトラホーク 2号	1968	日本	松代玩具	プラスチック
356	ウルトラホーク 3号	1968	日本	松代玩具	プラスチック
357	仮面ライダー ゼンマイ歩行	1970 年代	日本	エンゼル	ブリキ
358	巨人の星 ピッチングマシン	1968	日本	トイマーク	プラスチック
359	1/850 宇宙戦艦ヤマト	1978	日本	野村トニー	ダイキャスト
360	超合金 マジンガー Z	1981	日本	ポピー	ダイキャスト・プラスチック
361	超合金 グレンダイザー	1976	日本	ポピー	ダイキャスト・プラスチック
362	仮面ライダースーパー 1 V マシン	1980	日本	ポピー	プラスチック
363	ジャンボマシンドー マジンガー Z	1973	日本	ポピー	プラスチック
364	超合金魂 マジンガー Z	1997	日本	バンダイ	ダイキャスト・プラスチック
365	1/60 シャア専用ザク	1982	日本	バンダイ	プラスチック
366	1/1200 ホワイベース	1982	日本	バンダイ	プラスチック
367	キン肉マン 超人戦士 28BOX PART9	1985	日本	バンダイ	エンビ
368	キン肉マン 超人戦士 28BOX PART11	1985	日本	バンダイ	エンビ
369	リモコンバトル ポケモンスタジアムセット	1999	日本	トミー	プラスチック
370	ポケモン モンスターコレクション スターターセット	2001	日本	トミー	PVC
371	ドラえもん にこにこはみがきくん	1978	日本	ポピー	プラスチック
373	2代目リカちゃん	1972-82	日本	タカラ	ソフビ・布
374	3代目リカちゃん	1982-87	日本	タカラ	ソフビ・布
375	ドリームハウス	1967	日本	タカラ	プラスチック・布
376	キャンディーズ スターマイク	1970 年代	日本	バンダイ	プラスチック
377	ピンク・レディー サンバイザー	1970 年代	日本	アサヒ玩具	布
378	ピンク・レディー ビーチボール	1970 年代	日本	アサヒ玩具	ビニール
379	たのきん ゲーム DE デート	1980	日本	バンダイ	紙
380	松田聖子 おしゃれセット	1981	日本	バンダイ	プラスチック
381	キャンディキャンディ ミシン	1970 年代	日本	ポピー	プラスチック
382	キャンディキャンディ おすましキャンディ	1977	日本	ポピー	ソフビ・布
383	ニューテレビロボット	1979	日本	堀川玩具工業	プラスチック・ブリキ
384	ピギー・コック (復刻版)	2000 年代	日本	トミー	ブリキ・プラスチック

3. 上村松園 近代と伝統

会 期：2007年10月6日(土)～11月11日(日)

会 場：企画展示室 A-1・2・3、B

休館日：10月9日(火)、15日(月)、22日(月)、29日(月)、11月5日(月)

観覧料：一般・大学生 1,000(800) 円／高校生 600(400) 円／

小・中学生 400(200) 円

＊() 内は前売および 20 名以上の団体料金

＊きものデー：毎週水曜、着物着用の場合は観覧料半額

観覧者数：34,913 名

担 当：増渕鏡子、堀 宜雄

主 催：上村松園展実行委員会

協 力：NPO 法人福島県立美術館協力会

特別協力：財団法人松伯美術館

助 成：財団法人三菱 UFJ 信託地域文化財団

【概要】

上村松園（1875-1949）は、京都画壇を代表する日本画家である。京都の商家に生まれ、鈴木松年、竹内栖鳳に師事し、明治から昭和前期にかけて文展・帝展を舞台に活躍する。主に江戸時代の風俗を題材に、女性像の表現を深めた。本展では松園の画業を代表する作品を展示、その魅力を紹介した。また、松園の研さんの様子を伝える縮図帖を多数展示、さらに浮世絵、円山四条派作品などの近世美人風俗画を松園作品と対照して展示、その影響関係を探る新たな試みを行った。

【総括】

本展は福島民報社の創刊 115 周年記念の展覧会であった。同紙の広報の効果もあって、国内作家の展覧会としてはかなり多数の集客をみた。関連事業としては、松園の孫である日本画家の上村淳之氏の講演会、会津能楽会によるホールでの能上演などを行い、大変好評であった。アンケートによると、入館者のうち女性が 7 割を占め、年齢でみると 50 歳以上が 6 割を占めた。

□印刷物

・ポスター（B2）、チラシ（A4）、観覧券、案内ハガキ

・図録（A4 判 144 頁）

図版：カラー 93 頁

本文：「上村松園—近代と伝統」上村淳之（日本画家、松伯美術館長）

「序」内山武夫（前京都国立近代美術館長）

「上村松園の古画研究について」増渕鏡子（当館主任学芸員）

「松園芸術にみる品格とは—能楽世界に見る精神性を手がかりに」

鬼頭美奈子（松伯美術館学芸員）

資料（下絵・スケッチ・縮図帖）／略年譜（堀宜雄編）／

参考写真／主要参考文献／出品リスト



B2 ポスター



B3 ポスター



カタログ表紙

□関連事業

・講演会 「佳人を描く」

講師：上村淳之氏（日本画家、松柏美術館館長）

日時：10月14日(日) 14:00- 300名

会場：美術館講堂（入場無料）

・能上演 「羽衣」

出演：会津能楽会

日時：10月27日(土) 14:00- 300名

会場：美術館エントランスホール（入場無料）

・ギャラリートーク 各回とも 14:00-

① 10月6日(土) 講師：鬼頭美奈子氏（松柏美術館学芸員） 100名

② 10月19日(土) 講師：堀 宜雄（当館主任学芸員） 28名

＊福島民報伝次郎クラブ会員対象

③ 10月20日(土) 講師：増渕鏡子（当館主任学芸員） 40名

④ 11月3日(土) 講師：増渕鏡子（当館主任学芸員） 40名

会場：企画展示室（要観覧券）

□関連記事

（福島民報）

・「上村松園 至高の女性美」酒井哲朗 『福島民報』2007年9月23日

・「上村松園の芸術世界①～④」堀宜雄 『福島民報』9月27-30日

・「同⑤」増渕鏡子 『福島民報』10月1日

・「上村松園展が開幕」『福島民報』10月7日

・「永遠の女性美 上村松園展①～⑩」増渕鏡子

『福島民報』10月11-21日

・「上村松園展1万人突破」『福島民報』10月19日

・「上村松園展講演会 日本画家で孫の淳之さん」『福島民報』10月22日

・「上村松園展 名画の舞台裏①⑦」増渕鏡子

『福島民報』10月28-29日

（その他）

・「上村松園展と小山敬三展」田中三蔵 『朝日新聞』10月18日

・「福島県立美術館企画展 上村松園 近代と伝統」増渕鏡子

『河北新報』10月20日

・「伝統に向きあう画家の姿 上村松園展」宝玉正彦

『日本経済新聞』10月27日

・「松園、近世絵画からの影響」高野清見 『読売新聞』11月1日

・「古典に学び、表現する気迫」共同通信配信 11月7-9日

・「上村松園のまねびとみやび」『芸術新潮』2007年11月号



展示風景



能上演（10/27）



ギャラリートーク（10/19）

出品リスト

No.	作品名	制作年	画面寸法 (cm)	材質技法	形状	員数	所蔵
1	婦女の図 (ものおもひ)	1897	121.9 × 51.5	絹本着色		一幅	青梅市立美術館
2	明治初期風俗 十二月	1897 頃	各 26.0 × 18.4	絹本着色	画帖	十二面	奈良県立美術館
3	人生の花	1899	161.0 × 86.5	絹本着色		一幅	京都市美術館
4	人生の花	1899	163.8 × 85.4	絹本着色		一幅	名都美術館
5	夕	1900	116.0 × 42.0	絹本着色		一幅	
6	蟹気楼	1900	134.0 × 56.5	絹本着色		一幅	
7	湯上り美人	1900 年代	114.0 × 42.7	絹本着色		一幅	
8	よそほい	1902 頃	95.0 × 53.0	絹本着色		一幅	福富太郎コレクション資料室
9	しゃぼん玉	1903 頃	140.0 × 56.0	絹本着色		一幅	
10	遊女亀遊	1904	139.0 × 73.0	絹本着色		一幅	
11	花のにぎわい	1907	153.8 × 50.6	絹本着色		一幅	京都国立近代美術館
12	花	1910	157.3 × 72.2	絹本着色		一幅	姫路市立美術館
13	吉野太夫	1910	129.0 × 49.0	絹本着色		一幅	名都美術館
14	春の野図	1910	122.5 × 49.2	絹本着色	額	一面	
15	人形つかい	1910	144.0 × 171.0	絹本着色	二曲一隻		松伯美術館
16	美人之図	1910 頃	137.8 × 56.5	絹本着色		一幅	ウッドワン美術館
17	蜚	1913	175.0 × 98.0	絹本着色		一幅	山種美術館
18	虫の音	明治末～大正初期	126.7 × 42.5	絹本着色		一幅	
19	化粧の図	大正初期	99.6 × 68.9	絹本着色		一幅	
20	ふり袖	1914	131.8 × 50.6	絹本着色		一幅	
21	舞支度	1914	170.0 × 202.0	絹本着色	二曲一隻		京都国立近代美術館
22	花がたみ	1915	208.0 × 127.0	絹本着色	額	一面	松伯美術館
23	天人	1918	157.5 × 160.0	絹本着色	二曲一隻		
24	楊貴妃	1922	161.0 × 189.0	絹本着色	二曲一隻		松伯美術館
25	唐美人	1924 頃	114.0 × 27.0	絹本着色		一幅	松伯美術館
26	楚蓮香之図	1924 頃	142.0 × 56.0	絹本着色		一幅	京都国立近代美術館
27	娘	1926	160.0 × 187.0	絹本着色	二曲一隻		松伯美術館
28	伊勢大輔	1929	78.0 × 70.0	絹本着色		一幅	
29	小町の図	1929-30 頃	43.7 × 51.5	絹本着色	額	一面	
30	汐汲み之圖	昭和初期	121.0 × 41.5	絹本着色		一幅	水野美術館
31	桜可里	昭和初期か	133.8 × 50.5	絹本着色		一幅	山種美術館
32	虹を見る	1932	各 182.0 × 182.0	絹本着色	二曲一双		京都国立近代美術館
33	京美人之図	1932-35 頃	39.0 × 51.0	絹本着色	額	一面	
34	母子	1934	168.0 × 115.5	絹本着色	額	一面	東京国立近代美術館
35	鴛鴦鬘	1935	66.6 × 72.1	絹本着色		一幅	
36	春粧	1935	169.0 × 80.0	絹本着色		一幅	大阪美術倶楽部
37	汐くみ	1935 頃	127.3 × 42.0	絹本着色		一幅	大阪市立近代美術館建設準備室
38	秋の粧	1936	162.7 × 57.6	絹本着色		一幅	西宮市大谷記念美術館
39	郭の春	1936 頃	144.0 × 50.3	絹本着色		一幅	
40	新粧	1937	146.0 × 49.7	絹本着色		一幅	宮城県美術館
41	美人之図	1937	124.4 × 50.0	絹本着色		一幅	
42	春	1938	161.5 × 65.0	絹本着色	額	一面	
43	かんざし	1938 頃	62.3 × 72.0	絹本着色	額	一面	水野美術館
44	雪	1939	63.8 × 72.5	絹本着色		一幅	
45	鼓の音	1940	77.0 × 95.7	絹本着色		一幅	松伯美術館
46	晴れ間	1939 頃	142.4 × 50.0	絹本着色		一幅	

47	初雪	1940 頃	52.7 × 61.7	絹本着色	一幅	大川美術館
48	つれづれ	1941	65.0 × 71.5	絹本着色 額	一面	山種美術館
49	晴日	1941	76.0 × 88.0	絹本着色 額	一面	京都市美術館
50	夕暮	1941	213.0 × 99.0	絹本着色 額	一面	京都府立鴨沂高等学校
51	詠歌	1942	66.0 × 72.0	絹本着色	一幅	山種美術館
52	晩秋	1943	183.0 × 87.0	絹本着色 額	一面	大阪市立美術館
53	新蛭	1944	73.5 × 89.0	絹本着色 額	一面	東京国立近代美術館
54	静	1944	172.0 × 72.0	絹本着色 額	一面	東京国立近代美術館
55	麗容	1944 頃	42.0 × 51.5	絹本着色	一幅	
56	庭の雪	1948	54.0 × 66.0	絹本着色	一幅	山種美術館

スケッチ 1	舞仕度	1914	34.6 × 70.5	紙・墨など 額		松伯美術館
スケッチ 2	舞仕度	1914	34.8 × 70.7	紙・墨など 額		松伯美術館
スケッチ 3	花がたみ	1915	26.2 × 37.4	紙・墨など 額		松伯美術館
スケッチ 4	花がたみ	1915	26.4 × 21.2	紙・墨など 額		松伯美術館
スケッチ 5	花がたみ	1915	26.0 × 37.8	紙・墨など 額		松伯美術館
スケッチ 6	楊貴妃	1922	25.0 × 19.5	紙・墨など 額		松伯美術館
スケッチ 7	楊貴妃	1922	25.4 × 17.7	紙・墨など 額		松伯美術館
スケッチ 8	楊貴妃	1922	25.2 × 19.7	紙・墨など 額		松伯美術館
スケッチ 9	能面		24.6 × 18.8	紙・墨など 額		松伯美術館
スケッチ 10	能面		24.7 × 36.6	紙・墨など 額		松伯美術館
スケッチ 11	簪		31.7 × 23.0	紙・墨など 額		松伯美術館
スケッチ 12	簪		31.9 × 23.1	紙・墨など 額		松伯美術館
スケッチ 13	簪		37.5 × 23.8	紙・墨など 額		松伯美術館

下絵一	人生の花	1899	145.0 × 92.0	紙・墨など 額		松伯美術館
下絵二	長夜	1907	148.3 × 111.2	紙・墨など 額		松伯美術館
下絵三	虫の音	1909	101.2 × 172.0	紙・墨など 額		松伯美術館
下絵四	舞仕度	1914	各 165.0 × 95.5	紙・墨など 額	二面	松伯美術館
下絵五	花がたみ	1915	219.5 × 129.0	紙・墨など 額		松伯美術館
下絵六	焰	1918	181.5 × 93.5	紙・墨など 額		松伯美術館
下絵七	楊貴妃	1922	162.0 × 187.5	紙・墨など 額		松伯美術館
下絵八	待月	1926	199.0 × 95.5	紙・墨など 額		松伯美術館
下絵九	序の舞	1936	224.0 × 129.0	紙・墨など 額		松伯美術館
下絵一〇	春雪	1937	162.0 × 57.0	紙・墨など 額		松伯美術館
下絵一一	砧	1938	206.5 × 109.0	紙・墨など 額		松伯美術館
下絵一二	雪	1939	157.2 × 84.2	紙・墨など 額		松伯美術館
下絵一三	夕暮	1941	187.1 × 95.1	紙・墨など 額		松伯美術館
下絵一四	晩秋	1943	159.5 × 92.5	紙・墨など 額		松伯美術館

縮図帖 A			24.5 × 17.4	紙・墨など 冊子		
縮図帖 B			25.0 × 17.3	紙・墨など 冊子		
縮図帖 C			24.2 × 16.5	紙・墨など 冊子		
縮図帖 D			25.4 × 17.5	紙・墨など 冊子		
縮図帖 E			28.2 × 40.0	紙・墨など 冊子		
縮図帖 F			23.5 × 17.6	紙・墨など 冊子		
縮図帖 G			24.5 × 17.0	紙・墨など 冊子		
縮図帖 H			27.6 × 20.2	紙・墨など 冊子		

縮図帖 I	27.4 × 39.0	紙・墨など 冊子	
縮図帖 J	28.0 × 20.2	紙・墨など 冊子	
縮図帖 K	28.0 × 20.0	紙・墨など 冊子	
縮図帖 L	16.5 × 12.7	紙・墨など 冊子	
縮図帖 M	16.8 × 24.8	紙・墨など 冊子	
縮図帖 N	16.8 × 24.0	紙・墨など 冊子	
縮図帖 O	25.5 × 35.0	紙・墨など 冊子	
縮図帖 P	24.4 × 17.0	紙・墨など 冊子	
縮図帖 Q	24.8 × 34.0	紙・墨など 冊子	
縮図帖 R	17.3 × 12.5	紙・墨など 冊子	
縮図帖 S	25.0 × 17.3	紙・墨など 冊子	
縮図帖 T	25.6 × 37.0	紙・墨など 冊子	
縮図帖 U	28.3 × 20.3	紙・墨など 冊子	
縮図帖 V	24.7 × 33.5	紙・墨など 冊子	
縮図帖 W	13.0 × 17.0	紙・墨など 冊子	
縮図帖 X	17.3 × 25.0	紙・墨など 冊子	
縮図帖 Y	28.0 × 42.0	紙・墨など 冊子	
縮図帖 Z	20.0 × 28.0	紙・墨など 冊子	
縮図帖 A A	27.7 × 20.0	紙・墨など 冊子	
縮図帖 (画帖)	20.0 × 27.0	紙・墨など 画帖	松伯美術館

模写 1 源琦 美人図		紙・墨など 額	
模写 2 森徹山 美人図		紙・墨など 額	
模写 3 源琦 孔雀図		紙・墨など 額	
模写 4 唐風美人	107.0 × 58.0	紙・墨など 額	松伯美術館
模写 5 趙昭儀歌舞	106.5 × 57.5	紙・墨など 額	松伯美術館
模写 6 円山応挙 鶏図		紙・墨など 額	松伯美術館

11 Aー喜多川歌麿 絵本四季花 (上) 夏の橋上				
	1801	21.7 × 15.4	彩色摺絵本	太田記念美術館
13 Bー森徹山 吉野画像	19 世紀	111.8 × 33.7	絹本着色	一幅 奈良県立美術館
16 Cー三島上龍 灯籠美人図	19 世紀前期	103.6 × 37.0	絹本着色	一幅 京都府立総合資料館 (京都府立京都文化博物館管理)
17 Dー喜多川歌麿 絵本四季花 (上) 雷雨と蚊帳の女				
	1801	21.7 × 15.4	彩色摺絵本	太田記念美術館
20 Eー山口素絢 糸遊美人図	18 世紀末・19 世紀初	104.8 × 36.1	絹本着色	一幅
24 Fー白井直賢 海棠楊貴妃	19 世紀	111.0 × 41.0	絹本着色	一幅
26 Gー源琦 西王母図	1796	104.4 × 41.8	絹本着色	一幅
31 Hー菱川師宣 立美人図	1688-1704 (元禄期)	90.5 × 35.0	紙本着色	一幅 千葉市美術館
39 Iー勝川春章 吾妻風流図	1781	94.5 × 32.0	絹本着色 双幅 (のうち左幅)	東京藝術大学大学美術館
41 Jー祇園井特 美人図	18 世紀末・19 世紀初	113.4 × 39.4	絹本着色	一幅 奈良県立美術館
Kー小川破笠 白拍子図	1734	88.0 × 31.9	絹本着色	一幅
大下 Lー水野廬朝 美人文読之図	18 世紀末・19 世紀初	41.5 × 57.0	絹本着色	一幅 大谷美術館

4. 生誕 100 年 斎藤清展

会 期：2007 年 11 月 20 日(火)～2008 年 1 月 20 日(日)

休館日：11 月 26 日(月)、12 月 3 日(月)、10 日(月)、17 日(月)、25 日(火)、
28 日(金)～1 月 4 日(金)、7 日(月)、15 日(火)

観覧料：一般・大学生 1,000(800) 円／高校生 600(500) 円／

小・中学生 400(300) 円

* () 内は前売および 20 名以上の団体料金

観覧者数：15,185 名

担 当：吉村有子、荒木康子

主 催：福島県立美術館、斎藤清画伯顕彰協議会、福島民報社、
福島民友新聞社、福島テレビ

共 催：NPO 法人福島県立美術館協力会

後 援：NHK 福島放送局、ラジオ福島、福島中央テレビ、福島放送、
テレビユー福島、ふくしま FM

【概要】

福島県会津坂下町出身の斎藤清（1907-1997）は近代日本を代表する版画家のひとりである。幼い頃北海道に移り住んだ斎藤は絵画の道にひかれ、1931 年 24 歳の時に上京。デザインの仕事をするかたわら、独学で絵画や版画を学び、独自の造形感覚を磨いた。1951 年にはサンパウロ・ビエンナーレで在サンパウロ日本人賞を駒井哲郎と共に受賞。これは国際展における日本人初の受賞であり、その後もルガノ国際版画ビエンナーレ、リュブリアナ国際版画ビエンナーレなどに出品や受賞を重ね、世界的に高い評価を受けた。1994 年には文化功労者にもなっている。

斎藤清の作品は、日本的な美や異国の風物を斬新な造形感覚で表現した木版画をはじめ、変化に富んだ質感と形態が魅力的なコラグラフ、繊細な線で人物を表したドライポイント、自由闊達な水墨画など、ひとつの枠の中には収まりきれない広がりを見せている。

生誕 100 周年を機に開催するこの展覧会では、サンパウロ・ビエンナーレ受賞作である《凝視》や、京都・奈良・長年住んでいた鎌倉など〈古都〉に取材した作品群、ライフワークとなった連作《会津の冬》といった代表作を中心に、コラグラフ、ドライポイント、水墨画、素描も含む 155 点により、斎藤清の画業を紹介した。斎藤清は生前福島県立美術館に 500 点以上の作品を寄贈しているが、今回の展覧会に出品される作品のほとんどはこの福島県立美術館のコレクションである。

また、この展覧会は同等の内容で青梅市立美術館（2007 年 7 月 21 日～9 月 2 日）、北海道立釧路芸術館（2007 年 9 月 15 日～11 月 5 日）、秋田県立近代美術館（2008 年 4 月 26 日～6 月 15 日）に巡回。広く斎藤清の芸術に親しんでもらう機会となった。

【総括】

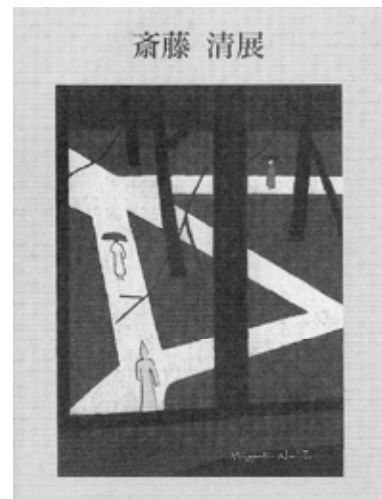
本展は斎藤清画伯顕彰協議会との共催であり、同協議会メンバーである県内マスコミ各社による広報量は多かった。年末年始の開催にもかかわらず 1 万 5 千人の来館者があった。また福島県立美術館協力会が巡回展を管制し、図録や絵葉書等の制作販売にも出資している。



B2 ポスター



B3 ポスター



カタログ表紙

□印刷物

- ・ポスター（B2・B3）、チラシ（A4）、観覧券、案内ハガキ

- ・図録（29.6 × 22.6 cm 162 頁）

図版：カラー 156 点

本文：「ある日の斎藤さん」

酒井忠康氏（世田谷美術館館長・神奈川県立近代美術館顧問）

「斎藤清の芸術」酒井哲朗（当館館長）

「斎藤清—1970 年以前の版画制作と〈会津の冬〉」

吉村有子（当館主任学芸員）

「〈会津の冬〉に託されたもの」

荒木康子（当館主任学芸員）

年譜／文献目録

□関連事業

- ・公開対談 「素顔の斎藤清」

講師：渡辺久子氏（斎藤清遺族）、

早川博明氏（郡山市立美術館館長）

日時：11 月 23 日(金) 13:30-

会場：美術館講堂（入場無料） 109 名

- ・ギャラリートーク 各回とも 13:30-

① 12 月 2 日(日) 講師：吉村有子（当館主任学芸員） 50 名

② 12 月 9 日(日) 講師：吉村有子（当館主任学芸員） 30 名

＊友の会会員対象

③ 1 月 9 日(日) 講師：荒木康子（当館主任学芸員） 60 名

会場：企画展示室（要観覧券）

□関連記事

- ・「版画家・斎藤清 その一面」森哲也（福島民友文化部）

『福島民友』2007 年 11 月 7 日

- ・「生誕 100 年斎藤清展㊤㊦㊧」荒木康子

『福島民友』11 月 14, 21, 28 日

- ・「生誕 100 年斎藤清の魅力 第 3 部作風の変遷①～④」吉村有子

『福島民報』11 月 18, 19, 25, 26 日

- ・「生誕 100 年斎藤清の世界 時を越える版画の美①～⑩」荒木康子

『福島民友』11 月 20-29 日

- ・「創作の軌跡 斎藤清展作品紹介①～⑩」吉村有子

『福島民報』12 月 4-9, 11-14 日

- ・「時の余白に一会津の冬に潜んで」芥川喜好（毎日新聞編集委員）

『読売新聞』12 月 22 日



展示風景



公開対談（11/23）



ギャラリートーク（12/2）



ギャラリートーク（12/9）



ギャラリートーク（1/9）

出品リスト

No.	作品名	制作年	材質技法	寸法	所蔵
1	少女	1936	紙・木版	24.5 × 18.2	福島県立美術館
2	子供	1937	紙・木版	36.1 × 27.0	福島県立美術館
3	郷の稚児	1938	紙・木版	36.0 × 27.8	福島県立美術館
4	会津の冬（窪）	1938-40頃	紙・木版	40.0 × 45.5	福島県立美術館
5	会津の冬（御母堂）	1938-40頃	紙・木版	38.0 × 45.0	福島県立美術館
6	会津の冬（坂下）	1938-40頃	紙・木版	38.0 × 45.6	福島県立美術館
7	鏡	1938 頃	紙・木版	26.4 × 16.5	福島県立美術館
8	鏡（自画像）	1938 頃	紙・木版	36.1 × 29.0	福島県立美術館
9	北海の魚市	1939 頃	紙・木版	18.0 × 23.6	福島県立美術館
10	選炭	1942	紙・木版	45.1 × 52.5	福島県立美術館
11	赤い花	1948	紙・木版	41.1 × 66.5	福島県立美術館
12	凝視（猫）	1948	紙・木版	75.4 × 41.6	福島県立美術館
13	椿	1948	紙・木版	60.0 × 44.3	福島県立美術館
14	港・小樽	1948	紙・木版	39.2 × 52.8	福島県立美術館
15	ミルク	1948	紙・木版	36.6 × 29.8	福島県立美術館
16	みろく	1948	紙・木版	50.2 × 29.1	福島県立美術館
17	赤い実	1950	紙・木版	60.5 × 45.6	福島県立美術館
18	凝視（花）	1950	紙・木版	60.0 × 41.1	福島県立美術館
19	直子	1950	紙・木版	75.3 × 41.3	福島県立美術館
20	ヌード	1950	紙・木版	75.3 × 41.2	福島県立美術館
21	ヌード（B）	1950	紙・木版	75.9 × 41.5	福島県立美術館
22	無我	1950	紙・木版	75.4 × 42.0	福島県立美術館
23	凝視	1952	紙・木版	41.7 × 66.6	福島県立美術館
24	凝視（二匹の猫）	1952	紙・木版	60.6 × 45.3	福島県立美術館
25	ジェラシー	1952	紙・木版	75.4 × 46.2	福島県立美術館
26	土器（A）	1952	紙・木版	43.7 × 75.9	福島県立美術館
27	会津の冬（B）	1953	紙・木版	39.3 × 54.5	福島県立美術館
28	ハニワ	1953	紙・木版 屏風二曲一隻	103.2 × 139.4	福島県立美術館
29	土器とハニワ	1954	紙・木版	60.3 × 60.3	福島県立美術館
30	仏陀・飛鳥（A）	1954	紙・木版	75.9 × 45.1	福島県立美術館
31	支那寺、長崎	1955	紙・木版	51.6 × 81.7	福島県立美術館
32	門（支那寺）、長崎	1955	紙・木版 屏風二曲一隻	92.5 × 148.5	福島県立美術館
33	館	1955	紙・木版	51.0 × 81.2	福島県立美術館
34	雨のミシガン	1956	紙・木版	52.8 × 38.8	福島県立美術館
35	憩い、メキシコ	1956	紙・木版	53.1 × 38.8	福島県立美術館
36	石庭	1956	紙・木版 屏風二曲一隻	88.1 × 149.3	福島県立美術館
37	野良犬、メキシコ	1956	紙・木版	38.6 × 53.4	福島県立美術館
38	白磁	1957	紙・木版	44.7 × 60.1	福島県立美術館
39	会津の冬	1958	紙・木版	39.2 × 53.4	福島県立美術館
40	唐招提寺、奈良（B）	1959	紙・木版	43.7 × 60.0	福島県立美術館
41	唐招提寺、奈良（D）	1959	紙・木版	60.2 × 45.1	福島県立美術館
42	土偶	1959	紙・木版 屏風二曲一隻	120.8 × 148.6	福島県立美術館
43	仏陀、阿修羅、奈良（A）	1959	紙・木版	75.2 × 44.5	福島県立美術館
44	仏陀、阿修羅、奈良（C）	1959	紙・木版	45.0 × 60.3	福島県立美術館
45	マンジュシャゲ・プロフィール	1959	紙・木版	75.5 × 44.5	福島県立美術館
46	憩い、パリ	1960	紙・木版	52.0 × 37.8	福島県立美術館
47	教会、フランス（A）	1960	紙・木版	51.7 × 37.9	福島県立美術館
48	凝視、モデル、パリ（A）	1960	紙・木版	51.7 × 37.9	福島県立美術館
49	京都の壁（B）	1960	紙・木版	48.6 × 79.1	福島県立美術館
50	ショップガール・パリ	1960	紙・木版	51.5 × 37.8	福島県立美術館
51	ノートルダム、パリ（B）	1960	紙・木版	79.9 × 39.9	福島県立美術館

52	本屋, セーヌ, パリ	1960	紙・木版	37.9 × 51.1	福島県立美術館
53	パリ (3)	1961	紙・木版	52.9 × 38.5	福島県立美術館
54	舞妓, 京都 (L)	1961	紙・木版	75.1 × 44.7	福島県立美術館
55	舞妓, 京都 (S)	1961	紙・木版	75.2 × 44.8	福島県立美術館
56	グリニッチビレッジ (ニューヨーク)	1962	紙・コラグラフ	67.7 × 52.3	福島県立美術館
57	シグナル (A)	1962	紙・木版	60.5 × 44.8	福島県立美術館
58	セントラル公園, ニューヨーク	1962	紙・コラグラフ	67.7 × 52.1	福島県立美術館
59	アネモネ	1963	紙・木版	75.9 × 45.6	福島県立美術館
60	セーヌ, パリ (B)	1963	紙・コラグラフ	61.0 × 45.5	福島県立美術館
61	猫 (1)	1963	紙・コラグラフ	61.3 × 45.9	福島県立美術館
62	猫 (5)	1963	紙・コラグラフ	45.9 × 61.2	福島県立美術館
63	メキシコ (B)	1963	紙・コラグラフ	45.4 × 60.0	福島県立美術館
64	雪のボストン	1963	紙・コラグラフ	59.8 × 45.0	福島県立美術館
65	キラウエア, ハワイ (C)	1964	紙・コラグラフ	45.7 × 60.6	福島県立美術館
66	障子 (D)	1964	紙・木版	41.5 × 57.1	福島県立美術館
67	パニヤンツリー, ハワイ (A)	1964	紙・コラグラフ	60.6 × 45.8	福島県立美術館
68	パンジー	1964	紙・木版	52.8 × 38.4	福島県立美術館
69	嵯峨, 京都 (B)	1965	紙・木版	37.9 × 52.8	福島県立美術館
70	茶室	1965	紙・木版	38.4 × 52.9	福島県立美術館
71	ニューメキシコ	1965	紙・木版	45.6 × 60.5	福島県立美術館
72	タヒチ (A)	1966	紙・木版	45.6 × 60.2	福島県立美術館
73	タヒチ (B)	1966	紙・木版	60.3 × 44.3	福島県立美術館
74	ヌード (C)	1966	紙・木版	42.1 × 29.1	福島県立美術館
75	ヌード (G)	1966	紙・木版	60.3 × 44.6	福島県立美術館
76	冬のパリ (C)	1966	紙・木版	53.0 × 38.0	福島県立美術館
77	モンマルトル, パリ (B)	1966	紙・コラグラフ	30.4 × 22.4	福島県立美術館
78	佐藤首相肖像	1967	紙・木版	60.4 × 43.5	福島県立美術館
79	印度 (B)	1968	紙・木版	39.1 × 53.1	福島県立美術館
80	印度 (C)	1968	紙・木版	38.8 × 53.1	福島県立美術館
81	影	1968	紙・ドライポイント	21.2 × 19.5	福島県立美術館
82	会津の冬 (14)	1969	紙・木版	37.8 × 52.6	福島県立美術館
83	ヌード (A)	1969	紙・ドライポイント	35.4 × 19.8	福島県立美術館
84	会津の冬 (1)	1970	紙・木版	38.4 × 52.8	福島県立美術館
85	会津の冬 (3)	1970	紙・木版	38.3 × 52.7	福島県立美術館
86	会津の冬 (17)	1970	紙・木版	38.1 × 52.6	福島県立美術館
87	会津の冬 (18)	1970	紙・木版	38.1 × 52.6	福島県立美術館
88	会津の冬 (19)	1970	紙・木版	38.5 × 52.4	福島県立美術館
89	桂, 京都 '70 (C)	1970	紙・木版	37.7 × 52.9	福島県立美術館
90	円覚寺, 鎌倉 (B)	1971	紙・木版	37.8 × 52.7	福島県立美術館
91	桂, 京都 (D)	1971	紙・木版	53.2 × 38.0	福島県立美術館
92	夢 (B)	1971	紙・木版	37.6 × 53.0	福島県立美術館
93	会津の家 (A)	1972	紙・木版	45.6 × 74.5	福島県立美術館
94	浄智寺, 鎌倉	1972	紙・木版	37.8 × 52.7	福島県立美術館
95	六月, 鎌倉 (B)	1972	紙・木版	37.8 × 52.9	福島県立美術館
96	柿の会津 (2)	1973	紙・木版	38.0 × 52.9	福島県立美術館
97	競艶	1973	紙・木版	45.3 × 74.5	福島県立美術館
98	猜疑	1973	紙・木版	45.3 × 74.6	福島県立美術館
99	初秋, 会津	1973	紙・木版	37.8 × 52.8	福島県立美術館
100	門, 鎌倉 (F)	1973	紙・木版	38.1 × 53.1	福島県立美術館
101	会津の家 (H)	1974	紙・木版	45.6 × 60.9	福島県立美術館
102	会津の冬 (21)	1974	紙・木版	37.5 × 52.5	福島県立美術館
103	月下美人 (A)	1975	紙・木版	74.6 × 45.1	福島県立美術館
104	慈愛	1975	紙・木版	44.3 × 75.2	福島県立美術館
105	稔りの会津 (2)	1975	紙・木版	45.9 × 60.5	福島県立美術館

106	稔りの会津 (3)	1975	紙・木版	38.5 × 52.7	福島県立美術館
107	ランブ	1975	紙・木版	75.4 × 45.5	福島県立美術館
108	会津の冬 (26)	1977	紙・木版	37.4 × 52.6	福島県立美術館
109	慈愛 (E)	1978	紙・木版	45.7 × 72.3	福島県立美術館
110	会津の冬 (38)	1979	紙・木版	45.4 × 91.2	福島県立美術館
111	只見川, 会津柳津 (1)	1979	紙・木版	37.1 × 72.4	福島県立美術館
112	只見川, 会津柳津 (2)	1979	紙・木版	40.8 × 91.0	福島県立美術館
113	椿	1980	紙・木版	74.5 × 45.4	福島県立美術館
114	霊峰 (1)	1980	紙・木版	45.3 × 61.3	福島県立美術館
115	霊峰 (15), 晴天なり	1980	紙・木版	61.4 × 45.6	福島県立美術館
116	霊峰 (18), 秋 (B)	1980	紙・木版	45.6 × 61.4	福島県立美術館
117	会津の冬 (50)	1981	紙・木版	38.1 × 52.9	福島県立美術館
118	会津の冬 (51)	1982	紙・木版	38.0 × 52.9	福島県立美術館
119	会津の冬 (55)	1982	紙・木版	38.1 × 52.9	福島県立美術館
120	会津の冬 (57)	1982	紙・木版	38.2 × 52.9	福島県立美術館
121	春の鎌倉, 甘縄神明宮	1983	紙・木版	52.8 × 38.1	福島県立美術館
122	扉, 英勝寺, 鎌倉	1984	紙・木版	71.9 × 46.2	福島県立美術館
123	会津の冬 (67) 坂下立木観音	1987	紙・木版	37.7 × 52.7	福島県立美術館
124	会津の冬 (71) 若松	1987	紙・木版	38.0 × 52.9	福島県立美術館
125	あれっ 三姿	1987	紙・木版	37.9 × 52.8	福島県立美術館
126	地の幸	1989	紙・木版	45.8 × 61.0	福島県立美術館
127	会津の冬 (85) 坂下町・宇内 (4)	1990	紙・木版	37.7 × 52.7	福島県立美術館
128	初夏の舞	1990	紙・木版	45.4 × 61.5	福島県立美術館
129	会津の冬 (93) 金山町	1991	紙・木版	37.7 × 52.8	福島県立美術館
130	秋模様	1991	紙・木版	45.6 × 61.6	福島県立美術館
131	かすみ 慈愛	1991	紙・木版	44.2 × 60.3	福島県立美術館
132	会津の冬 (97) 金山町・大志	1992	紙・木版	45.4 × 90.5	福島県立美術館
133	会津の冬 (111) 柳津	1995	紙・木版	38.0 × 53.0	個人
134	会津の冬 (115) 西会津・軽沢	1996	紙・木版	37.8 × 52.9	個人
135	風	1997	紙・木版	60.0 × 45.8	福島県立美術館
136	野仏 (田代) (1)	1977	紙本墨画淡彩	97.4 × 67.2	福島県立美術館
137	野仏 (田代) (4)	1977	紙本墨画淡彩	97.0 × 66.7	福島県立美術館
138	秋の只見	1980	紙本着色	97.0 × 375.5	福島県立美術館
139	会津の冬 (8) 川井	1981	紙本墨画	51.3 × 97.0	福島県立美術館
140	会津の冬 (3) 西会津・関根	1982	紙本墨画	52.0 × 97.0	福島県立美術館
141	会津の冬 (5) 西会津・牧	1982	紙本墨画	52.0 × 97.0	福島県立美術館
142	会津の冬, 西会津・下安座	1982	紙本墨画	53.1 × 97.8	福島県立美術館
143	会津の冬, 三島町・滝谷	1982	紙本墨画	49.8 × 94.8	福島県立美術館
144	会津の冬, 柳津・大野 (1)	1983	紙本墨画	51.5 × 97.5	福島県立美術館
145	会津の冬, 高田・下馬場	1984	紙本墨画	64.8 × 95.0	福島県立美術館
146	会津の冬, 坂下町・気多ノ宮 (1)	1984	紙本墨画	65.0 × 94.9	福島県立美術館
147	会津の冬, 喜多方・南町	1985	紙本墨画	64.9 × 94.7	福島県立美術館
148	会津の冬, 柳津駅	1985	紙本墨画	64.8 × 94.8	福島県立美術館
149	会津の冬, 若松・新横町	1985	紙本墨画	65.7 × 96.3	福島県立美術館
150	憩い, パリ	1959	紙・鉛筆	42.0 × 32.3	福島県立美術館
151	教会	1959	紙・鉛筆	42.0 × 32.3	福島県立美術館
152	凝視, パリ	1959	紙・鉛筆	42.0 × 32.3	福島県立美術館
153	ノートルダム	1959	紙・鉛筆	42.0 × 32.3	福島県立美術館
154	パリ	1959	紙・鉛筆	42.0 × 32.3	福島県立美術館
155	本屋, セーヌ, パリ	1959	紙・鉛筆	32.3 × 42.0	福島県立美術館
156	正月娘姿 (『安井曾太郎版画集』)	1933	紙・木版	39.8 × 28.5	郡山市立美術館

5. この世はいつでもてんやわんや 人間喜劇の百科事典 風刺の巨匠★ドーミエ版画展

会 期：2008年2月16日(土)～3月23日(日)

会 場：企画展示室 A-1、B

休館日：毎週月曜日、3月21日(金)

観覧料：一般・大学生 400(320) 円／高校生 200(160) 円／

小・中学生 100(80) 円 * () 内は 20 名以上の団体料金

観覧者数：3,040 名

担 当：久慈伸一、荒木康子

主 催：福島県立美術館

協 力：茨城県近代美術館

【概要】

19 世紀フランスの画家オノレ・ドーミエ（1808-1879）は、革命に揺れ激動を経ながらも近代都市へと変貌を続ける 19 世紀パリの社会に生きる人間の諸相を百科全書的なスケールで描き、今日リアリズム絵画の先駆者であるとともに代表的画家として高い評価を得ている。油彩、版画、素描、彫刻など幅広く創作を手がけ、版画は収入を得る手段として新聞や雑誌に掲載するため、生涯に約 4,000 点の石版画と 1,000 点余の木版画を制作し、ドーミエの画業の中心を成している。

本展は 1830 年代のフランスのジャーナリズムの勃興期を代表する日刊新聞「シャリヴァリ」に掲載された石版画を中心に 100 点（茨城県近代美術館所蔵作品 58 点と当館に寄託されている作品 42 点）を展示し、政治風刺、社会風刺、当時の風俗・庶民の生活など現代の社会状況に通じる作品を選んで、時代を超えて存在し続ける人間模様の真実と喜怒哀楽の感情のエッセンスを捉えたドーミエの魅力を紹介した。

【総括】

当館寄託作品 42 点を核に借用した作品 58 点とあわせてドーミエの版画の魅力をわかりやすく紹介するため、当時の建築偽装問題や、今と共通する市民生活の情景など、19 世紀パリと現代が重なるエピソードやテーマをもった作品を選んで構成した。作品の解説は、文字を読む行為が鑑賞を妨げないよう、キャプションと一体化させ、ヴィジュアルな注意力を拡散させないよう配慮した。展示会の感想を調べたアンケートによると約 8 割から好評との回答が得られた。

□印刷物：ポスター（B2）、

リーフレット（A4 判変形 6 頁、図版 41 点掲載）、

観覧券、案内ハガキ



B2 ポスター



リーフレット

□関連事業

・特別ギャラリートーク

講師：吉村和明氏（上智大学文学部フランス文学科教授）

日時：3月15日(土) 14:00- 40名

会場：企画展示室（要観覧券）

・ギャラリートーク 各回とも 14:00-

① 2月23日(土) 講師：久慈伸一（当館主任学芸員） 25名

② 3月1日(土) 講師：久慈伸一（当館主任学芸員） 15名

＊友の会会員対象

③ 3月8日(土) 講師：荒木康子（当館主任学芸員） 15名

会場：企画展示室（要観覧券）

・映画会

「自由を我等に」（1932年フランス映画 ルネ・クレール監督作品）

日時：3月2日(日) 10:30- / 13:30- 計50名

会場：美術館講堂（入場無料）

・ミュージアム・コンサート

主催：福島県立美術館、福島県立美術館友の会、福島県立美術館協力会

出演：山本裕康氏（チェリスト）

曲目：J.S. バッハ「無伴奏チェロ組曲」ほか

日時：3月16日(日) 14:00- 350名

会場：美術館エントランスホール（入場無料）

□関連記事

・「ドーミエのリアリズム（発見と探求の水脈）」久慈伸一

『福島日仏協会通信』2008年3月3日

・「風刺の巨匠 ドーミエ版画展 ～激動のパリ大衆を活写～」久慈伸一

『河北新報』3月8日

・「風刺の巨匠 ドーミエ版画展 ～時代超えるリアリズム～」久慈伸一

『福島民報』3月10日



展示風景



吉村和明氏ギャラリートーク（3/15）



ギャラリートーク（2/23）



ギャラリートーク（3/8）

出品リスト

No.	作品名	〔シャリヴァリ〕掲載年月日	サイズ (cm)	所蔵
1	宮廷の舞踏会 1	1833 年 1 月 24 日	24.2 × 18.9	茨城県近代美術館
2	宮廷の舞踏会 5	1833 年 2 月 17 日	24.5 × 17.8	茨城県近代美術館
3	政治風刺 135 全く！随分と上品な舞踏会だ！	1833 年 11 月 14 日	22.1 × 28.0	茨城県近代美術館
4	当世代議士鑑 6 デュフォール	1848 年 12 月 22 日	24.0 × 19.1	
5	当世代議士鑑 8 ピエール・ルルー	1848 年 12 月 30 日	25.6 × 19.6	
6	当世代議士鑑 12 バスティード	1849 年 1 月 24 日	25.9 × 18.0	
7	当世代議士鑑 15 オディロン・パロ	1849 年 1 月 17 日	25.3 × 18.7	
8	当世代議士鑑 23 セナール	1849 年 2 月 28 日	25.0 × 18.5	
9	当世代議士鑑 24 プレイ（ド・ラ・ムルト）	1849 年 2 月 23 日	25.5 × 19.7	
10	当世代議士鑑 25 フェルディナン・フロコン	1849 年 3 月 6 日	24.3 × 19.0	
11	当世代議士鑑 28 アルタロッシュ	1849 年 3 月 14 日	25.2 × 20.1	
12	当世代議士鑑 33 シャンガルニエ	1849 年 4 月 2 日	27.2 × 19.3	
13	当世代議士鑑 38 デュクー	1849 年 4 月 21 日	25.5 × 19.0	
14	当世代議士鑑 41 ダンジョワ	1849 年 5 月 2 日	24.8 × 19.4	
15	当世代議士鑑 立法議会 3 ルブルドン	1849 年 6 月 13 日	25.8 × 21.5	
16	当世代議士鑑 立法議会 6 グランダン	1849 年 6 月 27 日	26.1 × 18.9	
17	当世代議士鑑 立法議会 7 モンタランベール	1849 年 7 月 2 日	25.4 × 19.5	
18	当世代議士鑑 立法議会 11 ブーバン	1849 年 7 月 16 日	26.2 × 20.2	
19	当世代議士鑑 立法議会 14 ララビット	1849 年 7 月 27 日	25.8 × 19.9	
20	当世代議士鑑 立法議会 17 ド・サン＝プリエスト	1849 年 8 月 18 日	26.1 × 18.3	
21	当世代議士鑑 立法議会 19 ルシアン・ミュラ	1849 年 8 月 29 日	26.1 × 19.9	
22	当世代議士鑑 立法議会 24 コルヌ	1849 年 10 月 29 日	25.7 × 18.9	
23	平和会議みやげ話 1	1849 年 9 月 6 日	20.9 × 25.7	
24	平和会議みやげ話 3	1849 年 9 月 8 日	19.9 × 26.0	
25	できごと 81	1850 年 2 月 28 日	21.5 × 26.8	
26	議会百面相 12	1849 年 11 月 30 日	26.3 × 22.5	
27	議会百面相 28	1850 年 12 月 5 日	26.7 × 22.2	
28	議員たちのいる風景 1	1843 年 4 月 3 日	24.2 × 20.5	茨城県近代美術館
29	議員たちのいる風景 3	1843 年 5 月 24 日	23.7 × 20.2	
30	議員たちのいる風景 7	1843 年 4 月 29 日	23.2 × 19.3	茨城県近代美術館
31	ドーミエによるパリのスケッチ	1864 年 9 月 14 日	23.5 × 21.3	茨城県近代美術館
32	博物学講義 1	1838 年 3 月 4 日	21.3 × 19.0	茨城県近代美術館
33	博物学講義 8	1837 年 12 月 13 日	21.5 × 19.0	茨城県近代美術館
34	表情のスケッチ 15	1838 年 6 月 27 日	19.5 × 26.4	茨城県近代美術館
35	表情のスケッチ 25	1838 年 8 月 28 日	20.5 × 27.7	茨城県近代美術館
36	表情のスケッチ 29	1838 年 9 月 24 日	21.5 × 29.8	茨城県近代美術館
37	表情のスケッチ 41	1838 年 12 月 23 日	18.0 × 28.5	茨城県近代美術館
38	パリッ子の諸類型 13	1841 年 7 月 10 日	18.1 × 24.8	茨城県近代美術館
39	パリッ子の諸類型 30	1842 年 6 月 11 日	18.2 × 22.1	茨城県近代美術館
40*	五感 1（パリッ子の諸類型 38）	『カリカチュール第 2 シリーズ』 1839 年 7 月 21 日／ 『シャリヴァリ』 1843 年 1 月 18 日		
			20.2 × 22.8	茨城県近代美術館
41*	五感 4（パリッ子の諸類型 41）	『カリカチュール第 2 シリーズ』 1839 年 9 月 4 日／ 『シャリヴァリ』 1843 年 1 月 6 日		
			19.7 × 22.2	茨城県近代美術館
42*	五感 5（パリッ子の諸類型 42）	『カリカチュール第 2 シリーズ』 1839 年 9 月 13 日／ 『シャリヴァリ』 1843 年 1 月 15 日		
			19.2 × 23.1	茨城県近代美術館
43	夫婦生活 18	1840 年 3 月 8 日	23.5 × 21.0	茨城県近代美術館
44	夫婦生活 36	1841 年 4 月 11 日	23.5 × 18.8	茨城県近代美術館
45	パリのスケッチ（役所にて）	1854 年 2 月 2 日	20.1 × 26.9	茨城県近代美術館
46	善きブルジョワたち 39	1847 年 4 月 5-6 日	24.7 × 21.2	茨城県近代美術館
47	善きブルジョワたち 54	1847 年 9 月 11 日	25.3 × 22.0	茨城県近代美術館
48	パパ 15	1847 年 8 月 24 日	25.0 × 21.2	茨城県近代美術館

49	パリッ子の諸類型 24	1841 年 11 月 23 日	18.1 × 21.0	茨城県近代美術館
50	教師と悪童 13	1846 年 1 月 30 日	18.0 × 25.5	茨城県近代美術館
51	教師と悪童	1845 年 12 月 24 日	18.9 × 24.5	
52	青鞥派＝女流作家 13	1844 年 3 月 8 日	22.0 × 19.5	茨城県近代美術館
53	青鞥派＝女流作家 35	1844 年 7 月 24 日	23.7 × 17.8	茨城県近代美術館
54	青鞥派＝女流作家 39	1844 年 8 月 3 日	22.0 × 19.0	茨城県近代美術館
55*	釣り 1	『カリカチュール第 2 シリーズ』 1840 年 6 月 28 日		
			22.8 × 17.4	茨城県近代美術館
56	パリッ子の舟遊び 14	1843 年 6 月 11 日	20.7 × 26.1	茨城県近代美術館
57	夏のスケッチ 9	1856 年 9 月 3 日	18.9 × 26.4	茨城県近代美術館
58	パリに新しく開店したイギリスレストラン (今日の風刺画 86)	1843 年 3 月 14 日	21.3 × 18.5	茨城県近代美術館
59	願いのすべて 33	1849 年 2 月 14 日	22.9 × 21.1	茨城県近代美術館
60	日々の出来事 (アクチュアリテ) 449	1857 年 10 月 22 日	20.9 × 23.7	茨城県近代美術館
61	パリのお上りさん 1	1844 年 6 月 2 日	24.2 × 18.8	茨城県近代美術館
62	パリのお上りさん 5	1844 年 6 月 11 日	23.1 × 19.3	茨城県近代美術館
63	そんじょそこらで、てんやわんや 9	1841 年 7 月 11 日	24.3 × 19.6	
64	解釈の問題 5	1843 年 10 月 22 日	24.0 × 20.7	
65	解釈の問題	1843 年 10 月 26 日	24.0 × 20.5	
66	パリッ子の喜怒哀楽 50	1842 年 11 月 26 日	23.9 × 18.5	茨城県近代美術館
67	想像力 3	1844 年 1 月	23.3 × 19.1	茨城県近代美術館
68	友達 9	1845 年 8 月 23 日	24.2 × 19.1	茨城県近代美術館
69	今日のスケッチ 28	1849 年 8 月 21 日	25.4 × 21.4	茨城県近代美術館
70	不安をあたえる人と不安がる人 2	1848 年 4 月 10 日	24.8 × 21.3	茨城県近代美術館
71	人生のうるわしき日々 12 公演初日	1844 年 5 月 19 日	27.9 × 23.1	
72	うるわしき日々 90	1846 年 7 月 19 日	24.8 × 22.5	茨城県近代美術館
73	慰安旅行の列車 6	1852 年 8 月 31 日	19.7 × 26.1	茨城県近代美術館
74	ドーミエによるスケッチ	1864 年	24.3 × 21.3	茨城県近代美術館
75	鉄道にて 1	1864 年 8 月 26 日	22.2 × 22.9	茨城県近代美術館
76	パリのスケッチ	1853 年 3 月 30 日	21.8 × 27.0	茨城県近代美術館
77	パリのスケッチ 13	1853 年 5 月 20 日	22.0 × 27.0	茨城県近代美術館
78	日々の出来事 (アクチュアリテ) 54	1852 年 12 月 7 日	20.2 × 25.5	茨城県近代美術館
79	日々の出来事 (アクチュアリテ) 59	1852 年 12 月 27 日	18.3 × 26.0	茨城県近代美術館
80	パリのスケッチ 15	1856 年 11 月 26 日	15.7 × 20.2	茨城県近代美術館
81	店子と大家 6	1847 年 3 月 17 日	24.5 × 21.0	茨城県近代美術館
82	店子と大家 (第 3 シリーズ) 3	1856 年 9 月 15 日	19.8 × 24.8	茨城県近代美術館
83	店子と大家 (第 3 シリーズ) 7	1856 年 11 月 5 日	21.0 × 26.3	茨城県近代美術館
84	パリッ子のスケッチ 8	1853 年 4 月 18 日	23.3 × 21.3	茨城県近代美術館
85*	ドーミエによる劇場のスケッチ	『ジュルナル・アミュザン』 1864 年 1 月 30 日		
			23.6 × 22.1	茨城県近代美術館
86*	展覧会の観客 - ドーミエによるスケッチ	『ジュルナル・アミュザン』 1864 年 6 月 25 日		
			21.1 × 22.7	茨城県近代美術館
87	超能力狂 2	1853 年 4 月 18 日	19.6 × 26.5	茨城県近代美術館
88	日々の出来事 (アクチュアリテ) 505	1858 年 3 月 18 日	25.1 × 21.8	茨城県近代美術館
89	古代史 14 オデュッセウスとペネロペイア	1842 年 6 月 26 日	22.4 × 19.5	
90	古代史 18 時代の名言	1842 年 7 月 10 日	24.5 × 19.3	
91	古代史 40 カリュプソの嘆き	1842 年 12 月 8 日	24.6 × 20.1	
92	古典悲劇の表情 1	1841 年 1 月 10 日	21.0 × 26.5	
93	悲劇 3	1848 年 2 月 4 日	20.8 × 24.3	
94	中国を旅すれば 1 上陸	1843 年 12 月 29 日	20.6 × 26.9	
95	中国を旅すれば 12 中国の競馬	1844 年 9 月 5 日	20.9 × 26.3	
96	日々の出来事 (アクチュアリテ)	1851 年 1 月 1 日	20.9 × 25.7	
97	日々の出来事 (アクチュアリテ)	1851 年 1 月 4 日	20.9 × 26.6	
98	日々の出来事 (アクチュアリテ)	1858 年 9 月 18 日	20.2 × 26.0	
99	日々の出来事 (アクチュアリテ)	1859 年 3 月 8 日	22.1 × 26.5	
100	日々の出来事 (アクチュアリテ)	1851 年 9 月 12 日	22.2 × 22.0	

注：* の作品はシャリヴァリ紙以外に掲載された作品。

また、所蔵欄に表記のない作品はすべて当館寄託作品である。

普及事業

◆館内解説

当館では、随時要請に応じて、以下のような館内解説を行っている。また、常設展における解説シートの作成、コレクション・レクチャー、ギャラリートークなどとの連携により、効果的な美術館ガイダンスをめざしている。

□団体解説

学校教育や学習センター等の社会教育活動の活発化に伴い、団体で美術館を訪れる機会も増えている。そのほとんどが展覧会や館内の案内・解説を希望するため、学芸員が交替で対応している。通常は他の展覧会鑑賞者への配慮から、展示室外での解説を行っている。

内容は当館の概要、および代表的な収蔵品の解説、コレクション展ならびに企画展の解説案内が中心である。

4月7日～3月23日の開館期間での団体総数は158件、のべ5,888人。そのうち解説を行った団体数は94件、のべ4,088人であった。

□質問電話

展示室の各所に「質問電話」を設置し、展示品や美術全般についての観覧者からの質問に答えている。学芸員が直接応答するユニークなホットライン・サービスである。

◆鑑賞講座

国内外のさまざまな時代の美術について、多様な視点から作家・作品を解説し、楽しみながら美術への関心を高める講座である。前年度に引き続き、館長・酒井哲朗による近代日本美術史講座を開講した。

□館長講座「近代の日本美術を語る」（事前申込制・39名参加）

	開催日時	テーマ
第25回	4月21日	特別編：保田春彦の彫刻
第26回	5月19日	近代美術の成熟2
第27回	6月16日	近代美術の成熟3
第28回	7月21日	近代美術の展開1
第29回	8月18日	近代美術の展開2
第30回	10月20日	近代美術の展開3

	開催日時	テーマ
第31回	11月17日	近代美術の展開4
第32回	12月15日	近代美術の展開5
第33回	1月19日	近代美術の展開6
第34回	2月16日	近代美術の展開7
第35回	3月15日	近代美術の展開8

◆キッズ・レクチャー

「アート・キューブ」を使ってコレクション展を楽しむ小学生対象の美術鑑賞講座。2007年度より年2回開催。

日 程：2007年11月11日 小学生9名・保護者10名
2008年 2月24日 小学生7名・保護者7名



◆博物館実習の受け入れ

博物館学芸員資格取得に必要な「博物館実習」について、当館での受講希望の学年を毎年受け入れている。下記の日程に基づき、当館学芸員が講義・指導を行った。

□ 2007年度博物館実習 日 程：2007年7月24日～29日（計6日間）
実習生：3大学 計3名受講

◆実技教室

実技教室は、実制作の体験を通して、表現の喜びを味わい、鑑賞の一助とする目的で実施されている。子供から大人まで、それぞれの対象に応じたテーマを設け、広く美術に親しみ、美術の創作活動における多様な要求に応えることをねらいとしている。

講座は以下の5種類を行っている。一般初心者を対象に、じっくりと作品制作にとり組める「実技講座」、美術のさまざまな技法を紹介・体験する「技法講座」、親子で美術に親しむことを目的とした「親と子の美術教室」、小学生を対象とした「わんぱくミュージアム」、中学生から一般まで気軽に創作を体験できる「一日創作教室」である。

＜実技講座＞	
①「木彫で作る形象」	受講者数 12 名
講師：新井 浩氏（彫刻家、福島大学准教授） 日程：5月27日・6月3日・10日・17日・24日（日曜5回連続） 概要：各自準備したデッサンをもとに10×10×20cmの桂材を用いて、のこぎりで大まかな形を切り出す方法や木材の性質に応じた鑿の使い方など木彫の基本を学び、「人体」や「生物」などをモチーフにイメージを膨らませながら小品を制作した。	
②「生活の中で発見した私の形」	受講者数 8 名
講師：井田勝己氏（東京造形大学准教授） 日程：9月8日・9日・15日・16日・22日・23日（土曜・日曜6回連続） 概要：手や足、植物の葉、思い出の詰まった小物など、身近にあるものを歯科用の型取り剤と超硬質石膏等を使って形にし、組み合わせて立体に表現した。	
③「日本画材の可能性～板に描く」	受講者数 17 名
講師：岡村桂三郎氏（画家、東北芸術工科大学教授） 日程：11月17日・18日・12月1日・2日（土曜・日曜4回連続） 概要：岩絵の具や箔、墨など伝統的な素材を用いた技法にとどまらず、多様な表現を生み出している現代の日本画に焦点を当てた講座。杉板をガスバーナーで焼いて作った基底材に膠で溶いた胡粉を塗り、針で引っかけて線を出して、彩色したり、箔を張るという講師が自らの制作に用いる技法を体験した。	
④「私はどう見える？ 自分の像を木彫で作る」	受講者数 13 名
講師：タノタイガ氏（造形作家） 日程：3月8日・9日・15日・16日・22日・23日（土曜・日曜6回連続） 概要：鏡や写真を使って自分の顔をよく観察してとらえ、時にデフォルメを加えたりしながら、4cm角のエゾ松の角材を寄木してブロック状にした素材を彫刻刀で彫って、テーブルに置ける大きさの自分の像を作った。	

＜技法講座＞		
①「サイエンティフィック・イラストレーションの世界」		受講者数 19 名
講師：木村政司氏（日本大学芸術学部教授） 日程：7 月 21 日(土)・22 日(日) 概要：昆虫や植物の図鑑など、自然を精確に理解するために描かれてきたサイエンティフィック・イラストレーションの世界を、ジャンルとして確立しているアメリカの事情を中心とした講義と模写の体験を通じて楽しみながら理解を深めた。		
②「パステルで描く静物—輝くもの、囁くもの」		受講者数 15 名
講師：中澤由美子氏（イラストレーター） 日程：10 月 6 日(土)・7 日(日) 概要：日々愛用している器や、文房具、お気に入りの雑貨や人形、思い出の品々、散歩の途中で見つけた木の実や貝殻など、それぞれが大切にしている身近なものや、くだもの、野菜、花など描きたい物を持ち寄ってパステルで描いた。		
③「木版リトグラフの技法」		受講者数 16 名
講師：佐竹邦子氏（版画家、多摩美術大学講師）、三瓶光夫氏（版画家） 日程：12 月 8 日(土)・9 日(日) 概要：水と油の反発作用を利用し、クレヨンで描くように表現できる版画技法リトグラフで、ベニヤ板を版材に製版し、油性インクと水彩絵の具を併用してプレス機を使わずに刷る「足踏み刷り」の技法で一版多色刷りの作品を作った。		
＜親と子の美術教室＞		
①「親子でクレヨンをつくろう」		受講者数 11 組 27 名
講師：小原典子氏（女子美術大学アートセミナー講師） 日程：5 月 5 日(土) 概要：子供にとって一番身近な画材のクレヨン。ロウや日本画の顔料などの素材を混ぜて、さまざまな色のクレヨンの原料を作り、紙と粘土で自由に作った動物や植物などの型に入れて成形し、オリジナルなクレヨンを完成させた。		
②「つくってあそぼう～動く！からくりペーパークラフト」		受講者数 16 組 32 名
講師：坂 啓典氏（ペーパーエンジニア） 日程：7 月 30 日(日) 概要：おもちゃのコミカルで意表をつく動きを生み出すさまざまなからくり仕掛け、＜カム＞や＜クランク＞などの働きを利用して「動くペーパークラフト」を作り、仕掛けの動きを生かした奇抜なアイデアを楽しんだ。		
③「みんなで作る動物園」		受講者数 5 組 12 名
講師：高橋和真氏（パッケージクラフト作家） 日程：12 月 16 日(日) 概要：自分の好きな動物をいろいろな空き箱で模様や絵柄を生かして作り、最後に全員の動物を集めて、芝生を模した組み立て式の敷地に配置して動物園を完成し、それぞれが持参したカメラで撮影して完了した。		

＜わんぱくミュージアム＞		
①「パラモデルといっしょにプラレールであそぼう」		a. 受講者数 12 組 24 名 b. 受講者数 19 組 38 名
講師：パラモデル（現代美術家：林泰彦氏＋中野祐介氏） 日程：8 月 19 日(日) a. 午前の部／b. 午後の部 ＊同内容で2回開催 概要：男性2名のアーティストユニット「パラモデル」の指揮のもと、美術館の前庭一面に青いプラスチック製のオモチャのレール「プラレール」を参加者全員で連結し、出来上がったらレールの上に電池で動く列車を走らせて鑑賞した。		
②「かたちを変えられる絵を作ろう！」		受講者数 7 名
講師：久慈伸一（当館主任学芸員） 日程：10 月 21 日(日) 概要：手足が動く人や動物、羽根が動かせる鳥や昆虫など動くものをイメージしながら、B4 判ベニヤパネルにアクリル絵の具で背景を描き、厚紙を切り抜いたパーツを手芸用のとめ具カシメを使って組み合わせ、かたちを変えられる絵を作った。		
③「みえないものを“絵”にしてみよう！」		受講者数 9 名
講師：橋本淳也（当館主任学芸員） 日程：3 月 2 日(日) 概要：目に見えるものだけではなく、ものに触った「感触」や聞こえる「音」のイメージを、落書きするような感覚で紙に水彩で色や形にして表してみようというねらいで、予め準備したさまざまな教材を体験しながら描いた。		

＜一日創作教室＞		
①「偶然のカタチから紡ぐイメージ」		受講者数 11 名
講師：久慈伸一（当館主任学芸員） 日程：7 月 1 日(日) 概要：鉛筆やパステル、水彩など手軽な画材を使って、紙に何気なく描いた形や色が喚起・触発するイメージを検討する体験を通し、写実など、目的を定めて効果的な描法を探しながら描く方法とのイメージへのアプローチの仕方の相違を考えた。		
②「小さな情景（シーン）をつくる」		受講者数 9 名
講師：橋本淳也（当館主任学芸員） 日程：1 月 27 日(日) 概要：「心に残る思い出の情景」や「記憶の中の風景」などを、A4 判パネル（297 × 210mm）を基底材にして、金網や発泡スチロール、軽量紙粘土と木材や麻ひもなどの材料を組み合わせ、アクリル絵の具で彩色してジオラマ風に作り上げた。		

◆学校連携事業

□美術館・学校教育連携協議会

県内小・中学校、高等学校の教師と直接話し合う場を設け、学校・美術館をとりまく現状や問題点を情報交換する中で、相互の現状理解を深めながら継続的な連携活動が展開できる密接な関係を築く目的で以下の事業を継続して実施している。

□先生のための美術館入門

美術鑑賞教育の新たな展開を模索する目的で、先生を対象に広く参加者を募り、より実践的な普及・研究活動を目指して開催している。教師用手引き書『教師のためのやさしい美術館ガイドブック「美術館を楽しもう！」』をもとに美術館の利用方法・状況を紹介。また鑑賞用補助教材「アート・キューブ」やワークシートなどを使用した鑑賞活動例を報告し、その効果を検証している。そして開催中の企画展を鑑賞し、ギャラリートークや講演会を通して内容と見どころを解説した。

学校の窓口である先生を通じて、こども達の鑑賞活動を啓発するとともに、学校・美術館における美術や美術教育に関する幅広い情報交換が行なわれる機会となっており、団体見学や学校連携共同ワークショップなど当館の他の事業・活動への新規参加につながるケースも少なくない。

日 時：企画展開催期間中の土曜または日曜 午後２時間程度

場 所：美術館講義室・展示室

定 員：小・中・高校教師 20 名程度（申し込み多数の場合は抽選）

内 容：教師用ガイドブックによる美術館利用方法の紹介及び鑑賞用教材の使用実践報告と検証。

企画展（ギャラリートークまたは講演会）鑑賞。

講 師：企画展担当学芸員、学校連携担当学芸員

経 費：交通費は参加者の自己負担とし、企画展の観覧料を免除する。

教師用手引き書と「アート・キューブ」ガイドブック、パンフレットを無償配布。

【開催日程】

2007 年 8 月 25 日(土) 「おもちゃと模型のワンダーランド展」 参加人数：5 名

2007 年 10 月 13 日(土) 「上村松園展」 参加人数：8 名



8月25日



10月13日

□学校連携共同ワークショップ

現在活躍中の作家を講師に招き、美術館学芸員と学校を訪問して創作活動を行なう出張ワークショップである。こども達が作家との交流や作品制作を通して「美術」を肌で感じ、美術や美術館により親しんでもらうことを目的に開催している。学校における通常の1～2時間単位の授業とは異なり、こども達が作家と交流しながら制作・鑑賞などの活動に集中する十分な時間と環境を確保できるように、半日～1日の時間を学年単位や全校生でも創作活動を行なえるように設定している。また、学校ではあまり取りあげられていない素材や技法を紹介し、新鮮な体験を通してこども達の美術に対する関心を高めるよう配慮している。また、こども達が美術館を訪れるだけでなく、美術館も学校を訪問することで美術館への理解を深めてもらうねらいもある。

ワークショップで制作したこども達の作品のうち移送可能なものは館に移送して紹介展示し、児童・生徒の美術館への来館を促すとともに、地理的に美術館を利用しづらい学校へも事業の還元・普及をはかっている。

日 程：4月～6月：広報・参加校募集期間

7月：受講通知発送・日程調整

8月～9月：美術館・学校教育連携協議会（講師・担当教諭各校1名・担当学芸員） 当館実習室 1日
内容調整・準備

10月～11月：ワークショップ開催 各学校 半日～1日

12月～1月：紹介展示 当館エントランスホール

場 所：各学校（教室・多目的ホール・美術室・体育館など）

対 象：県内小・中・高校3校 各40名程度（申込み多数の場合は抽選）

経 費：材料等は講師の助言のもと各学校で準備。旅費・謝金は美術館で負担する。

＜2007年度学校連携共同ワークショップ「羊毛からはじまる物語」概要＞

羊毛からつくるフェルト布で詩情豊かな「人形」や「オブジェ」作品を制作し、個展やグループ展、一人劇の舞台で発表している石田氏を講師に迎え、羊毛の触感を味わいながら原初的な技法でフェルト布を織り、織りだしたフェルト布を素材にした作品制作を中心に据えたワークショップを設定した。

羊毛素材や作品の話、制作のエピソード、モンゴル・グルジアなど「羊」を通じて作家が旅した国々の話を小学生には講師の作品を使って人形劇で話した。原毛や羊毛に触れる体験を通して感触や匂いを確かめながら、素材の持つ表情や性質をつかんでいく。原毛を洗淨した乳白色の羊毛で基盤を作り、30色以上に染め分けられた羊毛を組み合わせる絵を描くように並べる。お湯、少量の洗剤をかけて、手の平でこする事で繊維同士が縮みながら絡まり合いフェルト化していく。工程をすすめながら徐々に、こども達それぞれの個性が現れる。指でつまんでも持ち上がらない状態まで数回工程を繰り返して完成となる。乾燥後、作品を手にとって一言ずつ感想を発表し、お互いの作品を鑑賞して終了した。素材の魅力を全身で感じ、素材と対話し、生かしながら制作する面白さを体感する…こども達の笑顔の絶えない心地よいワークショップとなった。

・講 師：石田百合氏（フェルト人形作家）

・開催校一覧

2007年10月 3日(木)	郡山市立三穂田中学校	2年生 34名	担当教諭：山内 美奈先生
2007年10月10日(木)	二本松市立木幡第一小学校	全校生 49名	担当教諭：角田 直子先生
2007年10月11日(木)	田村郡三春町立沢石中学校	全校生 30名	担当教諭：春里満喜子先生
2007年11月21日(木)	南会津郡只見町立只見小学校	3年生 8名	担当教諭：荒川寿美代先生

・紹介展示：活動記録写真、全生徒作品を展示。

2007年12月18日(木)～2008年1月31日(木) 当館エントランスホール



三穂田中学校（10/3）



木幡第一小学校（10/10）



沢石中学校（10/11）



只見小学校（11/21）



美術館での紹介展示

◆美術館への年賀状展

福島県立美術館の新春恒例の事業として、県内の小中学生から寄せられた手作り年賀状をすべて当館エントランスホールに展示した。

干支の「子」をモチーフにした作品の割合が高く、技法・表現は、紙版画・木版画などの版画作品、鉛筆・色鉛筆・墨・ペンなどの様々な描画材を使用した作品、折り紙や布や綿などを貼り込んだ貼り絵・コラージュ作品、パソコンの作画ソフトで描いた作品など多彩で楽しい作品がみられた。絵柄だけでなく「新年の抱負」や「友達へのメッセージ」などが書かれており、作品に込めた素直な子供達の気持ちが伝わってきた。また、授業や部活動などで作った作品をまとめて送付する学校が数多く見られた。



会 期：2008 年 1 月 11 日(金)～ 31 日(木)

応募数：小学生 631 通／中学生 38 通／学年不明その他 4 通 総計 673 通

学 年	小学 1 年	小学 2 年	小学 3 年	小学 4 年	小学 5 年	小学 6 年	中学 1 年	中学 2 年	中学 3 年
枚 数	22 通	267 通	27 通	97 通	189 通	29 通	22 通	15 通	1 通

◆館外での活動

□講演／講義／委員等

- ・福島民友新聞社「ふるさとふくしまフォト・コンテスト」審査委員長 伊藤匡
- ・第 61 回県展運営委員会委員 伊藤匡
- ・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事 伊藤匡
- ・福島市写真美術館運営委員 久慈伸一（2006 年度より継続）
- ・「猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト」審査員 堀宜雄 2007 年 10 月 12 日
- ・全国美術館会議保存研究部会幹事 堀宜雄（2005 年度より継続）
- ・「生誕 100 年斎藤清展」美術講演会「斎藤清の世界」講師 吉村有子 2007 年 9 月 15 日／釧路芸術館

◆その他の事業

□福島県立図書館との連携事業

・「アートなおはなし会」

県立図書館での絵本の読み聞かせと美術館常設展示室での「アート・キューブ」を使った鑑賞を組み合わせた事業。

日時：2007 年 8 月 5 日(日) 午前と午後の 2 回開催

対象：小学生とその保護者 午前の回 14 名／午後の回 26 名



広報・出版

◆広報活動

- ・美術館案内、展覧会スケジュール、チラシ等を館内で配布
- ・企画展ごとにポスター、チラシ、割引券等を配布
- ・県発行の広報誌に事業案内を掲載
- ・その他、随時広報活動を行った。

◆出版発刊

□ 2007 年度刊行物一覧

名 称	規 格	配布方法	内 容
1 ミュージアム・カレンダー	B5 判・三つ折り	無償	年間事業計画
2 美術館ニュース（年 6 回発行）	21 × 38cm・三つ折り	無償	2 か月ごとの事業紹介
3 2006 年度年報	A4 判・84 頁	無償	事業活動報告
4 移動展リーフレット	A3 判・二つ折り	無償	出品作品紹介

□ 美術館ニュース

「美術館ニュース（ART INFORMATION）」は第 132 号より、判型およびデザインの見直しを行い、リニューアルを図った。企画展紹介スペースを拡大したほか、新着情報を集めたコーナーを設けて掲載情報の充実につとめている。



〔表面〕



〔裏面〕

◆ホームページ

福島県立美術館ホームページは 1999 年 10 月 21 日に開設。2003 年 3 月 7 日、サーバ移行にともなって URL を変更して現在に至っている。ホームページ上では展覧会や各種事業の紹介のほか、所蔵品の解説等を掲載するなど、広く利用者に情報提供している。

＜ホームページ・アドレス＞ <http://www.art-museum.fks.ed.jp/>

□ 2003 年 3 月以降の累積アクセス状況（2008 年 3 月 31 日現在）

リクエスト成功件数 *1	6,570,815
上記の日別平均	3,530
ページリクエスト成功件数 *2	1,742,516
上記の日別平均	936

- * 1：アクセスしたユーザーが、正常にデータを読み込むことができた件数。サーバ上にあるファイルすべてを対象とする。
- * 2：「リクエスト成功件数」と異なり、サーバ上のファイルのうち HTML ファイルのみ対象とした件数（ページビュー）。

調査研究

◆調査研究事項

- | | | | |
|---------------|--------------|----------|------------|
| (1)作家調査 | (2)作品調査 | (3)技法調査 | (4)美術史調査 |
| (5)保存関係調査 | (6)教育普及調査 | (7)展覧会調査 | (8)美術館運営調査 |
| (9)県内外の展示施設調査 | (10)美術館利用者動向 | | |

◆重点調査事項

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。当館では県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

2007年度は前年度に引き続き、版画家斎藤清の関連資料調査（書簡、下絵等）を行った。

◆企画展アンケート結果

アンケート記入方式：会期中毎日、展示室内に置かれたアンケートに観覧者が任意に記入。
数値は%で示し、1%未満は四捨五入した。

展覧会名	将軍家への献上 鍋島	シャガール 死せる魂展	おもちゃと模型の ワンダーランド	上村松園 近代と伝統	生誕 100 年 斎藤清展	ドーミエ 版画展
会 期 (開催日数)	4/7-5/20 (39 日間)	6/9-7/1 (20 日間)	7/14-9/17 (57 日間)	10/6-11/11 (32 日間)	11/20-1/20 (47 日間)	2/16-3/23 (31 日間)

1- 性別						
女性	64.7	55.3	60.1	64.3	57.4	61.2
男性	35.3	44.7	39.9	35.7	42.6	38.8

2- 年齢						
10 歳未満	3.2	4.2	19.4	3.7	4.5	14.8
10 歳代	3.6	24.0	32.1	9.0	13.9	14.8
20 歳代	9.3	5.2	7.1	5.0	6.1	14.3
30 歳代	7.7	12.5	13.0	7.4	5.1	7.6
40 歳代	9.9	16.7	13.4	8.7	10.2	11.2
50 歳代	27.9	12.5	6.9	25.3	24.6	14.3
60 歳代	27.3	14.6	4.3	25.9	23.1	14.8
70 歳以上	10.9	10.4	3.8	15.0	12.5	8.1

3- 居住地						
県北	44.3	57.6	60.3	36.1	49.4	60.2
県中・県南	16.6	11.1	16.3	26.1	19.8	13.4
会津	5.6	7.1	3.5	10.8	3.5	5.2
浜通り	5.2	4.0	3.0	8.6	7.7	3.9
県外	28.3	20.2	16.9	18.5	19.6	17.3

4- 仕事						
勤めている	36.5	32.7	27.8	37.6	36.8	33.8
自営	6.3	6.1	2.2	9.4	6.4	4.9
主婦・主夫	26.8	14.3	11.2	20.8	19.8	13.8
学生・生徒・児童	8.5	26.5	50.7	12.7	18.1	32.0
就労はしていない	14.2	12.2	6.2	14.6	14.8	11.1
その他	7.7	8.2	1.8	4.9	4.2	4.4

5- 来館交通手段						
公共交通機関	21.9	22.2	11.9	17.9	24.6	28.8
観光バス・レンタカー	0.6	7.1	0.7	1.9	1.2	0.4
タクシー	0.9	0	1.3	1.0	1.6	0.4
自家用車・バイク	66.9	55.6	72.1	68.1	63.2	52.5
自転車・徒歩	9.1	12.1	12.9	9.6	8.1	16.9
その他	0.6	3.0	1.1	1.5	1.2	0.8

展覧会名	将軍家への献上 鍋島	シャガール 死せる魂展	おもちゃと模型の ワンダーランド	上村松園 近代と伝統	生誕 100 年 斎藤清展	ドーミエ 版画展
6- 来館人数						
1 人	31.2	36.5	13.0	23.5	28.3	26.1
2 人	45.6	27.1	25.5	44.9	39.6	40.7
3～5 人	21.4	16.7	52.4	24.3	21.7	19.0
6～9 人	1.0	4.2	5.9	2.3	2.3	1.3
10 人以上	0.8	15.6	3.3	5.0	8.1	12.8
7- 展覧会情報入手方法						
ポスター	14.0	8.7	20.2	15.0	14.9	18.9
美術館ニュース	10.9	11.7	5.4	6.4	7.6	9.1
美術館に来て	7.0	10.7	9.6	2.8	7.6	10.6
県政番組・県の情報誌	3.7	1.9	3.1	1.7	2.1	0.8
テレビの番組	12.1	3.9	10.2	11.9	12.8	6.1
テレビ CM	6.8	2.9	1.5	6.1	14.4	4.5
ラジオ	0	0	0.9	0.5	0.4	0
新聞・地域情報誌	17.3	21.4	12.3	37.1	21.5	15.9
美術雑誌・全国情報誌	1.8	0	0.3	0.9	1.3	1.1
当館のホームページ	2.9	5.8	2.4	1.4	1.1	3.4
インターネット	2.6	3.9	2.8	0.8	1.6	3.8
友人・知人に聞いて	13.5	11.7	15.7	9.4	8.8	12.5
その他	5.5	17.5	13.3	4.7	5.3	12.1
8- 展覧会情報入手場所						
この美術館で	19.0	20.2	18.0	10.7	21.3	20.8
他の美術館・博物館で	5.8	6.4	2.5	5.7	6.1	2.7
学校で	3.7	13.8	16.6	5.8	8.6	19.9
職場で	6.3	3.2	3.8	6.9	5.1	3.6
街頭で	3.4	2.1	3.1	3.8	3.8	2.7
銀行や病院で	0.9	0	0.6	0.3	0.9	0.5
役所や公民館で	5.4	4.3	2.4	8.2	5.5	3.2
家で	39.0	30.9	38.6	47.9	39.0	32.1
その他	16.6	19.1	14.5	10.7	9.6	14.5
9- 展覧会の評価						
たいへんよい	65.3	38.0	52.7	70.4	66.3	44.0
よい	26.3	37.0	35.2	23.3	26.4	34.9
普通	7.1	17.4	10.0	5.2	6.3	19.0
あまりよくない	1.0	4.3	1.0	0.9	0.7	1.7
悪い	0.4	3.3	0.9	0.2	0.3	0.4
10- 来館回数						
はじめて	22.1	14.0	36.2	21.6	37.7	21.1
数年に 1 回	14.8	12.9	22.1	15.4	17.3	17.9
年 1 - 2 回程度	26.4	31.2	24.0	29.3	25.4	23.8
年 3 - 5 回程度	27.8	30.1	13.3	28.9	12.2	23.8
年 6 - 9 回程度	6.1	4.3	3.1	3.2	4.6	9.4
年 10 回以上	2.8	7.5	1.3	1.6	2.7	4.0
11- 企画展・常設展以外での当館の利用						
講演会	17.6	19.3	4.3	16.8	13.4	13.9
美術鑑賞講座	14.5	8.8	22.9	21.0	16.0	15.7
ギャラリートーク	7.0	8.8	5.4	8.5	9.9	13.0
映画会	3.5	7.0	6.1	4.8	6.8	7.8
実技講座	2.7	0	2.2	4.3	2.1	5.2
レストラン	46.9	49.1	39.1	33.8	40.6	37.4
その他	7.8	7.0	20.1	10.9	11.3	7.0
記入枚数	524	100	793	818	930	234

収 集

◆美術作品および美術資料の収集

□収集方針

収集の対象は、明治（近代）以降の優れた美術作品とし、美術史の流れを知る上で欠かせない優れた古美術も対象としている。具体的な方針としては、以下の4つを掲げている。

- (a) 福島県の出身もしくはゆかりのある作家、作品
- (b) 日本美術の流れを展望するにふさわしい作品
- (c) 海外の優れた美術
- (d) その他当館の収蔵作品としてふさわしい作品や美術資料

□収蔵作品数一覧（2008年3月31日現在）

種 別	購入点数	受贈点数	移管点数	合 計
海 外（絵画・版画・彫刻）	376	10	0	386
日 本 画	68	92	116	276
洋 画	99	191	98	388
版 画	199	442	40	681
立 体	7	20	48	75
工 芸	74	37	33	144
書	0	1	36	37
素描・下絵	34	17	11	62
美術資料	0	18	53	71
合 計	857 点	828 点	435 点	2,120 点

□2007年度収蔵作品

分野	作家名	点数
日本画	角田 磐谷	1 点
洋 画	春日部たすく	15 点
〃	鏑木 昌弥	28 点
立 体	建畠 覚造	7 点
美術資料	寺崎 廣業	1 点
〃	ペンティ・サマラッティ	17 点
〃	エレニ・マリグラ	36 点
合 計		105 点

□新収蔵作品一覧

1. 角田馨谷（1889-1970）

甲子温泉新緑（『福島八景十勝』のうち）

1947 年
絹本着色

50.8 × 56.8cm

管理換



2. 春日部たすく（1903-1985）

電信柱のある風景

1924 年
紙・水彩

34.0 × 41.3cm

福田もゝ子氏寄贈



3. 春日部たすく（1903-1985）

水辺の風景（『電信柱のある風景』の裏面）

1924 年
紙・水彩

34.0 × 41.3cm

福田もゝ子氏寄贈



4. 春日部たすく（1903-1985）

二十三歳の自画像

1926 年
カンヴァス・油彩

39.5 × 31.6cm

福田もゝ子氏寄贈



5. 春日部たすく（1903-1985）

小春日和

1929 年
紙・水彩

52.0 × 63.2cm

渡邊真一氏寄贈



6. 春日部たすく（1903-1985）

植木畑風景

1931 年
紙・水彩

58.5 × 74.3cm

福田もゝ子氏寄贈



7. 春日部たすく（1903-1985）

春雪（郊外の雪景）

1931 年
紙・水彩

58.0 × 72.2cm

福田もゝ子氏寄贈



8. 春日部たすく（1903-1985）

早春

1931 年
紙・水彩

58.5 × 72.2cm

福田もゝ子氏寄贈



9. 春日部たすく（1903-1985）

満州風景

1934 年
紙・水彩

29.6 × 38.3cm

福田もゝ子氏寄贈



10. 春日部たすく（1903-1985）

冬の山なみ

1935 年
紙・水彩

75.4 × 36.8cm

福田もゝ子氏寄贈



11. 春日部たすく（1903-1985）

早春

1936 年
紙・水彩

72.6 × 91.0cm

渡邊真一氏寄贈



12. 春日部たすく（1903-1985）

流れ

1937 年
紙・水彩

72.6 × 99.8cm

渡邊真一氏寄贈



13. 春日部たすく (1903-1985)

風景 (《流れ》の裏面)

1937 年
紙・水彩

72.6 × 99.8cm

渡邊真一氏寄贈



14. 春日部たすく (1903-1985)

三人娘

1942 年頃
紙・水彩

40.1 × 57.9cm

福田もゝこ氏寄贈



15. 春日部たすく (1903-1985)

日の丸と収穫

1944 年
紙・水彩

42.4 × 59.7cm

福田もゝこ氏寄贈



16. 春日部たすく (1903-1985)

裏磐梯

1981 年
カンヴァス・水彩

53.1 × 72.7cm

渡邊真一氏寄贈



17. 鎬木昌弥 (1938-)

神かもしれない

1970 年
紙・鉛筆

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



18. 鎬木昌弥 (1938-)

それは次第に集まり、生まれ、われわれの
まえにあらわれてくるのです

1970 年
紙・鉛筆、フロッタージュ

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



19. 鎬木昌弥 (1938-)

汀

1970 年
紙・鉛筆

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



20. 鎬木昌弥 (1938-)

めざめた人

1970 年
紙・鉛筆

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



21. 鎬木昌弥 (1938-)

風のある橋

1971 年
紙・鉛筆

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



22. 鎬木昌弥 (1938-)

空中の窓

1971 年
紙・鉛筆

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



23. 鎬木昌弥 (1938-)

測量技師の空

1971 年
紙・鉛筆

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



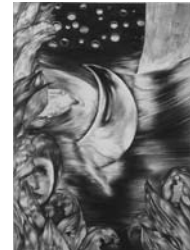
24. 鎬木昌弥 (1938-)

岬の出現

1971 年
紙・鉛筆

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



25. 鐫木昌弥 (1938-)

渡し守りのロマン

1971 年
紙・鉛筆

54.5 × 76.5cm

川妻さち子氏寄贈



26. 鐫木昌弥 (1938-)

苦しい魚

1973 年
紙・鉛筆

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



27. 鐫木昌弥 (1938-)

Cの影

1973 年
紙・鉛筆

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



28. 鐫木昌弥 (1938-)

戦争の-1

1973 年
紙・鉛筆

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



29. 鐫木昌弥 (1938-)

戦争の-2

1973 年
紙・鉛筆

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



30. 鐫木昌弥 (1938-)

涯

1973 年
紙・鉛筆

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



31. 鐫木昌弥 (1938-)

走力とふりかえり (鬼?)

1975 年
紙・コンテ

52.5 × 37.5cm

川妻さち子氏寄贈



32. 鐫木昌弥 (1938-)

たのしみの精

1975 年
紙・鉛筆、銀色鉛筆

55.0 × 39.5cm

川妻さち子氏寄贈



33. 鐫木昌弥 (1938-)

流れと流体现象

1975 年
紙・コンテ

52.5 × 37.5cm

川妻さち子氏寄贈



34. 鐫木昌弥 (1938-)

往きて還らぬ樹陰なり

1978 年
カンヴァス・油彩

97.6 × 145.5cm

川妻さち子氏寄贈



35. 鐫木昌弥 (1938-)

舟航のはてに

1986 年
カンヴァス・油彩

131.0 × 162.0cm

川妻さち子氏寄贈



36. 鐫木昌弥 (1938-)

胸と胴

1988 年
和紙・金泥、アクリル、グアッシュ

182.0 × 100.2cm

川妻さち子氏寄贈



37. 鎬木昌弥 (1938-)

背中への不可能な接近を試みるパンツ -2

1989 年
和紙・金泥、アクリル、グアッシュ
199.4 × 99.2cm 川妻さち子氏寄贈



38. 鎬木昌弥 (1938-)

背中への不可能な接近を試みるパンツ -3

1989 年
和紙・金泥、アクリル、グアッシュ
199.6 × 99.1cm 川妻さち子氏寄贈



39. 鎬木昌弥 (1938-)

黒い処刑図〈偽証〉

1992 年
和紙・金泥、アクリル、グアッシュ
129.6 × 100.5cm 川妻さち子氏寄贈



40. 鎬木昌弥 (1938-)

黒い処刑図〈バベルにて〉

1992 年代
和紙・金泥、アクリル、グアッシュ
129.7 × 100.2cm 川妻さち子氏寄贈



41. 鎬木昌弥 (1938-)

黒い処刑図〈終わり〉

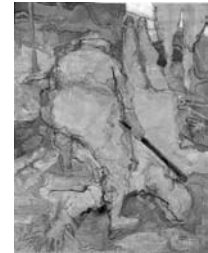
1992 年
和紙・金泥、アクリル、グアッシュ
129.5 × 100.3cm 川妻さち子氏寄贈



42. 鎬木昌弥 (1938-)

黒い処刑図〈混沌〉

1992 年
和紙・金泥、アクリル、グアッシュ
129.9 × 100.5cm 川妻さち子氏寄贈



43. 鎬木昌弥 (1938-)

黒い処刑図〈星々〉

1992 年
和紙・金泥、アクリル、グアッシュ
127.9 × 100.3cm 川妻さち子氏寄贈



44. 鎬木昌弥 (1938-)

黒い処刑図〈星々-2〉

1992 年
和紙・金泥、アクリル、グアッシュ
70.7 × 96.6cm 川妻さち子氏寄贈



45. 建畠覚造 (1919-2006)

SMOKE

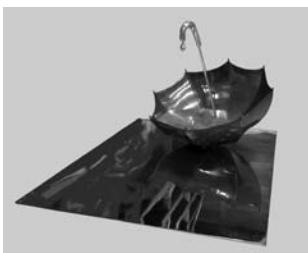
1970 年
強化プラスチック、アクリル塗装
H160 × W69 × D69cm 建畠嘉氏寄贈



46. 建畠覚造 (1919-2006)

さ傘 (天の点滴を此の盃に) (小)

1973 年
アルミニウム、真鍮、クロムメッキ、ステンレスチール
H30 × W40 × D55cm 建畠嘉氏寄贈



47. 建畠覚造 (1919-2006)

CLOUD 24 (大)

1983 年
合板、木
H122 × W164 × D33cm 建畠嘉氏寄贈



48. 建畠覚造 (1919-2006)

WAVING FIGURE 47 (小)

1987 年
合板、木、ウレタン塗装
H25 × W42 × D12cm 建畠嘉氏寄贈



49. 建畠覚造 (1919-2006)

WAVING FIGURE 65

1987 年
合板、木、ウレタン塗装
H42 × W16 × D12cm 建畠嘉氏寄贈



50. 建畠覚造 (1919-2006)

WAVING LADDER 5

1992 年
木、ウレタン塗装
H232 × W96.5 × D144cm 建畠嘉氏寄贈



51. 建畠覚造 (1919-2006)

PILED CUP 6

1997 年
木、FRP、鉛
H120 × W84 × D54cm 建畠嘉氏寄贈



52. 寺崎廣業 (1866-1919)

楊柳観音

1905 年
紙本墨画・双幅
各 97.3 × 15.8cm 佐藤修氏寄贈



53. ペンティ・サマラッティ (1950-)

「猪苗代湖、会津若松市」など (17 点)

2006 年
ゼラチンシルバープリント
各 42.0 × 52.0cm 管理換



54. エレニ・マリグラ (1951-)

Japan Project-Readings II (36 点)

2006 年
タイプCプリント
各 59.7 × 39.7cm 管理換



◆二次資料の収集

□図書資料 (2008 年 3 月 31 日現在)

分類	冊数
辞書・事典・年鑑・図書目録	1,132
画集・美術全集・所蔵品図録	4,693
展覧会図録	15,057
研究書・技法書	5,533
年報・紀要・報告書	4,215
美術雑誌	12,796
その他 (美術教科書など)	1,259
計	44,685 冊

□映像資料 (2008 年 3 月 31 日現在)

分類	点数
自主制作ビデオテープ	42 本
購入・受贈ビデオテープ	66 本
購入・受贈スライドフィルム	11 セット
購入・受贈 CD-ROM / DVD	21 点
16mm 映画フィルム	4 本

保 存

◆保存環境調査の実施

□虫菌害モニタリングと環境測定の実施

調査者：関東港業（株）梶原勝吉、深山 満／立会・記録：堀 宜雄（当館主任学芸員）

仕様概要：2003 年度より現行の仕様で行っている。詳細は 2003、4 年度年報参照。

- ・展示室、収蔵庫、および荷解き室、さらに一般来館者スペースにいたる 5842.7m² について、虫菌害、塵埃、酸アルカリ度、温湿度、紫外線、風速等 9 項目にわたり調査し、展示保存環境が清浄に保たれているかを確認する。
- ・とくに虫菌害については、2002 年度を最後にガス燻蒸を行っていないため、総合的虫害管理（Integrated Pest Management）の考え方にに基づき、トラップなどをもちいて入念に行い、被害の有無を調べている。

調査項目	調査場所・機材・方法等	1 回目 2007.6/11-25	2 回目 2007.8/27-9/10	備 考
1. 昆虫生息調査	収蔵部門 B33/G5/P5/C5/F5 企画展示室 B28/G4/P4/C4/F0 常設展示室 B17/G4/P4/C4/F0 搬入口等 B22/G3/P3/C3/F2 研究一般部門 B15/G4/P4/C4/F0 B- バグトラップ、G- ガチョン、P- パセニウム、C- ニューセリコ、F- フライモニター	捕獲されたもの チャタテムシ…収 46/ 常 23/ 他 3 ハエ目…収 5/ 企 15/ 常 8/ 搬 149/ 他 24 ガ…収 0/ 企 4/ 常 9/ 他 12 タカラダニ…常 4 ゴミムシ…企 2/ 常 6/ 他 4 など	捕獲されたもの チャタテムシ…収 21/ 企 1/ 他 8 ハエ目…企 1/ 常 3/ 他 90 シバンムシ…搬 1 コメツキムシ…常 2 ガ…他 2 クモ…企 3/ 常 2/ 搬 2/ 他 12 など	チャタテムシの多さは変わらず。 ハエ目は力が多く、全体の 8 割程度を占める。 文化財への具体的な加害はみられなかった。
2. 浮遊菌調査	収蔵展示部門 -13 カ所 研究一般部門 -9 カ所 館外 -4 カ所 機材：RCS エアサンプラー（ゲンゼ産業）	1 立米あたり浮遊菌数 収蔵展示部門…平均 1.1 研究一般部門…平均 5.6 館外 …平均 150.0	1 立米あたり浮遊菌数 収蔵展示部門…平均 11.0 研究一般部門…平均 44.7 館外 …平均 394	収蔵庫、展示室とも浮遊菌は少なく、 清浄環境といえる。
3. 塵埃調査	収蔵展示部門 -29 カ所 研究一般部門 -7 カ所／館外 -4 カ所 機材：カノマックスデジタルモニター 3421, Indoor Gas Monitor Model 2331（日本科学工業）	1 立米あたり粉塵量 (mg) 収蔵展示部門…0.000-0.001 研究一般部門…0.000-0.007 館外 …0.008-0.010	1 立米あたり粉塵量 (mg) 収蔵展示部門…0.000-0.009 研究一般部門…0.003-0.019 館外 …0.029-0.034	CO…後期に 0.4ppm（企） CO ² …館内外とも 300ppm 前後
4. 温湿度調査	収蔵庫 -各 1 カ所 展示室 -各 1 カ所 機材：データロガー 3631（日置電機）	収蔵庫 B …21.2 ～ 22.8℃ 収蔵庫 B …54.5 ～ 60.1 % 企画 A-2…22.3 ～ 24.6℃ 企画 A-2…56.5 ～ 69.5 % 常設 A …23.7 ～ 26.0℃ 常設 A …52.8 ～ 59.2 %	収蔵庫 B …22.2 ～ 24.4℃ 収蔵庫 B …56.2 ～ 61.0 % 企画 A-2…24.4 ～ 26.4℃ 企画 A-2…56.6 ～ 68.0 % 常設 A …24.5 ～ 27.0℃ 常設 A …51.5 ～ 63.7 %	設定値と実測値では隔たりがあり、 計測地点の設定でも数値のばらつき が生じたものと考えられる。
5. 空調風速調査	収蔵部門 -11 カ所／展示部門 -21 カ所 研究一般部門 -5 カ所／館外 -4 カ所 機材：クリモマスター 6511（日本カノマックス）	収蔵部門…0.04 ～ 0.17 m 展示部門…0.01 ～ 0.49 m 研究一般…0.02 ～ 0.08 m 館外 …0.58 ～ 2.35 m	収蔵部門…0.02 ～ 0.12 m 展示部門…0.03 ～ 0.14 m 研究一般…0.03 ～ 0.13 m 館外 …0.19 ～ 0.94 m	収蔵庫、展示室ともほとんどの場所 で 0.1m 以下に抑えられている。
6. アルカリ性物質調査	収蔵展示部門 -各 10 カ所 研究一般部門 -各 3 カ所／館外 -4 カ所 機材：環境モニター（文化財虫害研究所） 2.0未満は酸性、上回るとアルカリ性	収蔵部門…1.0 ～ 1.5 展示部門…2.0 ～ 2.5 研究一般…1.0 ～ 2.0 館外 …1.0	収蔵部門…1.0 ～ 1.5 展示部門…2.0 研究一般…2.0 館外 …1.0 ～ 2.0	収蔵庫の酸性環境の改善はなされて いない。
7. 褪色調査	収蔵展示部門 -5 カ所 館指定 機材：色彩色差計（ミノルタ製）	—	企画 A-1/ 保管庫…0.79, 2.40 常設 A,B,C…1.77, 2.07, 2.34	褪色の徴候はみられない。
8. 照度調査	収蔵部門 -11 カ所／展示部門 -21 カ所 研究一般部門 -2 カ所／館外 -4 カ所 機材：照度計 HI0KI3423（日置電機） 相対分光応答度波長域 450 ～ 700nm	収蔵部門…110 ～ 860 lx 展示部門…9.9 ～ 280 研究一般…357 ～ 1195 館外 …84,600 ～ 100,800	収蔵部門…108 ～ 299 lx 展示部門…19.4 ～ 438 研究一般…659 ～ 3,400 館外 …14,530 ～ 26,700	照度計を水平にして計測している。 壁面照度ではない。
9. 紫外線調査	測定場所は照度調査に同じ 機材：紫外線強度計 UM-1（ミノルタ製） 測定波長域 220 ～ 390nm	収蔵部門…0.000 mW/cm ² 展示部門…0.000 研究一般…0.000 ～ 0.049 館外…3.000 ～ 4.060	収蔵部門…0.000 mW/cm ² 展示部門…0.000 研究一般…0.018 ～ 0.101 館外 …0.700 ～ 1.250	収蔵、展示部門とも紫外線は計測されなかった。

考 察：

タカラダニの発生は昨年に続き減少傾向にある。

収蔵庫の酸性環境、チャタテムシの生息など、例年の懸案は解決されていない。

温湿度の計測は、計測場所により数値の変動に差が生じるものであるが、それにしても変化が大きい。

◆美術作品等の修復

当館では長期的な計画に基づき、毎年定期的な収蔵作品の修復を行い、より良好な状態を維持できるようつとめている。2007年度は、昨年に引き続き懸案であった斎藤清版画作品の修復、額装を行った。

修復・額装者の選定にあたっては、美術作品の修復・額装が高度な専門性と技術を要するため、識者の意見や他館での実績を加味して選考した者各2名ずつによる見積合わせとした。見積価格の多寡とともに、当館提出の仕様書に即して、具体的にどのような修復・額装を行うつもりであるかを意見交換して実施者を選定した。作業は当館で行い、その記録を報告書に反映した。本稿はそれによる。

- ・修復者：小林嘉樹（小林絵画保存修復工房）
- ・額装者：飯塚 深（額縁工房並木）
- ・記録：堀 宜雄（当館主任学芸員）

また、保田春彦の木彫作品にかびが認められたため、藤原徹（東北芸術工科大学教授）による応急処置を行った。

□修復作品と概要 昨年度年報を参照のこと



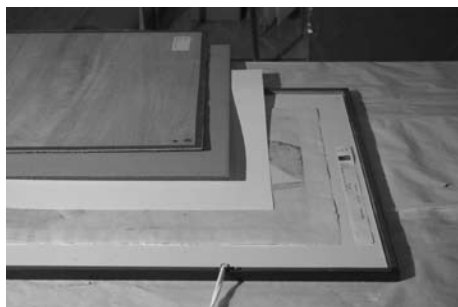
1. 古い額装。



2. 斜光線による紙の波打ち状態。



3. 同、裏面。



4. 古い額装の構成。



5. 紙の透かし



6.～8. 藤原徹氏による、保田春彦作品のクリーニング、かび除去作業。

管 理

◆美術品の貸出

□ 2007 年度貸出作品一覧（※は寄託作品）

○福島県立美術館名品展 山形美術館 2007 年 4 月 6 日～5 月 6 日

1	国吉康雄	婦人と子供
2	ポール・ゴーギャン	ブルターニュの子供
3	ベン・シャーン	恐怖の夜の町
4	ベン・シャーン	創造のアルファベット
5	カミーユ・ピサロ	エラニーの菜園
6	クロード・モネ	ジヴェルニーの草原
7	アンドリュウ・ワイエス	ドイツ人の住むところ
8	アンドリュウ・ワイエス	そよ風
9	アンドリュウ・ワイエス	冬の水車小屋
10	今村紫紅	瀬田風景
11	上野泰郎	人間賛美
12	大山忠作	O 先生
13	小茂田青樹	薫房
14	勝田蕉琴	煙る小雨
15	酒井三良	江南春色
16	下村観山	寒空
17	須田■中	篝火
18	橋本閑雪	倪雲林
19	速水御舟	女二題其一
20	速水御舟	女二題其二
21	平福百穂	赤茄子と芋
22	福田豊四郎	春を待つ
23	安田靉彦	茶室
24	横山 操	闇迫る
25	石井柏亭	水車場
26	瑛九	建物
27	岸田劉生	自画像
28	木村莊八	樹の下に遊んでいる子供
29	関根正二	一本杉の風景
30	寺田政明	谷中風景
31	長谷川昇	裸婦
32	松本竣介	駅
33	村山槐多	庭園の少女
34	安井曾太郎	ターブルの上
35	吉井 忠	赤い風景

36	万鉄五郎	庫
37	恩地孝四郎	母と子
38	恩地孝四郎	顔
39	恩地孝四郎	水浴
40	川上澄生	バラとパイプ
41	斎藤 清	凝視（猫）
42	斎藤 清	ミルク
43	斎藤 清	さくらんぼ
44	斎藤 清	パンジー
45	斎藤 清	競艶
46	浜口陽三	14 のさくらんぼ
47	浜田知明	初年兵哀歌（歩哨）
48	岡村宇太郎	舞妓図
49	勝田蕉琴	出城釈迦
50	酒井三良	雪に埋もれつつ正月はゆく
51	根上富治	笛
52	福田豊四郎	ふるさとへ帰る
53	山口華楊	畑
54	恩地孝四郎	自画像 D（白和服）
55	岸田劉生	静物（白き花瓶と台皿と林檎四個）
56	小出梢重	けしの花
57	斎藤義重	作品 13
58	関根正二	姉弟
59	関根正二	自画像
60	堂本尚郎	コンポジション
61	野田英夫	牛乳ワゴン
62	長谷川利行	浅草の女
63	前田寛治	裸婦
64	山口長男	垣
65	山田正亮	Work D-321
66	加納光於	星・反芻学
67	駒井哲郎	束の間の幻影
68	長谷川潔	玻璃球のある静物
69	恩地孝四郎・田中恭吉・藤森静雄	『月映』Ⅳ 全 14 点
70	谷中安規	『方寸版画』創刊号 全 10 点

○大回顧展モネ 国立新美術館 2007 年 4 月 7 日～7 月 2 日（会期後半 5 月 23 日～7 月 2 日に出品）

71	クロード・モネ	ジヴェルニーの草原
----	---------	-----------

○生誕 100 年 斎藤清展 青梅市立美術館 2007 年 7 月 21 日～9 月 2 日
北海道立釧路芸術館 2007 年 9 月 15 日～11 月 5 日
〔秋田県立近代美術館 2008 年 4 月 26 日～6 月 15 日〕

72	斎藤 清	少女
73	斎藤 清	子供
74	斎藤 清	郷の稚児
75	斎藤 清	会津の冬（窪）
76	斎藤 清	会津の冬（御母堂）
77	斎藤 清	会津の冬（坂下）
78	斎藤 清	鏡
79	斎藤 清	鏡（自画像）
80	斎藤 清	北海の魚市
81	斎藤 清	選炭
82	斎藤 清	赤い花

83	斎藤 清	凝視（猫）
84	斎藤 清	椿
85	斎藤 清	港・小樽
86	斎藤 清	ミルク
87	斎藤 清	みろく
88	斎藤 清	赤い実
89	斎藤 清	凝視（花）
90	斎藤 清	直子
91	斎藤 清	ヌード
92	斎藤 清	ヌード（B）
93	斎藤 清	無我

94	斎藤 清	凝視
95	斎藤 清	凝視 (二匹の猫)
96	斎藤 清	ジェラシー
97	斎藤 清	土器 (A)
98	斎藤 清	会津の冬 (B)
99	斎藤 清	ハニワ
100	斎藤 清	土器とハニワ
101	斎藤 清	仏陀・飛鳥 (A)
102	斎藤 清	支那寺, 長崎
103	斎藤 清	門 (支那寺)、長崎
104	斎藤 清	館
105	斎藤 清	雨のミシガン
106	斎藤 清	憩い, メキシコ
107	斎藤 清	石庭
108	斎藤 清	野良犬, メキシコ
109	斎藤 清	白磁
110	斎藤 清	会津の冬
111	斎藤 清	唐招提寺, 奈良 (B)
112	斎藤 清	唐招提寺, 奈良 (D)
113	斎藤 清	土偶
114	斎藤 清	仏陀, 阿修羅, 奈良 (A)
115	斎藤 清	仏陀, 阿修羅, 奈良 (C)
116	斎藤 清	マンジュシャゲ・プロフィール
117	斎藤 清	憩い, パリ
118	斎藤 清	教会, フランス (A)
119	斎藤 清	凝視, モデル, パリ (A)
120	斎藤 清	京都の壁 (B)
121	斎藤 清	ショップガール・パリ
122	斎藤 清	ノートルダム, パリ (B)
123	斎藤 清	本屋, セーヌ, パリ
124	斎藤 清	パリ (3)
125	斎藤 清	舞妓, 京都 (L)
126	斎藤 清	舞妓, 京都 (S)
127	斎藤 清	グリニッチビレッジ (ニューヨーク)
128	斎藤 清	シグナル (A)
129	斎藤 清	セントラル公園, ニューヨーク
130	斎藤 清	アネモネ
131	斎藤 清	セーヌ, パリ (B)
132	斎藤 清	猫 (1)
133	斎藤 清	猫 (5)
134	斎藤 清	メキシコ (B)
135	斎藤 清	雪のボストン
136	斎藤 清	キラウエア, ハワイ (C)
137	斎藤 清	障子 (D)
138	斎藤 清	パニヤンツリー, ハワイ (A)
139	斎藤 清	パンジー
140	斎藤 清	嵯峨, 京都 (B)
141	斎藤 清	茶室
142	斎藤 清	ニューメキシコ
143	斎藤 清	タヒチ (A)
144	斎藤 清	タヒチ (B)
145	斎藤 清	ヌード (C)
146	斎藤 清	ヌード (G)
147	斎藤 清	冬のパリ (C)
148	斎藤 清	モンマルトル, パリ (B)
149	斎藤 清	佐藤首相肖像
150	斎藤 清	印度 (B)
151	斎藤 清	印度 (C)
152	斎藤 清	影
153	斎藤 清	会津の冬 (14)
154	斎藤 清	ヌード (A)
155	斎藤 清	会津の冬 (1)
156	斎藤 清	会津の冬 (3)
157	斎藤 清	会津の冬 (17)

158	斎藤 清	会津の冬 (18)
159	斎藤 清	会津の冬 (19)
160	斎藤 清	柱, 京都 '70 (C)
161	斎藤 清	円覚寺, 鎌倉 (B)
162	斎藤 清	柱, 京都 (D)
163	斎藤 清	夢 (B)
164	斎藤 清	会津の家 (A)
165	斎藤 清	浄智寺, 鎌倉
166	斎藤 清	六月, 鎌倉 (B)
167	斎藤 清	柿の会津 (2)
168	斎藤 清	競艶
169	斎藤 清	猜疑
170	斎藤 清	初秋, 会津
171	斎藤 清	門, 鎌倉 (F)
172	斎藤 清	会津の家 (H)
173	斎藤 清	会津の冬 (21)
174	斎藤 清	月下美人 (A)
175	斎藤 清	慈愛
176	斎藤 清	稔りの会津 (2)
177	斎藤 清	稔りの会津 (3)
178	斎藤 清	ランブ
179	斎藤 清	会津の冬 (26)
180	斎藤 清	慈愛 (E)
181	斎藤 清	会津の冬 (38)
182	斎藤 清	只見川, 会津柳津 (1)
183	斎藤 清	只見川, 会津柳津 (2)
184	斎藤 清	椿
185	斎藤 清	霊峰 (1)
186	斎藤 清	霊峰 (15), 晴天なり
187	斎藤 清	霊峰 (18), 秋 (B)
188	斎藤 清	会津の冬 (50)
189	斎藤 清	会津の冬 (51)
190	斎藤 清	会津の冬 (55)
191	斎藤 清	会津の冬 (57)
192	斎藤 清	春の鎌倉, 甘縄神明宮
193	斎藤 清	扉, 英勝寺, 鎌倉
194	斎藤 清	会津の冬 (67) 坂下立木観音
195	斎藤 清	会津の冬 (71) 若松
196	斎藤 清	あれっ 三姿
197	斎藤 清	地の幸
198	斎藤 清	会津の冬 (85) 坂下町・宇内 (4)
199	斎藤 清	初夏の舞
200	斎藤 清	会津の冬 (93) 金山町
201	斎藤 清	秋模様
202	斎藤 清	かすみ 慈愛
203	斎藤 清	会津の冬 (97) 金山町・大志
204	斎藤 清	風
205	斎藤 清	野仏 (田代) (1) [墨画]
206	斎藤 清	野仏 (田代) (4) [墨画]
207	斎藤 清	秋の只見 [墨画]
208	斎藤 清	会津の冬 (8) 川井 [墨画]
209	斎藤 清	会津の冬 (3) 西会津・関根 [墨画]
210	斎藤 清	会津の冬 (5) 西会津・牧 [墨画]
211	斎藤 清	会津の冬, 西会津・下安座 [墨画]
212	斎藤 清	会津の冬, 三島町・滝谷 [墨画]
213	斎藤 清	会津の冬, 柳津・大野 (1) [墨画]
214	斎藤 清	会津の冬, 高田・下馬場 [墨画]
215	斎藤 清	会津の冬, 坂下町・気多ノ宮 (1) [墨画]
216	斎藤 清	会津の冬, 喜多方・南町 [墨画]
217	斎藤 清	会津の冬, 柳津駅 [墨画]
218	斎藤 清	会津の冬, 若松・新横町 [墨画]
219	斎藤 清	憩い, パリ [スケッチ]
220	斎藤 清	教会 [スケッチ]
221	斎藤 清	凝視, パリ [スケッチ]

222	斎藤 清	ノートルダム [スケッチ]
223	斎藤 清	パリ [スケッチ]
224	斎藤 清	本屋, セーヌ, パリ [スケッチ]

○第 23 回平櫛田中賞受賞記念 保田春彦展 日本橋高島屋 2007 年 7 月 25 日～ 31 日
井原市立田中美術館 2007 年 10 月 5 日～ 11 月 25 日

225	保田春彦	季節の残像 1
226	保田春彦	季節の残像 2
227	保田春彦	※季節の残像 3
228	保田春彦	季節の残像 4
229	保田春彦	季節の残像 5
230	保田春彦	季節の残像 6
231	保田春彦	季節の残像 7
232	保田春彦	季節の残像 8
233	保田春彦	季節の残像 9

○「水のかたち」展 茨城県近代美術館 2007 年 7 月 28 日～ 9 月 24 日
234 池田遙邨 大漁

○美術に見る花火—広重から現代まで— いわき市立美術館 2007 年 8 月 3 日～ 9 月 2 日
235 清宮質文 葬送の花火

○「移動美術館 日本近代美術の名品展」小野町ふるさと文化の館 2007 年 9 月 1 日～ 17 日

236	勝田 蕉琴煙る小雨
237	岡村宇太郎舞妓図
238	太田 秋民女
239	猪巻 清明はさみ将棋
240	大山 忠作 O 先生
241	黒沢 吉蔵起重機
242	中野 蒼穹爽晨
243	松本 栄大王崎
244	太田 正弘雲烟の中
245	結城 天童阿武隈川源流
246	斎藤 清会津の冬 八木沢 (2)
247	高橋 由一栗子山昔時景
248	関根 正二一本杉の風景
249	岸田 劉生静物 (白き花瓶と台皿と林檎四個)
250	恩地孝四郎自画像 D (白和服)
251	石井 柏亭水車場
252	佐藤 辰治饗宴
253	佐藤 辰治かんのんを守る鳥
254	佐藤 辰治作品 1
255	佐藤 辰治古代の祈り
256	佐藤 辰治キヤソワリ (5)
257	前田 常作ロック街 (白)
258	元永 定正作品 (1)
259	土橋 醇星空
260	齋藤 正夫曲
261	中谷 泰炭鉱町
262	寺田 政明対話
263	吉井 忠老農夫
264	若松光一郎北国の記念碑
265	鎌田 正蔵マイパターン 1970

○創画会 60 年展 日本橋高島屋 2007 年 9 月 5 日～ 9 月 15 日
京都高島屋 2007 年 9 月 26 日～ 10 月 8 日
田辺市立美術館 2007 年 10 月 20 日～ 12 月 24 日
茨城県天心記念五浦美術館 2008 年 1 月 2 日～ 2 月 11 日

266	太田正弘	北壁
267	菊地養之助	仮面の塔

○生誕 100 年記念 渡部菊二展 喜多方市美術館 2007 年 10 月 20 日～11 月 18 日

268	渡部菊二	たそがれ
269	渡部菊二	裏街
270	渡部菊二	人形売りの少女
271	渡部菊二	新聞売り
272	渡部菊二	奏でる女
273	渡部菊二	夏の女
274	渡部菊二	奈良植物園
275	渡部菊二	肩掛けの女
276	渡部菊二	手袋
277	渡部菊二	勤労の娘たち
278	渡部菊二	絵を描く人々
279	渡部菊二	木瓜を持つ女
280	渡部菊二	水辺
281	渡部菊二	水辺微風
282	渡部菊二	耕す家族
283	渡部菊二	正月と少女
284	渡部菊二	編物をする女
285	渡部菊二	夏の子
286	渡部菊二	スケッチをする少女
287	渡部菊二	母と子

○田園讃歌—近代絵画に見る自然と人間 埼玉県立近代美術館 2007 年 10 月 27 日～12 月 16 日
〔山梨県立美術館 2008 年 4 月 19 日～6 月 1 日〕

288	酒井三良	田園秋色図
-----	------	-------

○Yuasa Joji による湯浅譲二展 郡山市立美術館 2007 年 11 月 3 日～12 月 16 日

289	駒井哲郎	束の間の幻影
290	マックス・エルンスト	海と雨（『博物誌』より）
291	マックス・エルンスト	雪の結晶模様のショール（『博物誌』より）
292	マックス・エルンスト	地震（『博物誌』より）

○小野幸吉展 本間美術館 2007 年 11 月 14 日～12 月 24 日

293	関根正二	姉弟
294	関根正二	一本杉の風景
295	関根正二	チューリップ

○火—歌会始御題によせて— 式年遷宮記念神宮美術館 2008 年 2 月 20 日～3 月 23 日

296	須田■中	篝火
297	酒井三良	左義長

○水彩画の魅力—風景・幻想・物語— 姫路市立美術館 2008 年 3 月 1 日～3 月 30 日

298	丸山晚霞	溪流
299	三宅克己	風景
300	春日部たすく	落日
301	春日部たすく	死
302	渡部菊二	人形売りの少女
303	渡部菊二	勤労の娘たち

○フランス近代絵画のながれ 奥田元宋・小由女美術館 2008 年 3 月 14 日～5 月 25 日
〔ハウステンボス美術館 2008 年 7 月 26 日～9 月 7 日〕
〔秋田市立千秋美術館 2008 年 9 月 13 日～10 月 26 日〕

304	カミーユ・ピサロ	エラニーの菜園
-----	----------	---------

運営・組織

◆観覧者数一覧（2008年3月31日現在）

展 覧 会 名		開 催 期 間	有 料														無料		観覧 者 総計
			個 人				団 体				着物 デー 個人	年間観覧券 * 1				有料 合計	前売 り券 (推定)	無料 ・ 招待等	
			一般 ・大学	高校	小・中	小計	一般 ・大学	高校	小・中	小計		一般 ・大学	高校	小・中	小計				
常 設 展	第1期～第4期	4.7～3.23 (295日間)	5,655			5,655	689			689					6,344		2,668	9,012	
	夜間開館 ※内数	8.7～12 (6日間)															54	54	
	特集展示「シャガール展」 ※内数	6.9～7.1 (20日間)	1,706			1,706	168			168					1,874		409	2,283	
	移動美術館（小野町 ふるさと文化の館）	9.1～17 (17日間)																590	
	企画観覧券で 常設展を観覧	通 年															22,578	22,578	
	免除者(100/100) 学校教育活動	通 年																	
	免除者(50/100) 県又は市町村主催	通 年																	
	無料入館	5.5 (こどもの日)															258	258	
	〃	8.21 (県民の日)															273	273	
	〃	9.17 (敬老の日)															308	308	
	〃	11.3 (文化の日)															770	770	
	小中高無料入館 小	通 年															4,327	4,327	
	小中高無料入館 中	通 年															692	692	
	小中高無料入館 高	通 年															1,130	1,130	
	小中高無料入館 準ず	通 年															5	5	
小 計			5,655			5,655	689			689					6,344		33,009	39,353	
企 画 展	1 鍋島展	4.7～5.20 (39日間)	6,944	30	92	7,066	227	1	2	230		500		5	505	7,801		2,286	10,087
	2 おもちゃ展	7.14～9.17 (57日間)	6,812	301	2,390	9,503	287	21	935	1,243		327	1	5	333	11,079		3,750	14,829
	3 上村松園展	10.6～11.11 (32日間)	23,621	72	261	23,954	659		183	842	381	757		2	759	25,936	4,692	4,285	34,913
	4 生誕百年 斎藤清展	11.20～1.20 (47日間)	8,372	64	461	8,897	404		608	1,012		588	1	5	594	10,503	2,137	2,545	15,185
	5 ドーミエ版画展	2.16～3.23 (31日間)	1,661	68	111	1,840	51	70	28	149		316		8	324	2,313		727	3,040
	小 計			47,410	535	3,315	51,260	1,628	92	1,756	3,476	381	2,488	2	25	2,515	57,632	6,829	13,593
合 計			53,065	535	3,315	56,915	2,317	92	1,756	4,165	381	2,488	2	25	2,515	63,976	6,829	46,602	117,407

* 1 年間観覧券で常設展を観覧の場合、常設の有料合計に含めない。

◆ 2007 年度決算内訳

<歳入>

科目（款・項・目・節）	予算額（千円）
使用料及び手数料	22,702
└ 使用料	22,702
└ 行政財産使用料	2,154
└ 土地使用料	90
└ 建物使用料	2,064
└ 教育使用料	20,548
└ 美術館使用料	20,548
財産収入	3,069
└ 財産売払収入	3,069
└ 物品売払収入	3,069
諸収入	13,195
└ 雑入	13,195
計	38,966

<歳出>

科目（款・項・目・節）	最終予算額（千円）
教育費	219,169
└ 教育総務費	7,839
└ 事務局費	7,779
└ 報酬	7,344
└ 職員手当（児童手当）	130
└ 共済費	305
└ 財務管理費	60
└ 交際費	50
└ 使用料及び賃借料	10
└ 社会教育費	211,330
└ 美術館費	211,330
└ 報酬	73
└ 報償費	1,873
└ 旅費	3,967
└ 需用費	74,250
└ 食糧費	215
└ 役務費	7,042
└ 委託料	92,217
└ 使用料及び賃借料	19,100
└ 備品購入費	1,027
└ 負担金・補助及び交付金	11,528
└ 公課費	38
労働費	2,182
└ 雇用対策費	2,182
└ 緊急対策費	2,182
└ 共済費	238
└ 賃金	1,944
└ 委託料	—
計	221,351

◆関係法規

A 福島県立美術館条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の美術に対する知識及び教養の向上を図るため、福島県立美術館(以下「美術館」という。)を設置する。

(位置)

第2条 美術館は、福島市森合字西養山1番地に置く。

(業務)

第3条 美術館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 美術館及び美術に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 美術に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 美術に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。
- 4 前3号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 美術館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 美術館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙および飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項。

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するものに対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者。
- 2 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、または汚損するおそれのある者。
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者。

(職員)

第9条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所用の職員を置く。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附則 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

附則 (平成11年12月24日条例第92号)
この条例は、平成12年4月1日から施行する。
附則 (平成15年3月24日条例第52号)
この条例は、平成15年4月1日から施行する。

別表(第4条関係)

区 分	普通観覧料の額 (一人あたり)		特別観覧料の額	年間観覧料の額 (同一人が有効期間内に利用する場合)
	個 人	団 体		
一般(大学生を含む)	260円	210円	その都度知事が定める額	3,600円の範囲内で知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者	—	—	その都度知事が定める額	2,160円の範囲内で知事が定める額
中学生及び小学生	—	—	その都度知事が定める額	1,440円の範囲内で知事が定める額

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは特別の企画による展示品を観覧する場合(常設展の展示品を併せて観覧する場合を含む。)の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、二十人以上の団体をいう。

B 福島県立美術館運営協議会条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、福島県立美術館(以下「美術館」という。)の適正な運営を図るため、福島県立美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員会の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附則 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

C 福島県立美術館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

福島県立美術館条例(昭和59年福島県条例第33号)第5条、第6条ただし書及び別表の規定による知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附則 この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

D 福島県立美術館条例施行規則

(休館日)

第1条 福島県立美術館（以下「美術館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（次号において「休日」という。）に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 1月1日から同月4日まで。

四 12月28日から同月31日まで。

2 美術館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 美術館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があるとみとめるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第3条 館長は、福島県立美術館条例（昭和59年福島県条例第33号。以下「条例」という。）第4条の規定により観覧料を納入した者（年間観覧料を納入した者（以下「年間観覧者」という。）を除く。）に対し、観覧券（第1号様式）を公布するものとする。

(年間観覧者に係る入館手続)

第3条の2 館長は、年間観覧者に対し年間観覧券（第1号様式の2）を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券を交付した日から最初に到来する3月31日までとする。

2 年間観覧者は、入館する際に有効な年間観覧券を提示するものとする。

3 年間観覧券の利用は、同一人に限るものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
一 大学生、（これに準ずる者として福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める者を含む。）及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生（これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。）の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
二 県又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の百分の五十に相当する額（引率者にあつては全額）
三 国民の祝日に関する法律第二条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
四 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき	条例別表に定める普通観覧料の額の全額

五 その他免除することが公益上
適当と認めるとき。

教育長が別に定める金額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の前の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあつては10日前までに観覧料免除申請書（第2号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（第3号様式）を交付するものとする。（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

一 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。（観覧しようとする者が年間観覧者であるときを除く。）全額

二 その他やむを得ない理由があると認めるとき。 教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（第4号様式）に観覧料を添えて、館長に提出しなければならない。

(美術品等の特別利用)

第6条 美術館が所蔵し、又は寄託を受けている美術品等を学術上の研究その他のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

(教育長への委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附則 この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

附則（平成14年3月26日 教育委員会規則第13号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附則（平成15年3月24日 教育委員会規則第2号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

第1号様式（第3条関係）

観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立美術館	観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立美術館
------------------------------------	------------------------------------

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

第1号様式の2（第3条の2関係）

年間観覧券	(交付番号) (有効期間) ご利用に際して 1 福島県立美術館が主催する展覧会のみ有効です。 2 下記に署名されたご本人以外の方は使用できません。 3 後購入後の紛失などによる再発行はいたしません。 (氏 名) (学校名) (学年) 福島県立美術館
-------	--

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

E 福島県立美術館における美術品等の貸出し及び写真撮影に関する取扱要領

1 趣旨

(1) この要領は、財産の交換・譲与・無償貸付等に関する条例（昭和 39 年福島県条例第 22 号）第 7 条、福島県財務規則（昭和 39 年福島県条例第 17 号。以下「財務規則」という。）第 156 条、福島県立美術館条例（昭和 59 年福島県条例第 33 号）第 7 条及び福島県立美術館条例施行規則（昭和 59 年福島県教育委員会規則第 12 号）第 7 条の規定により、福島県立美術館（以下「館」という。）が所蔵し、又は寄託を受けている美術品及び美術資料（以下「美術品等」という。）の貸出し及び写真撮影等（以下「撮影」という。）の取り扱いに関する基準及び手続きを定めるものとする。

(2) 美術品等が福島県美術品等取得基金（以下「基金」という。）所有のものであるときは、昭和 59 年 12 月 28 日付 59 教財第 513 号、福島県教育庁財務課長通知により、美術品等の貸出しの手続きは館長の依頼により基金管理者が行うものとするが、美術品等の貸出しの基準及び撮影については、この要領を準用するものとする。

2 美術品の貸出し

(1) 貸出しの基準

ア 美術品等の貸出しは、国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、その他館長が特に必要と認めたものに対して行うものとする。

イ 美術品等の貸出期間は、1 年を超えてはならない。

ウ 美術品等の利用目的及び管理上の理由から貸出しをすることが適当でないと認めるときは、貸出しを行わないものとする。

(2) 貸出しの手続き

ア 学芸課は、美術品等の貸出しをする場合には、貸出しを受けようとする者（以下「借受者」という。）から物品借受申請書（財務規則第 102 号様式。以下「申請書」という。）を提出させるものとする。ただし、借受者の利用目的が展覧会の展示である場合には、次の書類を提出させなければならない。

(ア) 展覧会の趣旨及び企画内容を明記した書類

(イ) 美術品等が寄託を受けているものである場合には、寄託者の貸出しを承認する旨の書類

(ウ) その他必要と認める書類

イ 学芸課は、借受者から申請書の提出を受けたときは、美術品等の利用目的、利用期間及び利用場所等について十分に検討を加え、貸出しの適否を審査するものとする。

ウ 学芸課は、この要領 2 の (2) のイの審査の結果、美術品等の貸出しをすることが適当と認めたときは、物品貸付調書（財務規則第 10 号様式）により当該貸出しについて館長の決裁を受けるとともに、総務課に関係書類を送付するものとする。

エ 総務課は、この要領 2 の (2) のウの書類の送付を受けたときは、速やかに福島県教育庁生涯学習領域（以下「生涯学習領域」という。）に対し美術品等の貸出しについて必要な措置の請求（別紙様式第 1 号）をしなければならない。

オ この要領 2 の (2) のアからエまでの規定は、美術品等が基金所有のものである場合に準用する。

(3) 貸出しの決定

ア 総務課は、生涯学習領域から美術品等の貸出しについて必要な措置が完了した旨の通知を受けたときは速やかに学芸課に対して、その旨連絡するとともに関係書類を送付するものとする。

イ 学芸課は、この要領 2 の (3) のアの通知を受けたと

きは借受者に対して、貸出し承認の通知（別紙様式第 2 号）をするものとする。

ウ 美術品等が基金所有のものであるときは、当該美術品等の貸出しの決定及び借受者に対する貸出し承認の通知は、基金管理者が行うものとする。

エ 美術品等の貸出しは、無料とする。

(4) 貸出しの条件

美術品等の貸出しをする場合には、次の条件を付すものとする。

ア 美術品等は利用目的以外の用途に利用しないこと。

イ 美術品等の利用権を第 3 者に譲渡しないこと。

ウ 美術品等は常に善良な管理者の注意をもって管理保管すること。

エ 美術品等の棄損・亡失等が生じた場合は、速やかにその旨を館に報告し、その指示により損害を賠償し、又はこれを原状に回復すること。

オ 美術品等の輸送、その他貸出しに要する経費は、借受者が負担すること。

カ 図録作成等のため美術品等の写真撮影をする場合は、この要領 3 により別途手続を行うこと。

キ 美術品等の搬出または搬入に対して借受者は責任者を立会させること。

ク その他必要と認めること。

(5) 美術品等の引渡し

ア 館長（物品管理者）は、美術品等の貸出しを実行するときは、当該美術品等の現状を確認し、総務課長（物品取扱員）に対し、貸付物品払出通知書（財務規則第 102 号様式）により、その引渡しを指示するものとする。

イ 総務課長（物品取扱員）は、館長（物品管理者）から貸出し美術品等の引渡しの指示を受けたときは、借受者に対して当該美術品等の受領を証する書面と引換えに、これを引渡すものとする。

ウ 総務課長（物品取扱員）は、美術品等を引渡したときには物品貸付台帳（財務規則第 140 号様式）に所定の事項を記載し整理するものとする。

エ 美術品等の引渡し場所は原則として館とする。

(6) 美術品等の貸付引受け

この要領 2 の (5) のアからエまでの規定は、貸出しを行った美術品等が返納された場合の受入れの手続きについて準用する。この場合「美術品等の貸出しを実行」とあるのは「貸出しを行った美術品等を引受け」と、「貸付物品払出通知書」とあるのは「貸付物品受入通知書」と、「引渡し」とあるのは「引受け」とそれぞれ読み替えるものとする。

3 美術品等の撮影

(1) 撮影承認の基準

ア 美術品等の撮影は国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、出版社、その他館長が特に必要と認めたものに対して承認するものとする。

イ 撮影により損傷を生ずるおそれがある美術品等は撮影を認めないものとする。

ウ 撮影の時期が美術品等の管理上、適当でないと認められる場合は、その時期を変更し、若しくは撮影を認めないものとする。

(2) 撮影承認の手続

ア 学芸課は、美術品等の撮影の承認をする場合には、撮影を希望する者（以下「撮影者」という。）から美術品等撮影承認願（別紙様式第 3 号。以下「承認願」という。）を提出させるものとする。

イ 美術品等が寄託を受けているものである場合には、寄

託者の撮影を承認する旨の書類を承認願に添付させるものとする。

ウ 学芸課は、撮影者から承認願の提出を受けたときは、撮影の目的、場所、時期、対象美術品等について充分に検討を加え、承認の適否を審査するものとする。

エ 学芸課は、この要領3の(2)のウの審査の結果、美術品等の撮影を承認することが適当と認めたときは、当該撮影の承認について館長の決裁を受けるものとする。

オ 美術品等の撮影料は無料とする。

(3) 撮影承認の通知

学芸課は、この要領3の(2)のエにより撮影承認の決定をしたときは、撮影者に対して撮影承認の通知(別紙様式第4号)をするものとする。

(4) 撮影の条件

美術品等の撮影を承認する場合には、次の条件を付すものとする。

ア 美術品等の撮影は館の職員の指示に基づいて行うこと。

イ 撮影により美術品等を損傷させないこと。

ウ 撮影した写真等は、撮影承認を受けた目的以外に使用しないこと。

エ 撮影の目的が著作権法の適用を受けることとなるときは、必要に応じ、あらかじめ著作権者の了承を得ること。

オ 撮影承認を受けた美術品等の写真を出版物に掲載したときは、当該出版物を館に提出すること。

カ その他必要と認めること。

(5) 補則

ア 撮影の場所は、原則として館とする。

イ 撮影が美術品等の管理上適当でないと認めるときは、館が所有する原版の使用を認めるものとする。

ウ 過去に撮影した写真等の撮影承認の目的外使用については、この要領の適用を受けるものとする。

エ 館所有の原版を複製して使用する場合は、当該複製版をすべて提出することとする。

オ 館所有の原版を使用する際、誤って損傷、亡失させたときは、再撮影に係わる実費を当該申請者に請求することができるものとする。

4 適用

この要領は昭和60年2月9日から適用する。

(平成9年9月福美第65号により一部改正)

F 福島県立美術館美術作品等寄託要領

(趣旨)

1 この要領は、福島県立美術館(以下「館」という。)における美術作品および美術資料(以下「美術品等」という。)の寄託に関し、必要な事項を定めるものとする。

(寄託の申し出)

2 福島県立美術館長(以下「館長」という。)は、美術品等の所有者に依頼して寄託を受けようとする場合には、寄託同意書(別記様式第1号)によって所有者の同意を得なければならない。

(2) 館長の依頼によらないで美術品等の寄託をしようとする者は、寄託申請書(別記様式第2号)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

(受託)

3 館長は、所有者の合意、もしくは所有者からの申込みのあった美術品等の寄託が館の事業のため必要があると認めたときは、これを無償で受託することができる。

(受け入れおよび返還)

4 館長は、所有者から帰宅された美術品等を受領したときは、所有者に対して受託証書(別記様式第3号)を交付するものとする。

(2) 所有者は寄託した美術品等(以下「寄託品」という。)の返還を受けようとするとき、返還を受けようとする日の一ヶ月以上前に返還申請書(別記様式第4号)を館長に提出しなければならない。

(3) 館長は、この要領4の(2)により、所有者に対して寄託品の返還をしようとするときは、受託証書と引き換えに、これを所有者に返還するものとする。

(4) 寄託品の返還を受けようとする者が所有者の代理人であるときは、委任状その他これを証する書面を館長に提出しなければならない。

(寄託期限)

5 美術品等の寄託期間(以下「寄託期間」という。)は2年とする。ただし、特別な理由があるとき、館長はこの期間を短縮することができる。

(寄託期間の更新)

6 館長は所有者の得て寄託期間を更新することができる。

(2) 寄託期間の経過後、所有者から寄託品の返還の請求がない場合は、寄託期間を更新したものとみなす。

(3) 館長は、この要領6の(1)および(2)により寄託期間を更新したときは、所有者に対し更新した受託証書を交付するものとする。

(所有者の変更等)

7 売買、相続等により寄託品の所有者に変更があったとき、または所有者の氏名、名称もしくは住所等に変更があったときは、所有者(所有者が変更した場合は変更後の所有者)は、所有権の移転その他氏名、名称等を証する書類を受託証書に添えて館長に提出し、受託証書の書き換えを受けなければならない。

(受託証書の再交付)

8 所有者は、受託証書を亡失し、または著しく破損したときは、これらの事実を証するにたる書類(破損の場合は、その受託証書)を添えて、速やかに館長に受託証書の再交付を申請しなければならない。

(寄託品輸送経費等の負担)

9 所有者は寄託品の搬入または返還に要する経費等を負担するものとする。ただし、館長が特にその必要がないと認めた場合は、この限りでない。

(寄託品の展示等)

10 館は、寄託品について、展示、研究および撮影等を行い、その結果を公刊することができる。

(2) 館職員以外の者がこの要領10の(1)の行為をしようとするときは、「福島県立美術館における美術品等の貸出しおよび写真撮影等に関する取扱要領」に定めるところにより、所定の手続きを経なければならない。

(寄託品の保存)

11 館長は、寄託品の保存管理およびその取扱いについては、館に所蔵する美術品に準じて行う。

(2) 館は、寄託品を亡失し、または損傷した場合は、その補償をするものとする。ただし、天災、その他不可抗力による場合は、この限りでない。

(その他)

12 この要領に定めるもののほか、美術品等の寄託に関し必要な事項は、館長が定める。

この要領は、昭和60年4月1日より施行する。

◆施設・整備

建築の概要

設計 大高建築設計事務所
 施工 鹿島建設株式会社仙台支店（建築・外観）
 敷地面積 60,500m²
 建築面積 6,471.5m²
 延床面積 9,680.7m²
 建物構造 鉄筋コンクリート造（一部S造・2階建）
 総工費 約49億円（本体、外構含む）

設備の概要

電気設備

- 1- 受変電設備：受電力 1,100W
- 2- 動力設備
- 3- 電灯・コンセント・照明（調光設備：各展示室、調光装置：講堂・講義室各1台）
- 4- 自家発電機設備
- 5- 避雷針
- 6- 電気時計
- 7- 火災報知設備
- 8- 防火扉・防煙設備
- 9- 拡声設備
- 10- インターホン設備
- 11- ITV 設備
- 12- 防犯設備
- 13- ビデオ設備
- 14- 蓄電池設備
- 15- 電話設備

空気調和設備

- 1- 熱源設備：
 展示室・収蔵庫系統＝空気熱源スクルーヒートポンプ、120RT＋熱回収ヒートポンプ30RT 組合せ制御方式、冷水槽 300m³、温水槽 250m³
 一般系統・図書館系統＝灯油だき冷温水発生器 150RT 2台
- 2- 空調設備：単一ダクト方式
 展示室4系統、収蔵庫3系統、ケース内4系統、一般系統7系統（一部フロアコイル併用）
- 3- 換気設備：50系統
- 4- 排煙設備：機械排煙6系統
- 5- 床暖房：2系統
- 6- 自動制御設備：中央監視盤、温湿度監視盤

給排水衛生設備

- 1- 熱源：都市ガス（厨房・実習室・工作修復室）／他は全て電器煮沸器を使用
- 2- 消化系：ハロン消火設備（収蔵庫3系統：共用機械室）／消火栓設備（消火ポンプ1台、屋内消火栓14台、動力ポンプ1台）
- 3- 燻蒸設備：ガスによる殺虫滅菌剤で燻蒸後吸着装置通過、規定濃度以下にして大気放出
- 4- 給水：受水槽 45t（加圧給水）／直結給水
- 5- 排水：屋内は汚水・雑排水の分流式（外部で合流後、市下水道公共マスに接続）

昇降機設備

- 1- 乗用エレベーター：油圧式、750kg 11名乗り 1台
- 2- 荷物用エレベーター：油圧式、最大積載量 3t 1台
- 3- 乗用エレベーター：油圧式、600kg 9名乗り 1台

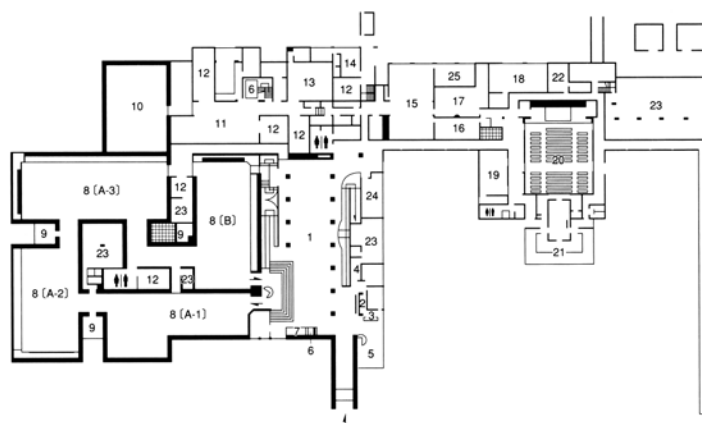
内部仕上の概要

- 1- エントランスホール
 床：御影石バーナー仕上げ（一部長尺塩ビシート張）
 壁：栓練付石綿ケイカル板
 天井：栓練付石綿ケイカル板
 その他：一部床暖房設備
- 2- 収蔵庫
 床：パーケットブロック、ぶな素地
 壁：米杉、矢羽根板張
 天井：米杉、本実目透張
 その他：収納棚、絵画収納ラック
- 3- 企画展示室
 床：長尺塩ビシート張
 壁：合板捨張の上に準不燃合板、特注クロス張
 天井：栓練付パネル
 その他：大型可動壁（幅 8,770mm × 高 3,770mm、11枚）
 固定ケース前可動壁：（幅 1,600mm × 高 4,050mm、延長約 72m）
 固定ケース：（A-2、A-3、B：総延長 72.3m）
- 4- 常設展示室
 床：タフテッドループカーペット
 壁：常設 A- 栓練付ケイカル板
 常設 B- 大理石空積、水磨き仕上げ
 常設 C・D- くるみ練付ケイカル板
 天井：常設 A- 栓練付パネル
 常設 B・C・D- くるみ練付パネル
 その他：固定ケース（常設 A、16.2m）
- 5- 講堂
 床：タイルループカーペット
 壁：くるみ練付石綿ケイカル板
 天井：ビニールクロス張
 その他：座席数：246（うち車椅子席 4）／ステージ：幅 12m × 奥行 3.2m
- 6- 講義室
 床：タイルカーペット
 壁：くるみ練付石綿ケイカル板
 天井：岩綿吸音板
- 7- 実習室
 床：エポキシ系塗床
 壁：モルタル金ゴテ VP
 天井：岩綿吸音板
- 8- 軽食喫茶室
 床：長尺塩ビシート張
 壁：くるみ練付パネル、粒状岩綿吸音材（一部）
 その他：テーブル 44 席
- 9- その他
 搬出入口：ホイストクレーン 2.8t／テーブルリフター
 写真室：電動スクリーン

◆施設配置図

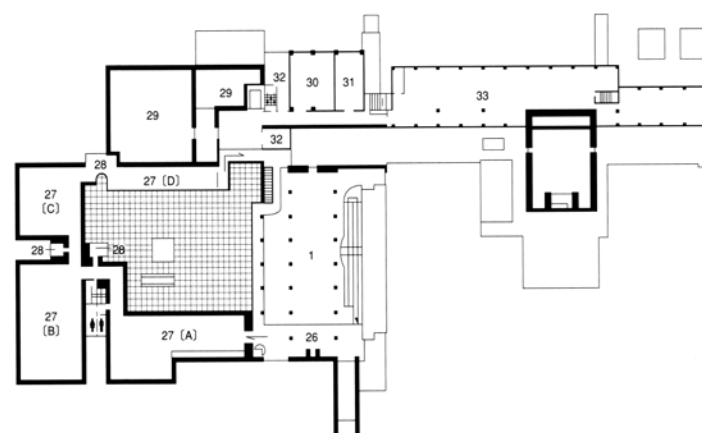
1階

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. エントランスホール | 14. 警備室 |
| 2. 受付案内 | 15. 事務室 |
| 3. ブックショップ | 16. 応接室 |
| 4. ロッカー室 | 17. 研究図書室 |
| 5. 図書コーナー | 18. 実習室 |
| 6. エレベーター | 19. 講義室 |
| 7. ビデオコーナー | 20. 講堂 |
| 8. 企画展示室 | 21. 軽食喫茶室 |
| 9. 休憩室 | 22. 中央監視室 |
| 10. 収蔵庫 A | 23. 機械室 |
| 11. 荷解梱包室 | 24. 館長室 |
| 12. 倉庫 | 25. 副館長室 |
| 13. 写真室 | |



2階

- | |
|-------------|
| 26. ロビー |
| 27. 常設展示室 |
| 28. 休憩室 |
| 29. 収蔵庫 B・C |
| 30. 工作修復室 |
| 31. 会議室 |
| 32. 倉庫 |
| 33. 機械室 |



◆部門別専有面積 (* は県立図書館と共用)

サービス部門	1223.8m²
エントランスホール	817.3m ²
受付案内	(ホールに含む)
ブックショップ	(ホールに含む)
ロッカー室	(ホールに含む)
図書コーナー	(ホールに含む)
ロビー	202.1m ²
*軽食喫茶室	179.0m ²
授乳室・救護室	25.4m ²
展示部門	3064.4m²
企画展示室 A (A-1,2,3)	1380.8m ²
企画展示室 B	431.1m ²
	(企画展示室合計 1811.9m ²)
常設展示室 A	403.1m ²
常設展示室 B	359.1m ²
常設展示室 C	143.8m ²
常設展示室 D	132.8m ²
	(常設展示室合計 1038.8m ²)
展示用具室	141.2m ²
展示用具室 2	72.5m ²
収蔵部門	1365.3m²
収蔵庫 A	280.2m ²
収蔵庫 B	368.7m ²
収蔵庫 C	105.1m ²
一時保管庫	51.8m ²
収蔵庫前室	57.6m ²
搬出入口	65.7m ²
荷解梱包室	188.8m ²
梱包倉庫	77.7m ²

荷扱人控室	29.6m ²
燻蒸室	33.3m ²
工作修復室	106.8m ²
普及部門	654.6m²
*講堂	498.6m ²
講義室	73.9m ²
実習室 (準備室含む)	82.1m ²
研究部門	187.2m²
研究図書室	88.7m ²
写真室	98.5m ²
管理部門	1832.7m²
応接室	48.0m ²
副館長室	34.0m ²
事務室 (総務課・学芸課)	174.0m ²
会議室	73.3m ²
館長室	43.2m ²
事務機械室	16.0m ²
警備室	54.7m ²
更衣室	8.7m ²
受付控室	15.4m ²
給湯室	4.4m ²
倉庫	33.0m ²
*機械室	1266.4m ²
車庫	61.6m ²
その他 (化粧室・廊下・階段等)	1330.8m²

◆福島県立美術館友の会 活動報告

美術を愛好する人達が集い、会員相互の親睦を深めるとともに、美術館活動に協力することを目的とした福島県立美術館友の会が2003年4月に発足した。5年目を迎えた今年も、会員による様々な自主活動が展開された。

□2007年度の事業活動

- ・「将軍家への献上一鍋島 日本の磁器の最高峰」展

(友の会限定) ギャラリートーク参加(26名)

講師：佐治ゆかり(当館主任学芸員)

日時：4月14日(土) 13:00-

会場：美術館企画展示室

- ・第5回福島県立美術館友の会通常総会

日時：5月20日(日) 11:00-

会場：美術館講堂

議事：2006年度事業及び事務報告

2006年度収支決算報告／2006年度監査報告

2007年度事業計画(案)

2007年度収支予算(案)

その他

「2007年度企画展の見どころ」紹介 解説：伊藤 匡(当館学芸課長)

- ・「シャガール《死せる魂》展」

(友の会限定) ギャラリートーク参加(20名)

講師：伊藤 匡(当館学芸課長)

日時：6月23日(土) 13:00-

会場：美術館企画展示室

- ・「夢のかたち おもちゃと模型のワンダーランド」展

(友の会限定) ギャラリートーク参加(11名)

講師：宮武 弘(当館主任学芸員)

日時：7月28日(土) 14:00-

会場：美術館講義室・企画展示室・講義室(ティーパーティー)

- ・第2回友の会会員のための実技講座「野外スケッチー葦の心で描く自然」(11名)

天候に恵まれ真夏の太陽の下、10時から昼食をはさみ15時まで、それぞれのポイントでスケッチを楽しんだ。

講師：久慈伸一(当館主任学芸員)

日時：7月8日(日) 10:00-15:00

会場：阿武隈川畔 御倉邸

- ・福島県立美術館友の会「会報」第7号発行

第7号の友の会会報誌発行

日時：2007年8月

内容：活動報告と予定／美術館を知ろう！実技教室編／美術館を知ろう！学芸員編Ⅱ／これからの活動予定／総会報告、表紙について・他

- ・「上村松園」展

(友の会限定) ギャラリートーク参加(30名)

講師：堀 宜雄(当館主任学芸員)

日時：10月13日(土) 14:00-

会場：美術館企画展示室・講義室(ティーパーティー)

- ・第3回友の会会員のための実技講座「セザンヌに学ぶ静物画」(13名)
講師：後藤 學氏(画家、喜多方市美術館学芸員)
日時：9月29日(土) 13:00- / 30日(日) 10:00-
会場：美術館実習室
- ・2007年度研修旅行
2007年度の研修旅行としてバスで笠間日動美術館と茨城陶芸美術館を訪れた。会員29名参加。
日時：10月21日(日) 8:00-19:00
場所：笠間日動美術館、茨城陶芸美術館
参加：酒井哲朗(当館館長)、荒木康子(当館主任学芸員)
- ・「生誕100年 斎藤清」展
(友の会限定) ギャラリートーク参加(22名)
企画展示室で、展覧会企画学芸員による友の会会員のためのギャラリートークを開催。
その後、講義室にて茶話会を開催し、会員同士の交流を深めた。
講師：吉村有子(当館主任学芸員)
日時：12月9日(日)
会場：美術館企画展示室・講義室(ティーパーティー)



- ・福島県立美術館友の会「会報」第8号発行
第8号の友の会会報誌発行
日時：2008年3月
内容：活動報告と予定／エッセイ特集 私の好きな美術館／次年度企画展予定、表紙について
- ・教養講座「現代美術に親しむ」(40名)
講師：渡辺晃一氏(福島大学人間発達文化学類准教授)
宮武 弘(当館主任学芸員)
日時：3月23日(日) 13:30-16:00
会場：美術館講義室・エントランスホール
- ・ミュージアム・コンサート
「山下裕康チェロコンサート」
新年度友の会会員の募集を企図して、コンサートを開催。200名以上が参加。
その後、演奏者を囲んで友の会主催のティーパーティーを開催した。
日時：3月16日(日) 14:00-17:00
内容：第1部 コンサート
演奏：山下裕康氏
演目：J.S.バッハ「無伴奏チェロ組曲」他
会場：美術館エントランスホール
第2部 ティーパーティー
コンサートの奏者、友の会会員、美術館員間の親睦会
会場：カフェ・ドウ・ミュゼ ムスターシュ

◆福島県立美術館協力会 活動報告

社会の変化とともに美術館の役割や美術館に対する県民の意識もまた変化しており、単に鑑賞するだけの施設でなく、県民がより豊かな生活を送るための学習の場、いわゆる生涯学習時代の文化拠点、憩いの場としての役割が美術館には求められるようになってきている。

こうした趨勢を踏まえて、多くの県民が広く美術に親しみ、美術を楽しむことができる機会を提供することにより、本県美術文化の振興と心豊かな県民の育成に寄与することを目的に「福島県立美術館協力会」が設立され、2004年6月7日付けで特定非営利活動法人（NPO 法人）として認証を受けた。

2008年3月31日現在の会員数は37名（団体20件、個人17名）である。

□協力会の主な活動

- ・美術についての教養を高め、美術を楽しむための活動（美術に関する講演会、講座、コンサート等）
- ・実制作の体験を通して、表現の喜びを味わい、美術に親しむための活動（実技講座、ワークショップ等）
- ・展覧会に関する各種資料、ミュージアム・グッズの作成頒布活動

□特典

- ・会員証の交付
- ・企画展、常設展の優待
- ・展覧会図録の配布
- ・美術館ニュース等の送付
- ・企画展内覧会への招待
- ・協力会各種事業への招待 など

□2007年度の事業活動

- ・「将軍家への献上 鍋島」展 講演会（2007年4月29日）
- ・理事会（5月24日）
- ・総会（5月29日）
- ・「シャガール《死せる魂》展」朗読会（6月30日）
- ・ミュージアム・コンサート（2008年3月16日）
- ・「生誕100年 斎藤清展」図録の製作・販売



講演会（講師：中島誠之助氏）



コンサート（演奏：山下裕康氏）

◆委員会等・組織図

□美術館運営協議会

1. 委員名簿

氏名	所属	任期
久保恵美子	福島県中学校教育研究会美術部専門部安達支部長	2003.1.1-
松本良子	福島県立高校教育研究会美術工芸部会県北支部長	2007.1.1-
高城俊春	財団法人福島県文化振興事業団理事長	2005.1.1-
栗津則雄	いわき市立草野心平記念文学館館長	2003.1.1-
酒井昌之	福島県美術家連盟理事	2007.1.1-
板野裕爾	日本放送協会福島放送局長	2007.1.1-
遠藤由美子	奥会津書房編集長	2007.1.1-
雪山行二	横浜美術館長	2003.1.1-
辻みどり	福島大学行政政策学類教授	2005.1.1-
阿部泰宏	公募による委嘱	2003.1.1-

2. 協議会の開催

日時：2008年2月22日(金) 10:30-12:00

会場：美術館会議室

議事：1) 2007年度事業実績の概要について

2) 2008年度予算の概要

3) 2008年度事業計画の概要について

4) 県立美術館の運営等について

□収集評価委員会

1. 委員名簿

氏名	所属	任期
村田哲朗	町田市立国際版画美術館館長	1996.11.21-
真室佳武	東京都美術館館長	1996.11.21-
尾崎正明	東京国立近代美術館副館長	2003.12.1-
長谷川三郎	宮城県美術館館長	2005.12.1-
山梨俊夫	神奈川県立近代美術館館長	2005.12.1-

2. 委員会の開催

日時：2008年3月4日(火) 14:00-15:30

会場：美術館会議室

議事：1) 2006年度収集作品の報告

2) 2007年度受贈候補作品について

□他館との連携

1. 加盟団体

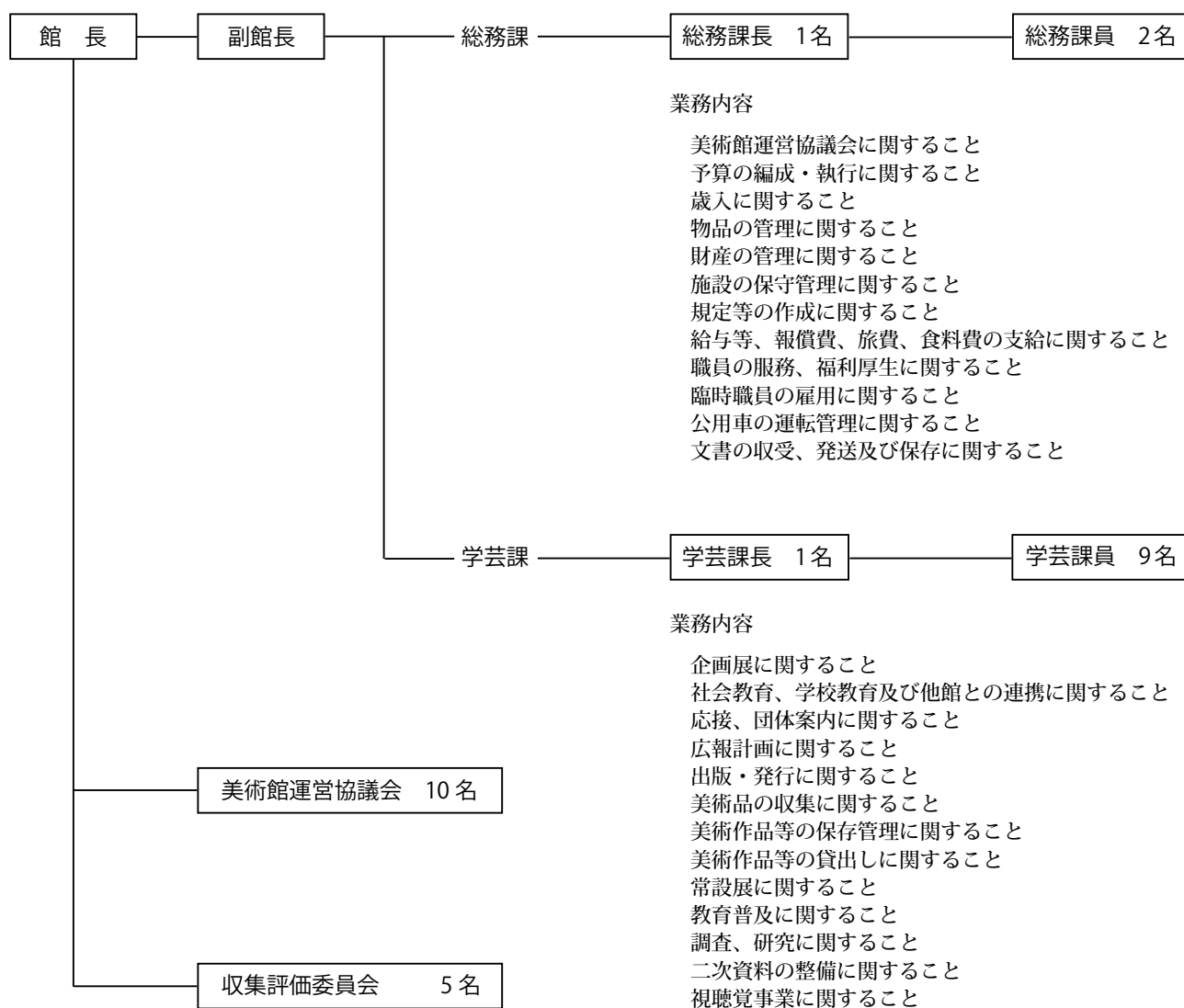
全国美術館会議（理事）、美術館連絡協議会（理事）、日本博物館協会（会員）、日本博物館協会東北支部（監事）、東北地区博物館協会（監事）、東北美術館会議（会員）、福島県博物館連絡協議会（理事）

2. 公務視察等の受入れ

- | | |
|------------------|-------------|
| 1) 公務視察受入 | 0件 |
| 2) アンケート回答・調査協力等 | 5件（文部科学省ほか） |
| 3) 体験学習 | 0件 |

□組織図・職員名簿

1. 組織図



2. 職員名簿 (2008 年 3 月 31 日現在)

館長	酒井 哲朗	(2000.4.1-)
副館長	尾形 敬	(2007.4.1-)
総務課長	阿部 常春	(2007.4.1-)
総務課 主査	渡辺 憲雄	(2005.4.1-2008.3.31)
総務課 同	伊藤 恵美	(2007.4.1-)
学芸課長	伊藤 匡	(文化施設整備室 1983.4.1-)
学芸課 主任学芸員	久慈 伸一	(文化施設整備室 1982.4.1-)
学芸課 同	佐治 ゆかり	(1984.4.1-)
学芸課 同	荒木 康子	(1990.4.1-)
学芸課 同	堀 宜雄	(1989.4.1-)
学芸課 同	吉村 有子	(1990.7.1-)
学芸課 同	宮武 弘	(1992.4.1-)
学芸課 同	増渕 鏡子	(1993.4.1-)
学芸課 同	橋本 淳也	(2005.4.1-)
学芸課 学芸員	佐藤 香里	(2007.4.1-)

□利用案内

1. 開館時間 9:30 ～ 17:00（最終入館は 16:30 まで）
※夜間開館を行うことがあります。
2. 休館日 1) 月曜日（祝祭日をのぞく）
2) 祝祭日の翌日（土日をのぞく）
3) 年末年始（12/28 ～ 1/4）
3. 観覧料 1) 常設展 一般・大学生 260 円（210 円）
※（ ）内は 20 名以上の団体料金
2) 企画展 その都度料金が変わります。
※企画展の料金で常設展もご覧になれます。
※企画展のみの観覧券は発行していません。
※ふくしま教育週間（11 月 1 日～ 7 日、ただし休館日は除く）中は、小・中・高校生は企画展料金も無料。
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は企画展料金が無料（付き添いの方も無料）
4. 常設展無料 1) 子供の日（5 月 5 日）、県民の日（8 月 21 日）、敬老の日（9 月第 3 月曜）、文化の日（11 月 3 日）
2) 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方（付き添いの方も無料）
3) 小・中・高校生（団体の場合、引率者も無料）
5. 常設展減額免除 常設展料金無料 ・大学生が、学校活動の一環で観覧するとき
常設展料金半額 ・公民館や公共団体が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき
※事前申請が必要です。いずれも引率者無料となります。
6. 年間観覧券 常設展示・企画展示ともに、購入より一年間有効
（一般・大学生 3,000 円／高校生 1,800 円／小・中学生 1,200 円）

□交通案内

1. J R 福島駅（東口）より 電車：福島交通飯坂線「美術館図書館前駅下車」下車、徒歩 3 分
バス：9 番バス乗り場より、福島交通もりん 2 コース「県立美術館入口」下車、徒歩 4 分
タクシー：約 5 分
2. 自家用車で 東北自動車道・福島飯坂 I C より約 15 分、福島西 I C より約 20 分
※駐車場 150 台収容
3. 周辺地図



福島県立美術館年報 平成19年度・2007

2009年11月20日 発行

編集・発行 福島県立美術館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

電 話 024-531-5511

ファックス 024-531-0447

ホームページ <http://www.art-museum.fks.ed.jp/>

印 刷 キング印刷株式会社

